

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
哲学の基礎<1>	的場 哲朗	3
哲学の基礎<2>	関口 浩	7
哲学の基礎<3>	瀬戸 一夫	11
倫理学の基礎<1>	的場 哲朗	15
倫理学の基礎<2>	吉原 裕一	19
倫理学の基礎<3>	的場 哲朗	23
文学への招待<1>	太西 雅一郎	27
文学への招待<2>	原 善	31
心理学の基礎<1>	浜村 俊傑	35
心理学の基礎<2>	岩田 淳子	39
心理学の基礎<3>	林 潤一郎	43
自己理解の心理学<1>	富田 悠生	47
自己理解の心理学<2>	林 潤一郎	51
自己理解の心理学<3>	岩田 淳子	55
現代社会と哲学	関口 浩	59
現代社会と倫理学	佐藤 雅男	63
現代社会と宗教	松岡 秀明	67
日本の思想史	須佐 俊吾	71
脳科学と心	山本 愛実	75
こころの健康と臨床	林 潤一郎	79
音楽への招待	西釋 英里香	83
美術への招待	人見 伸子	87
人間と美術	人見 伸子	91
多文化主義と文学	大熊 昭信	95
サブカルチャーと文学	清水 均	99
舞台芸術論	日比野 啓	103
ファッションと文化	和田 早苗	107
映像と文化	滝浪 佑紀	111
映像と人間	北小路 隆志	115
文化人類学の考え方	三吉 美加	119
政治学の基礎<1>	立石 洋子	123
政治学の基礎<2>	立石 洋子	127
経済学の基礎<1>	庄司 俊章	131
経済学の基礎<2>	藤垣 芳文	135
経済学の基礎<3>	山上 浩明	139
社会学と現代<1>	挾本 佳代	143
社会学と現代<2>	金崎 一郎	147
社会学と現代<3>	青山 陽子	151

日本国憲法<1>	小沼 史彦	155
日本国憲法<2>	橋場 典子	159
日本国憲法<3>	橋場 典子	163
市民生活と法I	渡邊 知行	167
市民生活と法II	渡邊 知行	171
現代の国際政治	白鳥 潤一郎	175
日本と世界の経済	大野 正智	179
企業と社会	井上 慶太	183
現代のマスメディア	挾本 佳代	187
コミュニケーションと社会	金崎 一郎	191
社会心理学入門	正木 郁太郎	195
社会と統計	竹内 光悦	199
裁判と社会	橋場 典子	203
科学的に考える(熱と光の科学)	日高 啓晶	207
科学的に考える(物質の科学)	加藤 茂	211
科学的に考える(数の世界)	石井 卓	215
科学的に考える(生命の科学)	麻生 一枝	219
科学的に考える(文系のための数学)	小林 幸夫	223
科学的に考える(文系のための科学実験)	浅野 雅子	227
環境と科学(地球と環境)	宋 苑瑞	231
環境と科学(生命と環境)	池田 威秀	235
物質の究極像	和田 純夫	239
人間と進化	櫻木 晃彦	243
天文学入門	古荘 玲子	247
薬はなぜ効くか	武田 収功	251
身の回りの科学	多田 司	255
科学と哲学	瀬戸 一夫	259
環境論	斉藤 喬士	263
気象と地球環境	財城 真寿美	267

科目名	哲学の基礎 <1>		
教員名	的場 哲朗		
科目ナンバー	1301471010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

現代思想の原点を学びます。テーマとするのは、19世紀の代表的な思想家としてマルクス、ニーチェ、そして20世紀の代表としてウィトゲンシュタイン、ハイデガーです。マルクスは『共産党宣言』、ニーチェは『悲劇の誕生』、そしてウィトゲンシュタインは『論理哲学論考』、ハイデガーは『存在と時間』を紹介します。

現代はともすれば、細かな知識や手ごころな功利性ばかりに目を奪われて、大きな世界観・全体像というものを失う嫌いがありますし、そうした大きなビジョンを避ける傾向もあるように思えてなりません。しかしこれでは、森を歩くのに、目先の木々ばかりを見て自分がいま森の中の何処にいるのかを知らないと同じではないでしょうか。ここに挙げた哲学思想が皆さんに新しい大きな世界観を与えるかどうかはわかりませんが、しかし、現代を見る大きな知的枠組みを提供することは間違いありません。あらためて現代思想の原点を学び直すことにしましょう！

到達目標

- ・ 現代思想の大きな枠組みが理解できる。
- ・ 現代哲学を読むことの楽しさ、発見の喜びが実感できる。
- ・ 混沌とした現代社会の中で何かしら基本となる考え方が発見できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	はじめに 哲学とは何か 私の哲学との出会いを話し、哲学は何を探求し、ほかの学問分野(科学や宗教など)とどこが違うのか、この学問を学ぶことで何が得られるのかを勉強します。リアクションペーパーを提出する。	
	哲学という学問について下調べをしましょう(予習、30分)。新聞などを読み、哲学が現代の様々な問題にどんな風に生かされるかをちょっと考えてみましょう(復習、30分)。	60分
第2回	1、格差はどのように生まれるか？ 貧困の問題をいち早く取り上げ、トマス・ピケティの『21世紀の資本』の先駆をなしたカール・マルクスの生涯と著作についてお話しします。リアクションペーパーを提出する。	
	産業革命について世界史の教科書で確認しましょう(予習、60分)。資本主義とはどのような経済システムかを調べてみましょう(復習、60分)。	120分
第3回	マルクスの『共産党宣言』を読む ヘーゲルの主と奴の弁証法を紹介しながら、階級闘争や、共産主義社会の必然を説いた『共産党宣言』についてお話しします。リアクションペーパーを提出する。	
	共産主義思想とはどのようなものかを調べましょう(予習、60分)。共産主義の国々が消滅したのはなぜかを調べましょう(復習、60分)。	120分

第4回	マルクスのユートピアと現在の問題 マルクスのユートピア論と階級闘争、そしてピケティの著作『二十世紀の資本』についてお話しします。リアクションペーパーを提出する。	
	トマス・ピケティについて調べましょう(予習、60分)。格差社会とはどのようなものでしょうか、各自調べてみよう(復習、60分)。	120分
第5回	2、知性は病気ではないか？ 音楽家ワーグナーの影響を中心に、フリードリッヒ・ニーチェの生涯と著作についてお話しします。リアクションペーパーを提出する。	
	音楽家ワーグナーについて調べよう(予習、60分)。実存思想について調べてみましょう(復習、60分)。	120分
第6回	ニーチェの『悲劇の誕生』を読む ワーグナーの音楽を聴きながら、アポロンの芸術とディオニュソスの芸術、そして知的ソクラテス主義を説く彼の『悲劇の誕生』についてお話しします。リアクションペーパーを提出する。	
	ギリシア悲劇とはどのようなものかを下調べしましょう(予習、60分)。「ディオニュソス的なもの」と「アポロンのもの」と「知的ソクラテス主義」とはどのようなことでしょうか、各自考えてみましょう(復習、60分)。	120分
第7回	ニーチェの「生の哲学」と現代の科学主義 現代は科学万能の時代ですが、そうした時代傾向に対するニーチェの「生の哲学」の意義について考えたいと思っています。リアクションペーパーを提出する。	
	深層心理学について調べましょう(予習、60分)。人間深層心理の中にある、攻撃性や嫉妬などの本能について調べてみよう(復習、60分)。	120分
第8回	3、語りうるものと語りえないもの 英米思想に大きな影響を与えたルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインの生涯と著作についてお話しします。リアクションペーパーを提出する。	
	20世紀初頭のオーストリアの首都ウィーンはどんな都市だったでしょうか、調べましょう(予習、60分)。彼はなぜ遺産を寄付し、小学校の教員になったのでしょうか、考えてみましょう(復習、60分)。	120分
第9回	ウィトゲンシュタインの『論理哲学論考』を読む 哲学の目的とはいったい何か、そして、「語りえないもの」とはどのようなものなのかという問題意識を持ちながら彼の『論理哲学論考』についてお話しします。リアクションペーパーを提出する。	
	論理学とはどんな学問でしょうか、調べましょう(予習、60分)。「語りえないものについては沈黙しなければならない」という彼の文章について考えてみましょう(復習、60分)。	120分

第10回	<p>ウィトゲンシュタインの哲学と神秘主義 哲学に何ができるのでしょうか。倫理的なもの、美的なもの、宗教的なものとは何でしょうか。彼の思想を駆り立てたものとは何でしょうか。一緒に考えましょう。リアクションペーパーを提出する。</p>	
	<p>「神秘的なもの」とは具体的にどんなものなのでしょうか、調べましょう(予習、60分)。伝統的な哲学と彼の哲学の違いについて調べましょう(復習、60分)。</p>	120分
第11回	<p>4、存在を忘却した人間はどこに向かうのか？ 世間に振り回されて自分の存在(=実存)を忘却してしまった現代人を厳しく批判するドイツの哲学者マルティン・ハイデガーの生涯と著作についてお話しします。リアクションペーパーを提出する。</p>	
	<p>大衆社会について調べましょう(予習、60分)。生きることの意味とは一体何でしょうか、考えてみましょう(復習、60分)。</p>	120分
第12回	<p>ハイデガーの『存在と時間』を読む 存在忘却を中心に、彼の著作『存在と時間』について説明します。存在論としての哲学、生の解釈学、現象学などが登場します。リアクションペーパーを提出する。</p>	
	<p>「存在論」「解釈学」「現象学」とは何でしょうか、調べましょう(予習、60分)。本来的な存在とはどのような意味を持つか、各自調べてみましょう(復習、60分)。</p>	120分
第13回	<p>ハイデガーの死の存在論と現代社会 人はなぜ自分の有限性、そして真剣に生きることを忘れてしまうのでしょうか。彼の存在の忘却とウィトゲンシュタインの「神秘的なもの」の現代的な意味について一緒に考えましょう。</p>	
	<p>人間にとって「生きること」「死ぬこと」とはどういうことでしょうか、調べましょう(予習、60分)。ウィトゲンシュタインとハイデガーの哲学観の違い・共通点について調べましょう(復習、60分)。</p>	120分
第14回	<p>5、無こそ存在する——日本哲学と西欧哲学と 日本の代表的な哲学者西田幾多郎の『善の研究』の内容を紹介しながら、西欧哲学と日本哲学の差異と共通点について考えましょう。リアクションペーパーを提出する。</p>	
	<p>西田幾多郎の生涯と思想について調べよう(予習、60分)。存在の哲学と無の哲学について調べよう(復習、60分)。</p>	120分
第15回	<p>おわりに 現代思想の可能性とその課題 現代哲学の発想を総括し、現代の問題(格差、科学万能、生きることの意味など)について考えます。リアクションペーパーを提出する。</p>	
	<p>現代の哲学的問題としてどのようなものがあるか、新聞やネットなどで調べよう(予習、60分)。現代哲学をもとに現代の問題を考えてみよう(復習、60分)。</p>	120分

授業の方法

講義形式の授業です。資料は随時配布します。毎回講義の最後に、その日の講義についての質問・感想・要望などをリアクションペーパーに書き、次の講義の冒頭でそのいくつかを紹介、その質問に応えながら、講義をすすめます。大人数の講義ですが、基本的に対話形式で授業を進めたいと思います。ですから、毎回リアクションペーパー等を提出してください。

成績評価の方法

定期試験 100%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・ 講義で取り扱った事項や知識を確認する。
- ① 講義で取り扱った語句について基本知識があるか。
- ② 取り扱った哲学者の基本思想を知っているか。
- ③ 現代の哲学問題について基礎知識があるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

適宜配布する。

参考書

マルクス『共産党宣言』、岩波文庫
ニーチェ『悲劇の誕生』、岩波文庫
ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』、岩波文庫
ハイデガー『存在と時間』、岩波文庫
西田幾多郎『善の研究』、岩波文庫

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に、喜んで教室で受け付けます。気軽に声をかけてください。

科目名	哲学の基礎 <2>		
教員名	関口 浩		
科目ナンバー	1301471010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
<p>この講義では、まず〈哲学とは何か?〉という基本的な事柄を、ほかのさまざまな学問と比較しながら説明します。さらに、西洋哲学の歴史を概観しながら、この学問におけるいくつかの基本概念—自由、歴史、概念、理念、科学、主観性、客観性など—について説明していきます。</p> <p>哲学的な思索の〈おもしろさ〉を存分に楽しんでもらえるような授業にしたいと思っています。</p>			

到達目標			
<p>各々の履修者が自分自身で哲学的に思索できるようになることを目的とします。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	哲学とはなにか? ソクラテスの思想		
	テキストの10頁の言葉を読み、その意味をよく考えておくこと。		30分
第2回	自由(1) モーゼとイエスの思想。		
	旧約聖書・出エジプト記の「十戒」の部分と、新約聖書・マタイ伝の「誘惑の山」の箇所を読んでおくこと。		60分
第3回	自由(2) プラトンの「洞窟の譬喩」		
	テキストの「自由」の章、第3節テキストをよく読んでおくこと。		60分

第4回	歴史(1) われわれは「進歩」したのか? 「進歩」とは?	
	テキストの「歴史」の章を読んでおくこと。	60分
第5回	歴史(2) パスカルの言葉「もしクレオパトラの鼻が・・・」	
	配付資料のA・トインビーの言葉を読み、その意味をよく考えておくこと。	60分
第6回	個と普遍(1) プラトンのアイデア説	
	テキストの「個と普遍」の章、第1節を読んでおくこと。	60分
第7回	個と普遍(2) アリストテレスによるプラトン批判	
	テキストの「個と普遍」の章、第2節を読んでおくこと。	60分
第8回	ルネサンスにおける〈遠近法〉の成立とその哲学的意義	
	「最後の晩餐」ほかのレオナルド・ダ・ヴィンチの絵画作品を見ておくこと。	60分
第9回	近代科学の勃興とその思想的背景	
	テキストの「科学の勃興」の章をよく読んでおくこと。	60分

第10回	デカルトの方法論、そして「我思う、ゆえに我あり」	
	テキストの「客観性」の章を読んでおくこと。	60分
第11回	ヘラクレイトスの思想と弁証法	
	テキストの「弁証法」の章をよく読んでおくこと。	60分
第12回	芸術の哲学。 マグリットの作品をめぐって	
	「光の帝国」ほかのR・マグリットの絵画作品を見ておくこと。	60分
第13回	死についての省察(1) 「楽園からの追放」をめぐって	
	テキストの「ニヒリズム」の章を熟読しておくこと。	60分
第14回	死についての省察(2) キューブラ・ロス『死ぬ瞬間』	
	参考資料のキューブラー・ロスの文章をよく読んで、講義の内容について理解を深めること。	60分
第15回	まとめ	
	今期の講義内容を回想してその意義をよく考えること。	60分

授業の方法

講義。 絵画や写真、映画などヴィジュアルな資料も必要に応じて使っていきたいと思っています。

成績評価の方法

授業への積極的な参加を評価する。平常点（質疑応答、授業内レポート、自主レポートなど）20%、定期試験80%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

いかなる予備知識もとくに求めません。
関連科目は「現代社会と哲学」。

テキスト

『哲学入門以前』、川原栄峰、南窓社、2000円、ISBN4-8165-0054-5 C0010

参考書

左近司祥子 『西洋哲学の10冊』、岩波書店、 819円、ISBN-13: 978-4005006137
プラトン 『ソクラテースの弁明・クリトーン・パイドーン』 田中美知太郎他訳、新潮文庫

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

質問等は授業前・授業後に受け付けます。

科目名	哲学の基礎 <3>		
教員名	瀬戸 一夫		
科目ナンバー	1301471010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要	
<p>広く社会・思想的な文脈から、今日の哲学に流入している主要問題を歴史的に解説し、古代から近現代までの哲学を特徴づけている基本的な考え方に学ぶ。講義にあたっては、基本的な概念や伝統的な哲学問題の解説にとどまることなく、今日のわれわれが現代社会のうちどのような問題を見て取らなければならないかをも考察する。</p>	

到達目標	
<p>現代社会の諸問題を含め、さまざまな問題を常識的な観点からだけでなく、哲学的な観点からも根本的に考えることができる(DP1&DP3)。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の進め方と狙いについて解説する。また、西洋哲学の歴史的な背景を概観する。	
	(予習)シラバスを読み、授業内容の概要をイメージしておく。 (復習)授業内容のイメージを修正し、自分に必要な予習の計画づくりをする。	30
第2回	哲学的な思考様式の源流	
	(予習)必要に応じて、前回の授業内容を、確認しておく。	60
第3回	古代地中海世界の社会状況 について	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60

第4回	自然論の成立過程	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第5回	西欧中世の宗教的文脈	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第6回	キリスト教神学の発展	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第7回	古代哲学のキリスト教化	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第8回	盛期中世の哲学的課題	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第9回	晩期中世の問題情況	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60

第10回	近代哲学の課題	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第11回	合理論の展開	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第12回	経験論の問題設定	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第13回	哲学のコペルニクス革命	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第14回	近代的な自我の成立とその理論化	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第15回	現代における哲学の可能性	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60

授業の方法

講義形式で行う。なお、授業の進捗に合わせて、第2回～第14回の項目を入れ替える、あるいは変更する場合がある。

成績評価の方法

学期末試験、受講態度、小テスト、その他で、総合的に評価する。学期末試験を60パーセント、小テストその他を40パーセントの割合で評価する予定である。ただし、これはあくまでも目安とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

特に次のことを重視して評価する。

- ・哲学の基本用語が正確に使えるようになったか。
- ・ものごとを哲学の観点からも捉えられる力が獲得されたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

使用しない。

参考書

瀬戸一夫著『無根拠への挑戦』（勁草書房） 3, 300円
瀬戸一夫著『ムーミンの哲学』（勁草書房） 2, 800円
瀬戸一夫著『科学的思考とは何だろうか』（ちくま新書） 740円
その他、必要に応じて、そのつど紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	倫理学の基礎 <1>		
教員名	的場 哲朗		
科目ナンバー	1401471020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

道徳や倫理は時代や地域によって変化するのでしょうか、それとも変化しないのでしょうか。世界を見てみますと、人生観や世界観、さらに労働観や恋愛・結婚観等は多種多様です。とすれば、道徳も倫理も多種多様ということになりそうです。しかし他方で、人を傷つけたら、約束を守ったり、嘘をついたりすることの問題となると、意外に時代や地域を越えた普遍的な法則がありそうな気がします。果たして真実はどちらなのでしょう。この問題は倫理学の根幹にかかわる難しいものですが、本講義では、道徳法則の普遍性を力強く説いたカントの倫理学を基本テキストにして倫理(共同体の中の決まりごと)や道徳(個々人の良心から発した行為規範)などの倫理の問題を歴史的に概観したいと思います。

到達目標

- ・近代倫理学の歴史が概観できる。
- ・カントの基本的な倫理学用語(理性と感性、自由と必然、傾向と意志、定言命法と仮言命法など)を理解し、現代の生活——生命保存や愛の問題——の中でそれらがどのように生かされるかを具体的に理解することができる。
- ・カント以降の近代倫理思想史を概観し、現代の喫緊の課題である生命倫理や格差の問題について概観できる。
- ・リアクションペーパーを毎回提出することで、自分の意見を論理的な文章でまとめることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	本講の目的と概要 私の倫理学との出会いの話から、倫理学の面白さについて話します。次に、「倫理学」の語源(ギリシア語、日本語など)から倫理学の定義をし、哲学・宗教・物理学との違いと共通点、そして倫理学を学ぶことの現代的な意味についてお話しし、一緒に議論します。	
	倫理学と物理学、哲学と宗教について調べよう(予習、60分)。 倫理的な視点が必要な場面を新聞やネットなどで探してみよう(復習、30分)。リアクションペーパーの提出。	90分
第2回	近代と個人の自立 近代倫理学は個々人の自立から出発します。自立とは何か。世間のしがらみとは何か。皆さんの体験を振り返りながら、「個人の自立とは何か」についてグループディスカッションをしながら、カントの人格の倫理学を学ぶ意味についてお話しします。	
	ドイツの哲学者カントの生涯と思想について調べてみよう(予習、60分)。カントの人格論から考えると、行動の規範はどのようになるでしょうか。特に「校則」を思い出しながら、考えてみよう(調査学習、復習、30分)。リアクションペーパーの提出。	90分
第3回	カントの『道徳形而上学原論』を読もう。 序論を読み、倫理学、物理学、論理学の違い、経験と形而上学の違いについて学びます。文化系と理科系の違いについてディベートし、「道徳の形而上学」とはどのようなものかを「人種差別」の問題を事例にして学びます。	
	『道徳形而上学原論』を読んで、難しい表現や理解できない箇所にチェックしましょう(予習、60分)。 人種差別の問題以外に今日どのような問題があるかを新聞やネットで調べなさい(復習、30分)。リアクションペーパーの提出。	90分

第4回	「善意志」について学ぼう。 道徳的行為で大切な「意志」について学びます。学問には「知性」、行為には「意志」が大切ですが、「意志」が欠落するとどうなるかを生活の中で具体的に見つけてみよう(発見学習)。では、「知性」と「意志」、理論と実践のどちらが大切でしょうか(グループ・ディスカッション)。	
	頭が良いことと意志が強いことについて調べてみよう(予習、30分)。「意志」と「性格」と「幸福」の関係について調べなさい(調査学習、復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	90分
第5回	生命の尊さについて考えよう。 カントは倫理の具体的問題として小売人、友情、生命保存、愛の問題を挙げていますが、なぜカントは「生命の保存」を「義務」と考えたのかをグループ内でディスカッションしましょう。	
	小売人、友情、生命保存、愛の問題の箇所を読みましよう(予習、60分)。義務の立場から小売人や友情について調べてみよう(復習、30分)。リアクションペーパーの提出。	90分
第6回	現代の生命倫理について考えよう。 出生前診断、IPS細胞の研究の意味についてカントの規範倫理学をもとに考え、現代の哲学者ハーバーマスの「熟議」の意味についてディベートしましょう。	
	「出生前診断」と「IPS細胞」と思想家ハーバーマスについて調べよう(予習、60分)。科学の進歩と倫理観の関係について調べましよう(調査学習、60分)(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	120分
第7回	「愛」の問題について考えよう。 カントは、愛は義務だと主張します。「好き」と「愛」、感情と義務、感性と理性とはどのようなことかを皆で考えてみよう(問題解決学習)。エーリッヒ・フロムの『愛することについて』についてもお話しします。	
	「好き」(like)と「愛」(love)の違いについて調べよう(予習、60分)。エーリッヒ・フロムの『愛することについて』を読んでみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	120分
第8回	カント倫理学の厳格主義のまとめ。 カントの「定言命法」と「仮言命法」を学び、具体的例(人命救助などの)を出して、真の道徳的行為とは何かを考えます。	
	「定言命法」と「仮言命法」について下調べましよう(予習、30分)。どんなときにも「正直」は正しいのでしょうか、考えてみよう(問題解決学習、復習、30分)。リアクションペーパーの提出。	60分
第9回	ニーチェの道徳批判。 ニーチェは人間の深層心理の立場から道徳の成立を考え、道徳批判を行います。その意味で彼は、カントの厳格主義の対局に立ちます。彼の『道徳の系譜』を紹介しながら、善悪の意味について皆でディスカッションしましょう。	
	「怨恨」(ressentiment)という人間の心理現象について調べよう(予習、30分)。「勝った者が正義で、負けた者が悪だ」と言われますが、これはどういうことか、日本史や世界史をさかのぼって、考えてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	90分

第10回	ベンサム of 快楽計算 彼の、「快楽の増大と苦痛の減少」が道徳と立法の原理だという功利主義についてグループディスカッションしましょう。	
	功利主義、ベンサムについて調べよう(予習、30分)。自分の経験に照らして、道徳と快楽の関係について考えてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	90分
第11回	ヘーゲルの倫理学 ヘーゲルは歴史の弁証法的な発展の中で倫理を考えます。彼の『法の哲学』について説明します。時代によって倫理は変化するかどうかについてグループディスカッションしましょう。	
	ヘーゲルについて調べましょう(予習、60分)。マルクスのヘーゲル批判、トマス・ピケティについて調べましょう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	120分
第12回	ハイデガーの倫理学 彼は『存在と時間』の中で、人間の本来の生き方を各自の死の自覚から説きます。	
	ハイデガーの『存在と時間』について調べよう(予習、30分)。世人の中で生きること、本来的に生きることの違いについて考えよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	90分
第13回	性善説と性悪説 孟子の性善説と荀子の性悪説について学び、どちらがより説得的かを皆でディスカッションしましょう。	
	孟子と荀子、孔子について調べなさい(予習、30分)。『論語』の言葉や教えが生活の中でいきていることを調べてみよう(調査学習、復習、30分)。リアクションペーパーの提出。	60分
第14回	日本の倫理学——和辻哲郎 彼の『人間の学としての倫理学』について話します。彼の、間柄としての倫理学とカントの、人格としての倫理学との違いについてグループディスカッションをします。	
	和辻哲郎について調べなさい(予習、60分)。日本人と西洋人の人間観・倫理観について調べてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	120分
第15回	伝統的な倫理学と現代の倫理問題 現代の倫理的な問題(生命倫理、環境倫理、メディア倫理等)に対する伝統的な倫理学の可能性と問題点についてグループディスカッションをします。	
	現代の倫理問題についてネットや新聞などで調べなさい(予習、60分)。応用倫理学とはどのようなものかを調べましょう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	120分

授業の方法

理解するのは難しいと思うが、なるべく原典(日本語)を読みながら講義を進めたい。リアクションペーパーを生かし、学生の意見を積極的に聞きながら、ディスカッションもする。

成績評価の方法

試験(100%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・講義で取り扱った事項や知識を確認する。
- ①カントの基本ワードについて知識があるか
- ②主要な倫理思想家の基本的な考え方を知っているか。
- ③現代倫理問題について基礎知識があるか

必要な予備知識/先修科目/関連科目

特になし

テキスト

『道徳形而上学原論』、カント、岩波書店、648円、SBNコード：9784003362518

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後、喜んで教室で受けます。

科目名	倫理学の基礎 <2>		
教員名	吉原 裕一		
科目ナンバー	1401471020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

人は何を〈よりどころ〉に生きるのか？
このテーマは、日本の現代社会に生きる我々にとって、切実な問題であるといえます。諸君は「自分とはなにものなのか」を語る言葉を持っているでしょうか。グローバルな視点から言えば、世界の多くの人々は自分のアイデンティティを、信仰する宗教、自国の歴史、民族の伝統的文化などによって説明します。しかし、我々のほとんどはそういうわけにはいかないでしょう。アイデンティティとは、自分が逆境にあって挫折感や絶望感におそわれたときに、それでも歯を食いしばって立ち上がる力、すなわち「生きる力」を自分に与えるものです。順調な人生では、とくに自覚する必要もないままにいられるかもしれませんが、非常事態に直面してから、それをあわてて求めても無意味です（火事になってから消火器を買いに走るようなもの）。学問が人の人生を幸福にするものであると仮定するのなら、自分が生きる〈よりどころ〉を自覚して確立する方法を学ぶことは、全ての人に必要で学問であるということになるでしょう。厳しい現実ですが、人はみないつかは死すべきさだめを負っているからです。我々は、自分の死を見すえた上で、自分にとってのよりよい生、そして幸福を模索すべきなのではないでしょうか。

この講義では、倫理学という学問について、「自己を知る」ことを出発点とし、共に考えてゆくことを目指しています。材料とするのは、日本の古代から近現代にわたる思想や文献です。それらを単なる知識として吸収するのではなく、「それが現在の自分にどのように関わっているか」という視点から、諸君自身に独力で考察を深めてもらいます。あとはその方法に客観性や精度といった修正を加えつつ、最終的にレポートという形で諸君自身について語れるよう、「自身の生きる〈よりどころ〉」を再確認する考察力を養ってほしいと願っています。

到達目標

- ・ 倫理学という学問の方法を理解する。
- ・ 自己や社会について、確かな根拠に基づいて論理的に考える力を身につける。
- ・ 日本の過去の思想と、現代社会ならびに自己とがどのように関連しているのかを学ぶ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	【ガイダンス】 ・ 講義の全体像、進め方、学修の目的と評価基準について ・ 思想／哲学／宗教／道徳／倫理の相違点 ・ 現代日本において、日本の過去の思想を学ぶ意義	
	【予習】 シラバスを読み、講義内容を把握しておく。 【復習】 ガイダンスでの説明から、講義の全体像を確認する。この講義で、評価に関して修得を求められている事柄を理解する。	60
第2回	【他者理解のために I】 ・ 一神教と多神教 ・ なぜ宗教によって戦争が起こるのか ・ キリスト教と『旧約聖書』の世界観	
	【予習・復習】 前回の講義で、問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。	60
第3回	【他者理解のために II】 ・ 愛／恋／情の相違点 ・ アガペー（キリスト教）、慈悲（仏教）、仁（儒学）の、現代日本社会における可能性	
	【予習・復習】 前回の講義で、問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。	60

第4回	<p>【日本人の死生観 I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我々はどこから来て、どこへ往くのか？ ・伝統的な死生観（神道／仏教／儒学） ・現代的な死後の行方のデフォルトとは 	
	<p>【予習・復習】前回の講義で、問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。</p>	60
第5回	<p>【親子という思想 I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和辻哲郎による「二人共同体」「三人共同体」の概念 ・「親／子」は（事実でなく）思想によって成り立つ 	
	<p>【予習・復習】前回までに配付されたテキスト資料について精読し、あらかじめ問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。</p>	90
第6回	<p>【親子という思想 II】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親が子を育てる」ことの本質はなにか ・「親」が「子を育てる」ものだとすれば、では「子」は何をなすべきなのか 	
	<p>【予習・復習】前回までに配付されたテキスト資料について精読し、あらかじめ問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。</p>	90
第7回	<p>【夫婦という思想 I】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫婦という人倫の、形式と本質 ・人の夫となり、人の妻となることの難しさ 	
	<p>【予習・復習】前回までに配付されたテキスト資料について精読し、あらかじめ問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。</p>	90
第8回	<p>【インターミッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニレポート ・ここまでの講義内容のおさらい ・自己の行為と責任について ・「自己実現」の落とし穴 	
	<p>【予習・復習】ここまでの講義内容についてふりかえる。提示されたミニレポート課題について、あらかじめ準備をし、授業中に提出する。</p>	120
第9回	<p>【夫婦という思想 II】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「苦楽をともにする」とはどのような倫理的営為なのか ・人の夫となり、人の妻となることの易しさ 	
	<p>【予習・復習】前回の講義で、問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。</p>	60

第10回	<p>【日本人の死生観 Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タナトス（死への衝動）がもたらす絶望と希望 ・「同じ蓮の台」という思想の構造 ・自己の生を支えるもの 	
	<p>【予習・復習】前回の講義で、問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。</p>	90
第11回	<p>【自己と超越 Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士道における「主従の契」の思想 ・自分を愛するからこそ他者のために生きる 	
	<p>【予習・復習】前回の講義で、問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。</p>	60
第12回	<p>【自己と超越 Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死線を越えて生きる思想—武士道における「恋」 ・真の「自己実現」をめざして ・道はどこでもなく、ここにしか無い（伊藤仁斎） 	
	<p>【予習・復習】前回の講義で、問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。</p>	60
第13回	<p>【日本人の心情倫理 Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範倫理と心情倫理 ・知ることと信じることの違い ・我々は「どうやって」他者や何かを信じるのか 	
	<p>【予習・復習】前回の講義で、問題として提起された事柄について、自分なりの考察を試みる。今回の講義内容を確認する。</p>	60
第14回	<p>【日本人の心情倫理 Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何のために生きるか」と「誰がために生きるか」 ・「色即是空／空即是色」の智慧 ・心の中に身体があるというパラダイム（中江藤樹） 	
	<p>【予習・復習】これまでの講義内容の全体をふりかえり、おさらいする。提示されたレポート課題について考察し、考えを整理しておく。</p>	180
第15回	<p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普遍とは、一般ではなく特殊においてのみ実現の可能性をもつ ・人間として生きることの意味 	
	<p>【予習・復習】レポートを完成させ、授業開始時に提出する。</p>	レポート執筆にかかる、各人の努力によって、時間は異なります。

授業の方法

- ・配付するレジメや講義資料をもとに、講義の形式で進めてゆきます。適宜、視聴覚資料を用います。
- ・学期末レポートでは、学修内容の理解度と、問題を自分の力で論理的に考察して論じることができているかどうか、かつ、それが倫理学の方法に拠っているかどうかという点を評価します。第8回で実施するミニレポートの結果を見て、必要があれば自分の学修姿勢を軌道修正してください。
- ・講義に関する要望や不満については、配付するリアクションペーパーで知らせてください。可能な限り、対応したいと思います。それにより、講義内容や進捗状況を調整することもあります。

成績評価の方法

学期末レポート（60%）、小テスト（10%）、授業内でのミニレポート（前回に問題を提示）などによる平常点（30%）を基本とします。ただし、授業への出席回数が10回に満たない場合、また出席に関して不正な行為が認められた場合は、原則として単位認定はできません。なお、努力点としてプラスに評価すべき要素があれば、それも勘案して総合的に評価します。

成績評価の基準

実践大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。具体的な事柄については、「授業の方法」を参照してください。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は必要としません。日本の過去の思想に、直接自分で触れていただきたいので古い文献も取り上げますが、基本的には現代語訳を付けますので、古文が苦手な人も臆することなく学んでほしいと思います。

テキスト

特になし。毎回、レジメや講義資料として、プリントを配付します。

参考書

古川雄嗣『大人の道徳：西洋近代思想を問い直す』東洋経済新報社、下村湖人『論語物語』講談社学術文庫、山本周五郎『完全版 小説日本婦道記』上下巻、講談社文庫。あとは、講義の中で、受講生の動向を見ながら、適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了時に、教室で受け付けます。

科目名	倫理学の基礎 <3>		
教員名	的場 哲朗		
科目ナンバー	1401471020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

道徳や倫理は時代や地域によって変化するのでしょうか、それとも変化しないのでしょうか。世界を見てみますと、人生観や世界観、さらに労働観や恋愛・結婚観等は多種多様です。とすれば、道徳も倫理も多種多様ということになりそうです。しかし他方で、人を傷つけたり、約束を守ったり、嘘をついたりすることの問題となると、意外に時代や地域を越えた普遍的な法則がありそうな気がします。果たして真実はどちらなのでしょう。この問題は倫理学の根幹にかかわる難しいものですが、本講義では、道徳法則の普遍性を力強く説いたカントの倫理学を基本テキストにして倫理(共同体の中の決まりごと)や道徳(個々人の良心から発した行為規範)などの倫理の問題を歴史的に概観したいと思います。

到達目標

- ・近代倫理学の歴史が概観できる。
- ・カントの基本的な倫理学用語(理性と感性、自由と必然、傾向と意志、定言命法と仮言命法など)を理解し、現代の生活——生命保存や愛の問題——の中でそれらがどのように生かされるかを具体的に理解することができる。
- ・カント以降の近代倫理思想史を概観し、現代の喫緊の課題である生命倫理や格差の問題について概観できる。
- ・リアクションペーパーを毎回提出することで、自分の意見を論理的な文章でまとめることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	<p>本講の目的と概要</p> <p>私の倫理学との出会いの話から、倫理学の面白さについて話します。次に、「倫理学」の語源(ギリシア語、日本語など)から倫理学の定義をし、哲学・宗教・物理学との違いと共通点、そして倫理学を学ぶことの現代的な意味についてお話しし、一緒に議論します。</p>	
	<p>倫理学と物理学、哲学と宗教について調べよう(予習、60分)。</p> <p>倫理的な視点が必要な場面を新聞やネットなどで探してみよう(復習、30分)。リアクションペーパーの提出。</p>	90分
第2回	<p>近代と個人の自立</p> <p>近代倫理学は個々人の自立から出発します。自立とは何か。世間のしがらみとは何か。皆さんの体験を振り返りながら、「個人の自立とは何か」についてグループディスカッションをしながら、カントの人格の倫理学を学ぶ意味についてお話しします。</p>	
	<p>ドイツの哲学者カントの生涯と思想について調べてみよう(予習、60分)。カントの人格論から考えると、行動の規範はどのようになるでしょうか。特に「校則」を思い出しながら、考えてみよう(調査学習、復習、30分)。リアクションペーパーの提出。</p>	90分
第3回	<p>カントの『道徳形而上学原論』を読もう。</p> <p>序論を読み、倫理学、物理学、論理学の違い、経験と形而上学の違いについて学びます。文化系と理科系の違いについてディベートし、「道徳の形而上学」とはどのようなものかを「人種差別」の問題を事例にして学びます。</p>	
	<p>『道徳形而上学原論』を読んで、難しい表現や理解できない箇所にチェックしましょう(予習、60分)。</p> <p>人種差別の問題以外に今日どのような問題があるかを新聞やネットで調べなさい(復習、30分)。リアクションペーパーの提出。</p>	90分

第4回	「善意志」について学ぼう。 道徳的行為で大切な「意志」について学びます。学問には「知性」、行為には「意志」が大切ですが、「意志」が欠落するとどうなるかを生活の中で具体的に見つけてみよう(発見学習)。では、「知性」と「意志」、理論と実践のどちらが大切でしょうか(グループ・ディスカッション)。	
	頭が良いことと意志が強いことについて調べてみよう(予習、30分)。「意志」と「性格」と「幸福」の関係について調べなさい(調査学習、復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	90分
第5回	生命の尊さについて考えよう。 カントは倫理の具体的問題として小売人、友情、生命保存、愛の問題を挙げていますが、なぜカントは「生命の保存」を「義務」と考えたのかをグループ内でディスカッションしましょう。	
	小売人、友情、生命保存、愛の問題の箇所を読みましよう(予習、60分)。義務の立場から小売人や友情について調べてみよう(復習、30分)。リアクションペーパーの提出。	90分
第6回	現代の生命倫理について考えよう。 出生前診断、IPS細胞の研究の意味についてカントの規範倫理学をもとに考え、現代の哲学者ハーバーマスの「熟議」の意味についてディベートしましょう。	
	「出生前診断」と「IPS細胞」と思想家ハーバーマスについて調べよう(予習、60分)。科学の進歩と倫理観の関係について調べましよう(調査学習、60分)(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	120分
第7回	「愛」の問題について考えよう。 カントは、愛は義務だと主張します。「好き」と「愛」、感情と義務、感性与理性とはどのようなことかを皆で考えてみよう(問題解決学習)。エーリッヒ・フロムの『愛することについて』についてもお話しします。	
	「好き」(like)と「愛」(love)の違いについて調べよう(予習、60分)。エーリッヒ・フロムの『愛することについて』を読んでみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	120分
第8回	カント倫理学の厳格主義のまとめ。 カントの「定言命法」と「仮言命法」を学び、具体的例(人命救助などの)を出して、真の道徳的行為とは何かを考えます。	
	「定言命法」と「仮言命法」について下調べましよう(予習、30分)。どんなときにも「正直」は正しいのでしょうか、考えてみよう(問題解決学習、復習、30分)。リアクションペーパーの提出。	60分
第9回	ニーチェの道徳批判。 ニーチェは人間の深層心理の立場から道徳の成立を考え、道徳批判を行います。その意味で彼は、カントの厳格主義の対局に立ちます。彼の『道徳の系譜』を紹介しながら、善悪の意味について皆でディスカッションしましょう。	
	「怨恨」(ressentiment)という人間の心理現象について調べよう(予習、30分)。「勝った者が正義で、負けた者が悪だ」と言われますが、これはどういうことか、日本史や世界史をさかのぼって、考えてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	90分

第10回	ベンサムの快樂計算 彼の、「快樂の増大と苦痛の減少」が道徳と立法の原理だという功利主義についてグループディスカッションしましょう。	
	功利主義、ベンサムについて調べよう(予習、30分)。自分の経験に照らして、道徳と快樂の関係について考えてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	90分
第11回	ヘーゲルの倫理学 ヘーゲルは歴史の弁証法的な発展の中で倫理を考えます。彼の『法の哲学』について説明します。時代によって倫理は変化するかどうかについてグループディスカッションしましょう。	
	ヘーゲルについて調べましょう(予習、60分)。マルクスのヘーゲル批判、トマス・ピケティについて調べましょう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	120分
第12回	ハイデガーの倫理学 彼は『存在と時間』の中で、人間の本来の生き方を各自の死の自覚から説きます。	
	ハイデガーの『存在と時間』について調べよう(予習、30分)。世人の中で生きることと、本来的に生きることの違いについて考えよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	90分
第13回	性善説と性悪説 孟子の性善説と荀子の性悪説について学び、どちらがより説得的かを皆でディスカッションしましょう。	
	孟子と荀子、孔子について調べなさい(予習、30分)。『論語』の言葉や教えが生活の中でいきていることを調べてみよう(調査学習、復習、30分)。リアクションペーパーの提出。	60分
第14回	日本の倫理学——和辻哲郎 彼の『人間の学としての倫理学』について話します。彼の、間柄としての倫理学とカントの、人格としての倫理学との違いについてグループディスカッションをします。	
	和辻哲郎について調べなさい(予習、60分)。日本人と西洋人の人間観・倫理観について調べてみよう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	120分
第15回	伝統的な倫理学と現代の倫理問題 現代の倫理的な問題(生命倫理、環境倫理、メディア倫理等)に対する伝統的な倫理学の可能性と問題点についてグループディスカッションをします。	
	現代の倫理問題についてネットや新聞などで調べなさい(予習、60分)。応用倫理学とはどのようなものかを調べましょう(復習、60分)。リアクションペーパーの提出。	120分

授業の方法

理解するのは難しいと思うが、なるべく原典(日本語)を読みながら倫理学者の説に耳を傾けるという形で講義をすすめる。リアクションペーパーを生かし、学生の意見を積極的に聞きながら、ディスカッションもする。

成績評価の方法

試験(100%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・講義で取り扱った事項や知識を確認する。
- ①カントの基本ワードについて知識があるか
- ②主要な倫理思想家の基本的な考え方を知っているか。
- ③現代倫理問題について基礎知識があるか

必要な予備知識/先修科目/関連科目

特になし

テキスト

『道徳形而上学原論』、カント、岩波書店、648円、SBNコード: 9784003362518

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後、喜んで教室で受けます。

科目名	文学への招待 <1>		
教員名	太西 雅一郎		
科目ナンバー	1301471050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要	
この講義では、おもに古代から現代までのヨーロッパの文学をとりあげます。異なる時代背景や、多様な政治的・宗教的あるいは思想的な問題もあわせて考慮しながら、文学作品が現実の状況・制度に対してなげかける問題提起を読み解きます。	

到達目標	
D P 1・文学作品の読解を通して、さまざまな時代の社会や制度のなかで、人間がおかれた状況を理解できる。	
D P 3・多様な文化に触れ、思想的な問いかけも行いつつ相互理解を深める。	
D P 5・文学が提起する問題提起をもとに、新たな世界の可能性に向けて自己の意見を発信できる。	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	旧約聖書、アブラハム、モーセ、文学の起源	
	取り扱うテーマについて予備知識を得ておくこと	90
第2回	ギリシア悲劇、ソフォクレス『アンティゴネー』	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第3回	中世・ルネサンス文学、『トリスタンとイゾー』とダンテ『神曲』	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120

第4回	シェイクスピアに様々な問題提起を読む	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第5回	啓蒙思想家ジャン=ジャック・ルソー	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第6回	グリム兄弟、メルヘンとドイツ語辞書	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第7回	ドストエフスキー、ロシアの文学	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第8回	ジェイン・オースティンとアルペール・カミュ	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第9回	カフカ、プラハのユダヤ人、『変身』の謎	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120

第10回	ブルーストと『失われた時を求めて』	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第11回	ジェイムズ・ジョイス、言語の解体と創造	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第12回	フランクル『夜と霧』、収容所体験を語る	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第13回	パレスチナの文学	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第14回	ジャン・ジュネ、放浪作家の軌跡	
	前回の授業内容の復習と次回テーマの予備知識の習得	120
第15回	カズオ・イシグロの文学	
	前回の授業内容の復習	90

授業の方法

基本的には講義形式で行う。部分的に映像資料を用いる。

成績評価の方法

毎回の授業内容のメモを、各回の授業終了時に提出する（75%）。
レポートとして、なんらかの文学作品を一つ読み1500字程度の感想文を提出する。
あるいは、批評等の論文であれば、その要約を1500字程度で提出する（25%）。
レポートは授業で扱わなかった文学者の作品についてのものでもかまわない。
レポートの提出は学期を通して随時、授業時に受け付ける。
レポートの提出締切は最終授業回とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

欧米の文学・社会・歴史に関連する科目。

テキスト

使用しません。

参考書

適宜、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	文学への招待 <2>		
教員名	原 善		
科目ナンバー	1301471050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

最も現代的な超人気作家である村上春樹の超短篇の幾つかを読み味わう。
 とうてい長篇作品を取り扱う時間がないなかで、長篇のテーマとも相通じる超短篇の読解を通して、村上春樹文学の本質に迫りつつ、文学の魅力や、各作品がテーマとする現代の様々な問題についても考える。
 春樹作品の魅力を明らかにするためにも、他作家の作品（例えば秦恒平「加賀少納言」、M・エンデ「はてしない物語」、江戸川乱歩「人間椅子」、葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」等）と読み比べることもしてみたい。

到達目標

村上春樹の超短篇の魅力を存分に味わうこと、そのことで村上春樹の文学の本質に迫ること、をとりあえずの目標にしつつ、文学なるものの魅力や本質への理解も目指してもらいたい。
 〈対照読解〉という方法の中で、相異なる2つのものを比較して共通点・相違点を炙り出すことで固定的な物の見方を斥ける、相対的・総体的な視点も養いたい。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス。村上春樹の文学の概説。 「夜中の汽笛あるいは物語の効用について」読解	
	【予習】 シラバスをよく読んで、授業の進め方を理解しておく。また、これまで読んだことのある村上春樹作品の内容を思い出しておく。 【復習】 村上春樹作品の本質を他の作品などで確認しておく。	60分
第2回	「四月の晴れた朝に100%の女の子に出会うことについて」の読解と映画鑑賞 (以下順不同)	
	【予習】 前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】 サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分
第3回	「鏡の中の夕焼け」読解	
	【予習】 前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】 サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分

第4回	「鏡」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分
第5回	「夜のくもざる」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分
第6回	「FUN、FUN、FUN」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分
第7回	「1963／1982のイパネマ娘」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分
第8回	「スパゲティー工場の秘密」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分
第9回	「グッド・ニュース」・「ビール」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分

第10回	「青が消える」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分
第11回	「とんがり焼の盛衰」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分
第12回	「パースデー・ガール」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分
第13回	「パン屋襲撃」の読解と映画鑑賞	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分
第14回	「ふわふわ」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】配布された英訳と対照するなりして授業内容の確認をする。	60分
第15回	「ジョン・アプダイクを読むための最良の場所」読解	
	【予習】前時の授業内容を振り返り、配布されたプリントで作品を読んでおく。 【復習】サブテキスト（『村上春樹超短篇小説案内』）の該当章を読むなりして授業内容の確認をする。	60分

授業の方法

基本的にはパワーポイント（あるいは電子紙芝居？）での講義形式を中心とするが、その読みを相対化すべく各自の読みを対照させる形の、積極的な参加を促していきたい。

他ジャンルとの対照という意味でも、春樹作品を映像化したものの鑑賞も取り入れて、原作と映像作品とを対照させながら、原作の問題を透かし出してみることも行ないたい。

成績評価の方法

受講者数によっては学期末にレポートを課すこともありうるが、基本的には毎授業時に提出した小課題の点数の合計という平常点のみで評価を行なう予定である。毎回の課題については WebClass を使いフィードバックしていくので参考にされたい。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にないが、当該作品のテーマと対比できるような作品（文学に限らない映画や漫画などでも）を頭の中から呼び起こせるように普段からの幅広い読書（をはじめとする文化享受）を行なっておくことを希望する。

テキスト

授業内でプリントを配布する。もっと早目の準備のために収録書を購入するなら、『カンガルー日和』（講談社文庫）『夜のくもざる』（新潮文庫）『象工場のハッピーエンド』（新潮文庫）などに収められている。

参考書

参考書：『村上春樹作品研究事典改訂版』 村上春樹研究会編 鼎書房 4,000円
『村上春樹がわかる。』 アエラムック 朝日新聞社 1,200円
『村上春樹超短篇小説案内』 波瀬蘭著 学研パブリッシング 1,300円
『ゼロからわかる村上春樹』 学研ムック 学研パブリッシング 980円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

質問等は授業前・授業後に受け付けるが、電子メールでも随時受け付けている。

科目名	心理学の基礎 <1>		
教員名	浜村 俊傑		
科目ナンバー	1401471030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要	
<p>心理学は、これまで得られたデータや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である。心理学の代表的な研究対象は、知覚、記憶、学習、発達、性格、対人関係などを含み、多様な領域に広がっている。</p> <p>そこで、本講義では、こうした代表的な研究領域を概説するとともに、それぞれの研究領域において基礎となる知見を紹介することを目的とする。</p> <p>なお、心理学を初めて学ぶという人たちにも理解しやすいよう、体験ワークを実施したり、なるべく身近で具体性に富むエピソード等を紹介しながら授業を進める予定である。</p> <p>また、授業の進捗や受講生の希望および担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p> <p>※本科目については、担当者および授業内容が変更になる可能性があります。</p>	

到達目標	
<p>心理学の初歩に位置付く本授業では、DP1（教養の習得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) 心理学（および科学）の基本的な知識や考え方を身につけること。</p> <p>(2) 自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること（およびその限定性を知ること）。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	準備学修(予習・復習等) イントロダクション ・授業の内容、進め方、評価、予習・復習の仕方等を知る。	
	【復習】 授業で紹介した内容を振り返り、理解する。	【復習】 60
第2回	心理学の歴史 ・心理学の発展の歴史を学び、心理学の現状を知る。 ・人の心の動きがどのように解明されようとしてきたかについて学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第3回	心理学の方法 ・心理学の研究法を学ぶ。 ・心の動きや心のメカニズムについて科学的に研究（検討）するための発想と方法論を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50

第4回	脳のはたらき ・心と脳の関係について学ぶ	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第5回	感覚と知覚 ・人が世界をどのように体験し、認識するのかについて学ぶ。 ・モノの見え方（視覚）の特徴と錯覚について理解する。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第6回	学習 ・経験によって人の行動はどのように変わるのかを学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第7回	記憶 ・人はどのようにモノを覚え、忘れるのかを知る。 ・記憶の種類や特徴を知る。 ・記憶法について学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第8回	思考と言語 ・心の働きにおけることばの獲得とその役割を知る。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第9回	動機づけ ・人が行動を起こすメカニズムを学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50

第10回	性格（1） 理論編 ・性格を理解するための理論を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第11回	性格（2） 実践編 ・性格を把握、測定するための方法を学び、体験する。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第12回	性格（3） 様々な性格理論 ・性格を把握するための多様な理論や枠組みを学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第13回	発達心理学 ・人の心がどのように発達するのかを学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第14回	社会心理学 ・人間関係・対人関係・組織における人の心の動きについて学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第15回	授業のまとめ	
	【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50

授業の方法

授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。

・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である）。

・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

また、出欠確認のために学生証を使用するため、必ず持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- （1）心理学（および科学）の基本的な知識や考え方を身につけること。
- （2）自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること（およびその限定性を知ること）

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：自己理解の心理学／こころの健康と臨床／脳科学と心

テキスト

特になし。なお、各回のレジュメは事前にSeikei Portalにアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

参考書

特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	心理学の基礎 <2>		
教員名	岩田 淳子		
科目ナンバー	1401471030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
<p>心理学は、これまで得られたデータや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である。心理学の代表的な研究対象は、知覚、記憶、学習、発達、性格、対人関係などを含み、多様な領域に広がっている。</p> <p>そこで、本講義では、こうした代表的な研究領域を概説するとともに、それぞれの研究領域において基礎となる知見を紹介することを目的とする。</p> <p>なお、心理学を初めて学ぶという人たちにも理解しやすいよう、体験ワークを実施したり、なるべく身近で具体性に富むエピソード等を紹介しながら授業を進める予定である。</p> <p>また、授業の進捗や受講生の希望および担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p>			

到達目標			
<p>心理学の初歩に位置付く本授業では、DP1（教養の習得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) 心理学（および科学）の基本的な知識や考え方を身につけること。</p> <p>(2) 自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること（およびその限定性を知ること）。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の内容、進め方、評価、予習・復習の仕方等を知る。 心理学とは何か 		
		<p>【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。</p> <p>【復習】 授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。</p> <p>心理学の全体像を知る。</p>	【復習】 50
第2回	<p>知覚 1</p> <ul style="list-style-type: none"> 感覚は心理学的な水準でどのように経験されるのかについて解説する 		
		<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10</p> <p>【復習】 50</p>
第3回	<p>知覚 2</p> <ul style="list-style-type: none"> 知覚を注意、定位、再認、抽象化、恒常性の問題から解説する。 		
		<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10</p> <p>【復習】 50</p>

第4回	意識 ・意識のさまざまな側面を理解する ・睡眠と夢について解説する。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第5回	学習と条件づけ ・馴化・古典的条件づけ・道具的（オペラント）条件づけ、観察学習など、学習の種類とその特徴について理解する。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第6回	記憶 1 ・記憶の3段階と記憶の種類について理解する。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第7回	記憶 2 ・健忘・記憶法・記憶の再構成など、日常的な記憶に関するトピックスについて解説する。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第8回	思考と推論 1 ・推論・問題解決など思考に関する心理学知見について理解する。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第9回	思考と推論 2 ・認知機能の発達についてピアジェの発達理論を理解する	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50

第10回	<p>動機づけと感情</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が行動を起こすメカニズムを学ぶ。 ・感情について基本的な知見を理解する 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第11回	<p>知能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知能検査と現代の知能理論について理解する ・遺伝と知能、感情知能などのトピックスについて解説する。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第12回	<p>パーソナリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーソナリティの概念化と査定について理解する。 ・性格検査を体験してみる 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第13回	<p>社会心理学 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人関係や集団における 人の意識や行動について理解する。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第14回	<p>社会心理学2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の態度や行動について理解する。 ・集団および文化が個人に およぼす影響について理解する。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第15回	<p>まとめ</p>	
	<p>【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>

授業の方法

授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。

・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である）。

・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

また、出欠確認のために学生証を使用するため、必ず持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。

なお、平常点の範囲で、中間課題を課す場合がある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

（1）心理学（および科学）の基本的な知識や考え方を身につけること。

（2）自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること（およびその限定性を知ること）。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：自己理解の心理学／こころの健康と臨床／脳科学と心

テキスト

なし。各回のレジュメは事前にSeikei Portalにアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

参考書

内田一成監訳2015「ヒルガードの心理学」金剛出版

必要に応じて、紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	心理学の基礎 <3>		
教員名	林 潤一郎		
科目ナンバー	1401471030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要	
<p>心理学は、これまで得られたデータや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である。心理学の代表的な研究対象は、知覚、記憶、学習、発達、性格、対人関係などを含み、多様な領域に広がっている。</p> <p>そこで、本講義では、こうした代表的な研究領域を概説するとともに、それぞれの研究領域において基礎となる知見を紹介することを目的とする。</p> <p>なお、心理学を初めて学ぶという人たちにも理解しやすいよう、体験ワークを実施したり、なるべく身近で具体性に富むエピソード等を紹介しながら授業を進める予定である。</p> <p>また、授業の進捗や受講生の希望および担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p>	

到達目標	
<p>心理学の初歩に位置付く本授業では、DP1（教養の習得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) 心理学（および科学）の基本的な知識や考え方を身につけること。</p> <p>(2) 自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること（およびその限定性を知ること）。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、進め方、評価、予習・復習の仕方等を知る。 	
	<p>【復習】 授業で紹介した内容を振り返り、理解する。</p>	【復習】 60
第2回	<p>心理学の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学の発展の歴史を学び、心理学の現状を知る。 ・人の心の動きがどのように解明されようとしてきたかについて学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10</p> <p>【復習】 50</p>
第3回	<p>心理学の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学の研究法を学ぶ。 ・心の動きや心のメカニズムについて科学的に研究（検討）するための発想と方法論を学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10</p> <p>【復習】 50</p>

第4回	脳のはたらき ・心と脳の関係について学ぶ	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第5回	感覚と知覚 ・人が世界をどのように体験し、認識するのかについて学ぶ。 ・モノの見え方（視覚）の特徴と錯覚について理解する。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第6回	学習 ・経験によって人の行動はどのように変わるのかを学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第7回	記憶 ・人はどのようにモノを覚え、忘れるのかを知る。 ・記憶の種類や特徴を知る。 ・記憶法について学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第8回	思考と言語 ・心の働きにおけることばの獲得とその役割を知る。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第9回	動機づけ ・人が行動を起こすメカニズムを学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50

第10回	性格（1） 理論編 ・性格を理解するための理論を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第11回	性格（2） 実践編 ・性格を把握、測定するための方法を学び、体験する。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第12回	性格（3） 様々な性格理論 ・性格を把握するための多様な理論や枠組みを学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第13回	発達心理学 ・人の心がどのように発達するのかを学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第14回	社会心理学 ・人間関係・対人関係・組織における人の心の動きについて学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第15回	授業のまとめ	
	【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50

授業の方法

授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。

・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である）。

・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

また、出欠確認のために学生証を使用するため、必ず持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

（1）心理学（および科学）の基本的な知識や考え方を身につけること。

（2）自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること（およびその限定性を知ること）。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：自己理解の心理学／こころの健康と臨床／脳科学と心

テキスト

特になし。なお、各回のレジュメは事前にSeikei Portalにアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

参考書

特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	自己理解の心理学 <1>		
教員名	富田 悠生		
科目ナンバー	1301471040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

臨床心理学の様々な視点から、自分について考える機会を提供する。

到達目標

人間のパーソナリティに関する臨床心理学の諸理論に基づくワークを通して、体験的に自己理解を深めることを目指す。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	オリエンテーション 講義内容や講義の進め方、評価方法などについて伝達する。	
	授業内で紹介した参考資料等があれば、目を通しておく。	60分
第2回	自己理解へのアプローチ 自己理解とは何か、何をもって自己理解とするのか、その定義について考える機会とする。	
	授業内で紹介した参考資料等があれば、目を通しておく。	60分
第3回	人格理論(1) 人格理論の歴史について概観する。	
	授業内で紹介した参考資料等があれば、目を通しておく。	60分

第4回	<p>人格理論 (2) 人格理論, 特に局所論, 構造論について学ぶ。</p>	
	<p>授業内で紹介した参考資料等があれば, 目を通しておく。</p>	60分
第5回	<p>人格理論 (3) 人格理論, 特に自我の諸機能について学ぶ。</p>	
	<p>授業内で紹介した参考資料等があれば, 目を通しておく。</p>	60分
第6回	<p>コミュニケーション (1) 防衛機制及び, 二者関係で生じるコミュニケーションのパターンについて学ぶ。</p>	
	<p>授業内で紹介した参考資料等があれば, 目を通しておく。</p>	60分
第7回	<p>コミュニケーション (2) 自分の感情と他者の感情との関係について学ぶ。</p>	
	<p>授業内で紹介した参考資料等があれば, 目を通しておく。</p>	60分
第8回	<p>心理査定 (1) 様々な心理査定について学ぶ。</p>	
	<p>授業内で紹介した参考資料等があれば, 目を通しておく。</p>	60分
第9回	<p>心理査定 (2) 心理査定の具体的な応用について学ぶ。</p>	
	<p>授業内で紹介した参考資料等があれば, 目を通しておく。</p>	60分

第10回	心理療法の実際 (1) 心理療法ではどのようにして、他者を理解しようとするのか、その方法について学ぶ。	
	授業内で紹介した参考資料等があれば、目を通しておく。	60分
第11回	心理療法の実際 (2) 心理療法の視点からみた、こころの現実について考える。	
	授業内で紹介した参考資料等があれば、目を通しておく。	60分
第12回	心理療法の実際 (3) 心理療法の視点から、自己がどのように形成されていくのか (あるいは回復されていくのか)、その過程について学ぶ。	
	授業内で紹介した参考資料等があれば、目を通しておく。	60分
第13回	自己理解の試み (1) 臨床心理学の枠組みを活用して、自分の歴史について振り返る。	
	授業内で紹介した参考資料等があれば、目を通しておく。	60分
第14回	自己理解の試み (2) 臨床心理学の枠組みを利用して、自分のパーソナリティについて考える機会とする。	
	授業内で紹介した参考資料等があれば、目を通しておく。	60分
第15回	まとめ これまでの講義のまとめを行う。	
	授業内で紹介した参考資料等があれば、目を通しておく。	60分

授業の方法

毎回の授業の最後に質問、意見などを募り、次回の授業の冒頭でその質問や意見に対して回答する「Response」、質問紙法や投映法を用いた簡易的な心理検査を中心とする「Exercise」、臨床心理学によるパーソナリティに関する諸理論の講義を行う「Contents」の3つによって1つの講義が構成されている。なお、授業計画は以下のようにあらかじめ設定されているが、受講生の反応をみながら講義の順序や内容を変更することがある。

成績評価の方法

各回のリアクション・ペーパーと期末レポートによって成績を評価する。また、必要に応じて別途レポートを課すことがある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講を希望する方は、できるだけ初回のオリエンテーションに参加されることが望まれる。

テキスト

講義のなかで適宜、参考書を紹介する。また、必要に応じて講義内容に関する資料、及び補足資料等を配布する。

参考書

必要に応じて講義のなかで紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	自己理解の心理学 <2>		
教員名	林 潤一郎		
科目ナンバー	1301471040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
<p>心理学とは、これまで得られたデータや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である。心理学の専門領域は、認知心理学、学習心理学、発達心理学、健康心理学、教育心理学、臨床心理学などに分けられ、現在も、それぞれの領域で新しい知見が蓄積されている。</p> <p>この授業では、これまで得られた心理学の研究知見の中から「青年期を生きる大学生が自分自身を知るために役立つと思われるもの」に焦点を当て、紹介する。前半では、主に青年期に関する心理学の諸理論を学ぶ。後半では、主にメンタルヘルスに関する心理学の諸理論を学ぶ。さらに、こうした心理学の知見とあわせて、大学生の発達課題、大学生の過去とこれから（発達臨床心理学）についての見通し、メンタルヘルスの問題とその対処（精神医学や臨床心理学）、等について、担当教員の臨床心理士としての経験に基づく情報提供も織り交ぜながら講義する。</p> <p>また、本講義では、知識の獲得と並行して、心理テスト等の用いた自己理解・自己分析のワークを重視する予定である。本講義によって、受講生がこれまでの自分を振りかえり、今の自分を見つめ、これからの自分を考える機会を提供できればと考えている。</p> <p>なお、授業の進捗状況および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p>			

到達目標			
<p>DP1（教養の習得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) 自己理解に有用だと思われる心理学諸領域の基礎的知見を学ぶこと。</p> <p>(2) 心理テスト等のワークで自己理解を深めること。</p> <p>(3) 心理学の知見に基づく自己分析を通して、自分の普段の生活や今後の人生に役立つような知見を見出し、それらを活かしていくこと。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	<p>第1回 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、進め方、評価、予習・復習の仕方等を知る。 ・心理学の基本的発想について学ぶ。 		
		【復習】 授業で紹介した内容を振り返り、理解する。	【復習】 60
第2回	<p>青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年期意識、認知発達理論、ライフサイクル理論を学ぶ。 		
		<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10</p> <p>【復習】 50</p>
第3回	<p>青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年期意識、認知発達理論、ライフサイクル理論を学び、そこから自分自身の特徴を振り返る(続き)。 		
		<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。</p> <p>【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10</p> <p>【復習】 50</p>

第4回	青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る（3） ・自己概念、自尊感情、自己評価を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第5回	青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る（4） ・人間関係（親子関係、友人関係や恋愛関係）の一般的変遷とその多様性を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第6回	青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る（5） ・人間関係（親子関係、友人関係や恋愛関係）の一般的変遷とその多様性を学ぶ（続き）。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第7回	青年期に関する諸理論から自分自身を振り返る（6） ・性格理論、性格検査を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第8回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（1） ・児童期および青年期にみられやすい様々な心の問題を学ぶ（続き）。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第9回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（2） ・児童期および青年期にみられやすい様々な心の問題を学ぶ（続き）。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50

第10回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（3） ・不安についての心理学を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第11回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（4） ・抑うつ（憂うつ）についての心理学を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第12回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（5） ・ストレスについての心理学を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第13回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（6） ・不安、抑うつ、ストレスを軽減する方法や上手に付き合う方法を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第14回	メンタルヘルスに関する諸理論から自分自身を振り返る（7） ・不安、抑うつ、ストレスを軽減する方法や上手に付き合う方法を学ぶ（続き）。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第15回	授業のまとめ	
	【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【復習】 60

授業の方法

授業は講義中心に進めるが、授業の中で心理テスト等の実習や作業を行う。また、これらの作業を通じて行った自己分析の結果や感想をレスポンスシートにまとめ、毎回提出する。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。

- ・レスポンスシート：各授業に参加して（心理テスト等の結果も含めて）、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である）。
- ・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

また、出欠確認のために学生証を使用する可能性があるため、必ず持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- （1）自己理解に有用だと思われる心理学諸領域の基礎的知見を学ぶこと。
- （2）心理テスト等のワークで自己理解を深めること。
- （3）心理学の知見に基づく自己分析を通して、自分の普段の生活や今後の人生に役立ちそうな知見を見出し、それらを活かしていくこと。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：心理学の基礎／こころの健康と臨床／脳科学と心

また、教員免許取得希望の学生は履修することが望ましい。

テキスト

特になし。なお、各回のレジュメは事前にSeikei Portalにアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

参考書

特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	自己理解の心理学 <3>		
教員名	岩田 淳子		
科目ナンバー	1301471040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

心理学とは、これまで得られたデータや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である。心理学の専門領域は、認知心理学、学習心理学、発達心理学、健康心理学、教育心理学、臨床心理学などに分けられ、現在も、それぞれの領域で新しい知見が蓄積されている。自己理解の心理学<3>では、臨床心理学（なんらかの心の問題や葛藤をもつ人々に対して、広い意味での心の科学に基づく知識や技法を用いて、心理的苦悩を軽減するために心理援助を行い、それを通して問題の解決や改善を目指す実践・理論・技法について研究する学問）の知見から、大学生の発達課題、青年期にみられる精神医学的問題、大学生の過去とこれから（発達臨床心理学）について、講師の臨床心理士としての臨床経験を織り交ぜながら講義する。

こころの問題は一部の人にみられるのではなく、だれにでも起こり得る。受講生がこれまでの自分を振りかえり、今の自分を見つめ、これからの自分を考える際に役立つ、自己理解の心理学を講じる。本講義を受講することにより、青年期を生きる大学生が、こころの成長、健康なこころ、他者に共感できる人間関係を身につけた大人として社会の構成員となるための基礎づくりを目指す。

到達目標

DP1（教養の修得）を実現するために、以下を目標とする。

- 自己理解に有用だと思われる臨床心理学の基礎的知見を学ぶこと。
- 心理テスト等のワークで自己理解を深めること。
- 臨床心理学の知見に基づく自己分析を通して、自分の普段の生活や今後の人生に役立ちそうな知見を見出し、それらを活かしていくこと。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	第1回 オリエンテーション ・授業の内容、進め方、評価、予習・復習の仕方等を知る。 ・データに基づいた現代大学生像について知る。	
	【復習】 授業で紹介した内容を振り返り、理解する。	【復習】 60
第2回	自分のこころをとおして理解する精神医学的問題 (1) 「抑うつ」 ・抑うつが起こるメカニズムとその予防について学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第3回	自分のこころをとおして理解する精神医学的問題 (2) 「不安」 ・不安、特に対人不安が起こるメカニズムとその対処について学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50

第4回	自分のころをとおして理解する精神医学的問題 (3) 「強迫とトラウマ」 ・強迫症状およびPTSDが起こるメカニズムとその対処について学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第5回	自分のころをとおして理解する精神医学的問題 (4) 「依存・アディクション」 ・依存・アディクション、特にネット依存が起こるメカニズムとその予防について学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第6回	障害について—神経発達症群（発達障害）を中心に— ・障害について適切に理解するとともに、発達障害概念が社会にもたらした影響について学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第7回	大学生にとっての「これまで」 (1) 乳幼児期 ・乳幼児期の発達課題と、乳幼児期にみられやすい様々な心の問題を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第8回	大学生にとっての「これまで」 (1) 乳幼児期（続き） ・乳幼児期の発達課題と、みられやすい様々な心の問題を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第9回	大学生にとっての「これまで」 (2) 学童期・思春期 ・学童期・思春期の発達課題と、みられやすい様々な心の問題を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50

第10回	<p>子どもの心理療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを対象とした心理療法「遊戯療法」について学ぶ。 ・非言語的な接近としての心理療法について学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第11回	<p>大学生にとっての「今」：青年期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクル理論をとおして、青年期の発達課題を学ぶ。 ・アイデンティティの意味するものを考える。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第12回	<p>大学生にとっての「これから」</p> <p>(1) 成人期（中年期を中心に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人期、特に中年期の発達課題と、みられやすい様々な心の問題を学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第13回	<p>大学生にとっての「これから」</p> <p>(2) 老年期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達課題と、みられやすい様々な心の問題を学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第14回	<p>家族の発達と家族療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の発達という視点とそれぞれの段階の特徴、また家族療法について学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第15回	<p>授業のまとめ</p>	
	<p>【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【復習】 60</p>

授業の方法

授業は講義中心に進めるが、授業の中で心理テスト等の演習や作業を行う。また、これらの作業を通じて行った自己分析の結果や感想をレスポンスシートにまとめ、毎回提出する。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。

- ・レスポンスシート：各授業に参加して（心理テスト等の結果も含めて）、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である）。
- ・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。
なお、平常点の範囲で、中間課題を課す場合がある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- （1）自己理解に有用だと思われる臨床心理学の基礎的知見を学ぶこと。
- （2）心理テスト等のワークで自己理解を深めること。
- （3）臨床心理学の知見に基づく自己分析を通して、自分の普段の生活や今後の人生に役立ちそうな知見を見出し、それらを活かしていくこと。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：心理学の基礎／こころの健康と臨床／脳科学と心
また、教員免許取得希望の学生は履修することが望ましい。

テキスト

特になし。なお、各回のレジュメは事前にSeikei Portalにアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

参考書

特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会と哲学		
教員名	関口 浩		
科目ナンバー	1301475010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

私たちにとって自分の人間性あるいは個性はとても大切なものはずです。しかしながら、現代社会のなかで私たちがそのような自分の人間性を円満に向上させてゆくことは、そう簡単なことではないようです。現代の労働者の多くが、大きな組織の中の一つの歯車にすぎないものになってしまう。壊れたら、いくらでも代りのあるもの、そういう個性のない部品のようなものと見なされてしまう。このようなことを、現代哲学の用語では「人間疎外」と言いますが、この講義ではそのような人間疎外の問題を中心に、今日の精神的状況に対して哲学がどのように答えるか、ということを考えてゆきたいと思います。

到達目標

現代という時代のいちばん深いところを洞察しようとする根本的な思索について、それを単に知識として学習するのではなく、むしろ履修者各自が自分自身の精神のなかでそうした思想家たちの〈事柄〉を共に経験してもらいたい。
さらに、履修者各々もまた、自分自身でそのような〈事柄〉を思索できるようになってもらいたいと思います。

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
第1回	アイデンティティへの問い(1) 『臨濟録』における殺仏殺祖説		
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	30分	
第2回	アイデンティティへの問い(2) 『十牛図』における自己の問題		
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分	
第3回	アイデンティティへの問い(3) 『十牛図』における自己の問題、前回の続き。		
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分	

第4回	大衆社会の問題(1) S. キルケゴール『現代の批判』	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分
第5回	大衆社会の問題(2) ドストエフスキー『カラマゾフの兄弟』から「大審問官」、現代人にとっての自由の問題	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分
第6回	「精神なき専門人、心情なき享楽人」、M・ウェーバーの現代批判	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分
第7回	官僚制の問題(1) M・ウェーバー『官僚制』、遺稿「経済と社会」より	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分
第8回	官僚制の問題(2) M・ウェーバー『官僚制』の続き—社会政策学会での発言を参照して—	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分
第9回	官僚制の問題(3) H・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分

第10回	官僚制の問題(4) 杉原千畝と官僚の倫理	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分
第11回	官僚制の問題(5) G・リッツァ『マクドナルド化する社会』	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分
第12回	M・ウェーバーの価値自由説	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分
第13回	エド・マローを例として、ジャーナリズムの役割	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分
第14回	M・ハイデッガーの現代技術論	
	復習として、授業中に配布されて資料をあらためて熟読すること。	60分
第15回	まとめ	
	今期の授業全体を回想して、その意義を考えてもらいたい。	60分

授業の方法

講義。 絵画や写真、映画などヴィジュアルな資料も必要に応じて使っていきたいと思っています。

成績評価の方法

授業への積極的な参加を評価する。平常点（質疑応答、授業内レポート、自主レポートなど）20%、定期試験80%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

いかなる予備知識もとくに求めません。
関連科目は「哲学の基礎」。

テキスト

とくに定めなし。（毎回、資料を配付する）

参考書

M・ウェーバー『権力と支配』（講談社学術文庫）濱嶋朗 訳、1,155円、ISBN-13: 978-4062920919
左近司祥子『西洋哲学の10冊』、岩波書店、819円、ISBN-13: 978-4005006137

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	現代社会と倫理学		
教員名	佐藤 雅男		
科目ナンバー	1301475020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要	
<p>〔テーマ〕必須 混乱状況からの出発</p> <p>〔概要〕 近・現代の日本の思想家の文章を、抜粋しながら読んでゆく。例えば福沢諭吉は、『文明論之概略』「緒言」で、日本人は、異常な過渡期を生き抜かざるを得ない理由で、自らの過去の経験によって、新たに学び知った文明を照らすことが出来ると言った。そこには眼前に在る宿命的な混乱状況というものが、「今の一世を過ぐれば、決して再び得べからざる」ような好機会と把握されている。これは近代日本の混乱という否定状況を、逆に飛躍のチャンスと見なすような精神構造である。 こうした状況は現代にも存在し、そこでは人間の死生観が問われている。倫理学の根本には、「如何に生きるべきか」の問いがある。歴史を先導した人物達の思想を学びながら、現代社会で暮らす「人の一生」をめぐる私達の問題を考えてみたい。</p>	

到達目標	
<p>〔到達目標〕必須</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の近・現代を先導した思想家の文章を読みながら、その意味を考えることで、今を生きる私達の指針を形成する。 物事を多角的にとらえる発想を身につける。 	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	授業のガイダンス。 近代日本の特徴。	
	授業のテーマと全体像をつかむ。	60
第2回	明治維新と文明開化。	
	歴史的な時代背景と国際情勢をつかむ。	60
第3回	啓蒙思想－福沢諭吉。	
	「独立の気力」という言葉について考える。	60

第4回	自由民権思想－中江兆民。	
	「東洋のルソー」と言われた人物像をつかむ。	60
第5回	キリスト教－内村鑑三。	
	「無教会主義」の意味をつかむ。	60
第6回	国民道徳－教育勅語。	
	中味の再検討をする。	60
第7回	東洋の美－岡倉天心。	
	「自我の顕現」の意味をつかむ。	60
第8回	浪漫主義－北村透谷。	
	私小説の意味をつかむ。	60
第9回	自然主義－田山花袋と島崎藤村。	
	浪漫主義の登場の意味をつかむ。 私小説の意味をつかむ。	60

第10回	夏目漱石の文明論。 下田歌子の歌と思想。	
	「内発的開化」の意味をつかむ。	60
第11回	森鷗外の文明論。 与謝野晶子の歌と思想。	
	「利他的個人主義」や「貞操論」の意味をつかむ。	60
第12回	西田幾多郎の哲学。	
	「純粹経験」の意味をつかむ。	60
第13回	和辻哲郎の倫理学。	
	「間柄的存在」の意味をつかむ。	60
第14回	小林秀雄の批評。 レポートの書き方。	
	「宿命の人間学」の意味をつかむ。	60
第15回	坂口安吾の思想。 レポートの提出。	
	思想表現の方法を実践する。	60

授業の方法

毎回の授業時に、資料を配布する。それを基に授業を進める。基本的には講義形式である。

成績評価の方法

授業中に配布した資料を引用して、1200字程度のレポートを書いてもらい、それを評価する。書き方に関しては、一回目の授業で概略を言うが、13回目と14回目の授業で、より詳しく説明する。
学期末レポート（90%）、平常点（10%）を基本とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

授業時に、毎回、資料を配布する。

参考書

『述語集Ⅰ』『述語集Ⅱ』（中村雄二郎、岩波新書）
『日本の思想』（丸山真男、岩波新書）
『墮落論』（坂口安吾、新潮文庫）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に、教室で受付ける。

科目名	現代社会と宗教		
教員名	松岡 秀明		
科目ナンバー	1201475030	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要	
<p>宗教を考察する際に有効な諸概念の理解および世界の代表的な宗教の理解を通して、宗教の多様性の考える。そのうえで、日本とブラジルの宗教を概観する。映像や音楽を積極的に用いる。</p>	

到達目標	
<p>宗教の多様性を理解するとともに、ある宗教現象に遭遇したら、それを分析的に捉えられるようになることを目標とする。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	<p>イントロダクション：宗教とはなにか？ 一神教と多神教、宗教進化論、等宗教の根本問題について理解する。</p>	
	<p>予習：宗教とは何かを自分なりに考えてみてください。 復習：授業で学んだ宗教の定義とは別の宗教の定義を考えてみてください。</p>	60分
第2回	<p>儀礼 儀礼の一般的な形態である通過儀礼や年中儀礼を学んだうえで、さまざまな宗教儀礼を検討し、日本の葬儀について考える。 映像：現代日本の葬儀</p>	
	<p>予習：自分が参加した儀礼を挙げてみてください。 復習：ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第3回	<p>アニミズム 生物のみならず山や巨石といった無生物にも神や霊といった超越者が宿っていると考えるアニミズムについて具体的にみていく。</p>	
	<p>復習：ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分

第4回	<p>祝祭 時には死者がでるような大規模なお祭り騒ぎである祝祭が、社会でどのような意味を持っているかを検討する。 映像：リオ・デ・ジャネイロのカルナヴァル</p>	
	<p>ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第5回	<p>憑依あるいは変性意識状態 世界各地に見られるが、近年の日本では例外的なこの現象の持つ意味について考えていく。 映像：アメリカのキリスト教系教団信者の憑依状態</p>	
	<p>ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第6回	<p>空間と宗教 信者はなぜ聖地に赴き、なにを見出すのか。 映像：カトリックの聖地サンティアゴ・デ・コンポステラ（スペイン）</p>	
	<p>予習：これまで訪れた宗教施設についての印象を言語化してみてください。 復習：ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第7回	<p>宗教と音楽：グレゴリオ聖歌からゴスペルまで 世界の宗教で音楽はさかんに用いられているが、日本ではそうではない。なぜだろうか。 映像：グレゴリオ聖歌、ゴスペル等々</p>	
	<p>予習：これまで耳にした宗教音楽を挙げてみてください。 復習：ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第8回	<p>宗教と暴力 残念なことに、人類の歴史は宗教を原因とする戦争とともにあったと言っても過言ではない。宗教が持つ暴力性を考えてみる。</p>	
	<p>ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第9回	<p>宗教と規範 宗教はなにも行なうべきか、なにを行なってはいけないかを人々に示している。それがいかなる原因に依るかを考えていく。</p>	
	<p>ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分

第10回	<p>キリスト教概観 キリスト教といっても、さまざまな流れがある。カトリックとプロテスタントを中心にその地理的分布と歴史的展開を把握する。</p>	
	<p>ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第11回	<p>イスラム教概観 近年なにかと話題となるイスラム教だが、日本人の多くはその輪郭さえも知らないのが現状である。聖典『コーラン』を読みつつ、その一端を知る。</p>	
	<p>予習：イスラムのイメージはどんなものですか？ 復習：ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第12回	<p>仏教概観 インドに誕生した仏教は、その伝播の過程で大きく変容して今日に至っている。東南アジアの上座部仏教と、東アジアの大乗仏教を比較する。</p>	
	<p>ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第13回	<p>日本宗教概観 仏教、神道、新宗教を整理して捉える。 映像：伊勢神宮の遷宮</p>	
	<p>予習：自分の家の墓がどこにあるかを調べてみてください。 復習：ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第14回	<p>ブラジル宗教概観 多種多様なブラジルの宗教を概観する。 映像：カトリック神父の音楽的パフォーマンス、憑依を行なう宗教カンドンブレ</p>	
	<p>ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分
第15回	<p>まとめ</p>	
	<p>ハンドアウトを参照にして、授業内容の理解を深めてください。</p>	60分

授業の方法

講義形式で行なう。授業の最後にレスポンス・シートを提出してもらい、可能な限り受講者の問題意識を授業に反映させていく。

成績評価の方法

レスポンスシートと期末試験によって評価する。授業の環境保持のため、私語には厳しく対処する。また、特別な理由がない限り、講義開始後20分以後の教室への入室を認めない。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

なし

テキスト

特に指定しない。

参考書

授業で毎回配布するハンドアウトに、次回の授業の参考文献を示す。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

毎回、授業の最後に質問のための時間を確保する。

科目名	日本の思想史		
教員名	須佐 俊吾		
科目ナンバー	1201475040	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

「日本人の神—神道とは何か—」
 来月1日を以て平成という時代は終わります。
 これは日本人の時間軸、さらに言えば歴史が変わることです。
 改元の理由は、現在の天皇が退位し、新しい天皇に代替わりするからです。
 つまり、日本人の時間ないしは歴史は、天皇に拠っている訳です。
 これは7世紀に元号が用いられるようになってから、現在まで一貫して続いて来たことです。
 では何故、天皇にそのような権能があるのでしょうか。
 これには幾つかの理由が考えられますが、その最も大きな理由は天皇が祭祀王であることだと思えます。
 祭祀とはつまり「お祭り」です。
 「お祭り」とは神を祀ることであり、即ち神道そのものです。
 要するに天皇は神道と不可分な存在であり、その天皇に規定され続けて来た日本という国は神道の国＝「神の国」ということになります。
 上記の考えには全否定される向きもあるでしょうが、これは歴史的に否定し難い事実です。
 神道が日本文化の最基層に位置していることは、誰も認めざるを得ない事実です。
 ですが、その神道が日本の小学校から大学までの学校教育の中で説かれることは殆どありません。
 その理由をここで説明することは出来ませんが、狭隘な個人的主義主張の好悪で神道を否定あるいは肯定しては、日本という国がどのような歴史・文化を育てて来たのかは理解できません。
 そこで本講義では、日本思想の中核にある神道に関して、最新の諸研究に基づいてその大要をお話します。

到達目標

日本の民族宗教であるとされる神道に関して基本的な事柄が説明できるようになる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス：本講義の目的と授業計画	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第2回	神話と神道—カミとは何か—1	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第3回	神話と神道—カミとは何か—2	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60

第4回	神話と神道－カミとは何か－3	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第5回	祭祀と神道－祭りとは何か－1	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第6回	祭祀と神道－祭りとは何か－2	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第7回	祭祀と神道－祭りとは何か－3	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第8回	神社とは何か1	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第9回	神社とは何か2	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60

第10回	神社とは何か3	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第11回	神道と仏教の関係	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第12回	神道と天皇	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第13回	神道と国学	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第14回	神道と新興宗教	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60
第15回	まとめ：日本人の信じて来た神とは何か	
	【復習】講義でお話したことを要約的にまとめておいて下さい。	60

授業の方法

講義形式。

基本的に資料などは配付しませんので、各自で講義をまとめたノートを作成して下さい。

上記の授業計画は便宜的なもので、一応の目安とお考え下さい。

とくに第13, 14回に関しては極簡単にお話するだけ、あるいは全く言及しない可能性もあります。

成績評価の方法

課題レポート(1回、100%)。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・レポートは、その内容と同等に文章の正確さも重く見ます。
- ・出席は取りませんので、出席回数は一切考慮しません。

必要な予備知識/先修科目/関連科目

高校程度の日本史の知識は必須。

テキスト

とくに無し。

参考書

伊藤聡 『神道とは何か - 神と仏の日本史』 中公新書 2012
井上寛司 『「神道」の虚像と実像』 講談社現代新書 2011
井上順孝 『神道入門 日本人にとって神とは何か』 平凡社新書 2006
菅野覚明 『神道の逆襲』 講談社現代新書 2001

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	脳科学と心		
教員名	山本 愛実		
科目ナンバー	1101475050	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

脳神経科学の最新の研究テーマを例としてとりあげ、神経科学上の成果が人間理解や社会生活に大きな影響を及ぼし始めていることを概説する

到達目標

脳神経科学の基礎的な知識を習得するとともに、それがわれわれの生活や社会にどんな影響を及ぼすかを考察する能力を身につけることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	1. 脳神経科学とは何かその意義を考える	
	教科書の1章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第2回	2. 知覚 環境変化の見落としについて、知覚のメカニズムを知る	
	教科書の2章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第3回	3. 記憶 偽記憶研究の現状と展望、偽記憶とうその脳メカニズムの違いを知る	
	教科書の3章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60

第4回	4. 自由意志 意志と行為の脳メカニズム、自由意志の存在に疑問を投げかける脳科学の研究について考える	
	教科書の4章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第5回	5. 意思決定 薬物依存と意思決定の歪み、薬物による健全な意思決定の歪みにより、薬物依存からの脱却の困難さを知る	
	教科書の5章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第6回	6. 道徳 道徳の脳科学、道徳・倫理を脳科学の視点で考える	
	教科書の6章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第7回	7. 社会性の神経経済学 脳神経科学の最新の研究分野である信頼に関する神経経済学について、社会にとって互いの信頼の重要性を示すとともにその脳基盤を知る	
	教科書の7章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第8回	8. マインドリーディング ニューロイメージング法の解説、脳科学は他人の心を読み取れるのか	
	教科書の8章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第9回	9. ブレインマシンインターフェイス ブレインマシンインターフェイスとは何か、その目的は？失った機能をどこまで機械で補えるのか	
	教科書の9章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60

第10回	10. 精神疾患 精神疾患について知り、その社会の中での問題を考える、精神疾患は脳機能の疾患である	
	教科書の10章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第11回	11. スマートドラッグ 薬による能力の増強について現状を知る、スマートドラッグは許されるのか	
	教科書の11章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第12回	12. 教育 三歳児神話について関連する脳科学的研究を学ぶ、脳科学は教育に役立つのか	
	教科書の12章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第13回	13. 加齢 加齢に伴う認知機能の低下について考える、なぜ、お年寄りを狙う犯罪が多いのか	
	教科書の13章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 余裕があれば、次の章に目を通す。	60
第14回	14. 広告利用 脳トレ広告の問題点を知る、似非科学に騙されないために	
	教科書の14章を授業後に読む。 授業の内容を確認し復習する。 試験に備え今まで授業内で取り上げた内容について復習する。	60
第15回	15. まとめ 神経科学リテラシーと社会的意義)と最終回に定期試験を行う	
	15回目に試験を行うため、14回目までに授業で行った内容について復習する。試験範囲は授業で取り扱った内容全てである。	60

授業の方法 講義を主とする。
成績評価の方法 試験による。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 現代科学についての知識はそれほど必要としない。
テキスト 脳神経科学リテラシー 勁草書房 信原幸弘、原塑、山本愛実 編
参考書 特になし。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業開始前と終了後に教室で受け付ける。

科目名	こころの健康と臨床		
教員名	林 潤一郎		
科目ナンバー	1201475060	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
<p>近年、こころの健康問題は社会的に大きな話題となっている。ストレスをかかえやすい現代社会においては、こころの健康とその問題についての正しい知識と対策を知っておくことは、今後の学生生活や社会生活における自分自身を支える上で、また周囲の人と接する際に、有用なものとなるであろう。</p> <p>本講義では、臨床心理学や精神医学で扱われる代表的なこころの健康問題を取り上げ、多様な理解の枠組みとその予防策・対応策を紹介する。特に、臨床心理学において発展を遂げている認知行動理論および認知行動療法を中心に、心の健康問題（主に精神障害）の予防や軽減および心の健康維持増進に有益だと思われる様々な研究成果や臨床的な知見を紹介する予定である。</p> <p>なお、授業の進捗および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。</p>			

到達目標			
<p>DP1（教養の習得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）を実現するために、以下を達成目標とする。</p> <p>(1) (自他の)こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。</p> <p>(2) こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。</p> <p>(3) こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパートリーを学ぶこと。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・こころの健康問題の概観を知る。		
		【復習】授業で紹介した内容を理解する。また、主要トピックやキーワードを振り返り、説明できるようにする。	【復習】60
第2回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み(1) ・こころの健康—不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る。		
		【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
第3回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み(2) ・こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る(続き)。 ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ。		
		【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50

第4回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（3） ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ（続き）。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第5回	気分障害（1） ・気分障害を理解する。 ・「日常的に経験する（抑うつ気分）」と「うつ病」の異同を知る。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第6回	気分障害（2） ・気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第7回	気分障害（3） ・気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ（続き）。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第8回	睡眠障害 ・睡眠の基本性質を知る。 ・睡眠障害を理解する。 ・睡眠障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50
第9回	不安障害（1） ・パニック障害を理解する。 ・パニック障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	
	【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】 10 【復習】 50

第10回	<p>不安障害（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会不安障害（社交不安障害）を理解する。 ・社会不安障害（社交不安障害）で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第11回	<p>不安障害（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強迫性障害を理解する。 ・強迫性障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第12回	<p>パーソナリティ障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーソナリティ障害を理解する。 ・パーソナリティ障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第13回	<p>摂食障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食障害を理解する。 ・摂食障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第14回	<p>統合失調症</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症を理解する。 ・統合失調症で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。 	
	<p>【予習】 該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【予習】 10 【復習】 50</p>
第15回	<p>授業のまとめ</p>	
	<p>【復習】 授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。</p>	<p>【復習】 60</p>

授業の方法

授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、レスポンスシート、期末テストの狙いは以下のとおりである。

・レスポンスシート：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる（なお、必要に応じて、レスポンスシートの内容に対するフィードバックを次の回の講義で実施予定である）。

・期末テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

また、出欠確認のために、学生証を使用するので、必ず持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業への参加状況やレスポンスシートの提出状況などの平常点（40%）、期末テスト（60%）、により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- (1)（自他の）こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。
- (2) こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。
- (3) こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出するために役立つような対処のレパトリーを学ぶこと。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心

テキスト

特になし。なお、各回のレジュメはSeikei Portalにアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。

参考書

特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	音楽への招待		
教員名	西釋 英里香		
科目ナンバー	1301475070	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

本講義では、西洋芸術音楽（クラシック音楽）の17世紀から現代までの歴史を、代表的な音楽作品をとりあげながら考察する。

到達目標

- DP1（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。
- ・ 西洋音楽史の時代区分と、各時代の音楽様式の特徴について説明できる。
 - ・ 西洋音楽史における代表的な作曲家とその作品について説明できる。
 - ・ 音楽作品の形式（構成）について理解し、説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	導入：西洋音楽史概観 西洋音楽史における時代区分とその音楽様式についてふまえたうえで、第2回で取り上げるバッハより前の時代の音楽を概観する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第2回	バッハ バロック時代の代表的な作曲家であるヨハン・セバスチャン・バッハ（1685-1750）の代表的な器楽曲及び声楽曲を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第3回	古典派（1） 古典派の音楽の特徴について概観したのち、ヨーゼフ・ハイドン（1732-1809）とヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756-1791）の声楽曲を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60

第4回	古典派（2） ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770-1827）の交響曲、弦楽四重奏曲、ピアノ・ソナタなどを鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第5回	ロマン派（1） ロマン派の音楽の特徴について概観したのち、フランツ・シューベルト（1797-1828）とローベルト・シューマン（1810-1856）の歌曲やピアノ曲を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第6回	ロマン派（2） フレデリック・ショパン（1810-1849）、フランツ・リスト（1811-1886）、ヨハネス・ブラームス（1833-1897）のピアノ曲を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第7回	ロマン派（3） ジュゼッペ・ヴェルディ（1813-1901）やジャコモ・プッチーニ（1858-1924）のオペラを鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第8回	ロマン派（4） エクトル・ベルリオーズ（1803-1869）の標題音楽や、リヒャルト・ワーグナー（1813-1883）の楽劇を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第9回	ロマン派（5） グスタフ・マーラー（1860-1911）の交響曲や、リヒャルト・シュトラウス（1864-1949）の交響詩など、後期ロマン派の作品を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60

第10回	近代（1） 19世紀半ば以降、民族主義的な創作活動を行った作曲家たち、たとえば、ロシアのモデスト・ムソルグスキー（1839-1881）や、チェコのアントニン・ドヴォルザーク（1841-1904）の音楽を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第11回	近代（2） フランスのクロード・ドビュッシー（1862-1918）やモーリス・ラヴェル（1875-1937）など、19世紀末から20世紀にかけての印象主義と呼ばれる音楽を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第12回	近代（3） アレクサンドル・スクリャービン（1872-1915）、イーゴリ・ストラヴィンスキー（1882-1971）、ドミートリイ・ショスタコーヴィチ（1906-1975）ら、ロシアやソ連の作曲家の作品を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第13回	20世紀前半 アルノルト・シェーンベルク（1874-1951）、アントン・ヴェーベルン（1883-1945）、アルバン・ベルク（1885-1935）ら新ウィーン学派の表現主義および12音技法の音楽を鑑賞する。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第14回	20世紀後半以降 ミュージック・セリエル、チャンス・オペレーション、ミニマル・ミュージックなど20世紀後半以降の音楽の諸傾向について学ぶ。	
	授業でとりあげた作品の理解を深めるために、解説書を読んだり、DVDやCDを鑑賞する。	60
第15回	まとめ これまでの授業を総括し、学期末試験対策を行う。	
	まとめプリントを中心にして、これまでの授業の内容を整理して記憶する。	60

授業の方法

- ・配布プリントをもとに、講義を行う。
- ・授業でとりあげる音楽作品のCDやDVDも鑑賞する。ただし、授業では作品の一部しか鑑賞することができないので、自分でも積極的に作品に触れる努力をしてほしい。
- ・授業の終わりに、その日の授業内容を理解しているかどうかを確認するきわめて簡単なテスト（レポート）を行うこともある（授業回数の3分の2程度）。実施日は事前に告知しない。
- ・学期末試験では、授業でとりあげた作曲家とその作品についての知識を問うとともに、あるテーマに沿って論じてもらう。
- ・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

平常点（授業内レポートもしくはテスト）25%及び学期末試験の成績75%により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・授業でとりあげた作曲家とその作品について基礎的な知識を獲得し、明確に説明できる。
- ・西洋クラシック音楽について自分なりの興味を深め、自由に論じることができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

楽譜を読むことが望ましいが、もちろん読めなくても履修可。
西洋クラシック音楽を中心に扱うことを了承されたい。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	美術への招待		
教員名	人見 伸子		
科目ナンバー	1101475080	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

19～20世紀初頭の西洋美術史には、それまでの伝統や価値観に新風をもたらす芸術家が次々に登場した。この授業では、そうした芸術家が挑戦した「伝統」とは何だったのか、彼らをもたらした「革新」が次の世代にどう伝えられたかという点に注目しながら、その芸術を検証していく。毎回提示されるキーワードに注目しながら、それぞれの芸術家や美術作品に関心をもち、理解を深めてほしい。

到達目標

1. 近代美術史の流れを知り、要となる芸術家や作品への理解を深める。
2. 現在開催されている展覧会を訪れ、実際の作品に触れる機会を設け、報告レポートを書く。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	授業の概要 / 近代美術の流れ ・授業計画やテキストについて説明する。	
	シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。	60分
第2回	アングルと新古典主義 ・19世紀初頭にフランスで活躍したアングルと、古代美術復興の新たな動きについて	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第3回	ジェリコーとロマン主義 ・新古典主義と対峙するロマン主義、その流れの中で当時の事件にも敏感に反応したジェリコーについて	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分

第4回	フリードリヒ：風景画の黄金期 ・自然と真摯に向き合って風景を描くとともに、新しい宗教画の創造を目指したドイツの画家フリードリヒについて	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第5回	J.F. ミレーとバルビゾン派 ・働く農民の姿を生き生きと描いたミレーと、彼とともにバルビゾンで活動した画家たちについて	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第6回	ロセッティとラファエル前派 ・イギリス・ヴィクトリア朝の美術界に新風を吹きこんだロセッティとラファエル前派の仲間たちについて	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第7回	モリスと近代デザインの誕生 ・ラファエル前派 第2世代のモリスは、植物モチーフを用いた新しいデザインを創造した。	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第8回	モネと印象主義 ・印象派の中心画家であり、光と水の表現に生涯をかけたモネについて	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第9回	ゴッホとジャポニスム ・短い生涯ながら圧倒的な存在感を放つゴッホを、日本美術との関わりから考察	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分

第10回	ガレとガラス工芸 ・ナンシーで活躍したガラス工芸作家ガレの作品とその芸術の源流について	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第11回	藤田嗣治とエコール・ド・パリ ・エコール・ド・パリの中心画家として、国境を越えて活躍した藤田嗣治について	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第12回	ピカソとキュビズム ・20世紀初頭、美術の新時代を築いたキュビズムとその代表画家ピカソについて	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第13回	カンディンスキーと抽象絵画 ・ミュンヘンで活動したグループ「青騎士」と代表画家カンディンスキーについて	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第14回	マグリットとシュルレアリスム ・マグリットとシュルレアリスム（超現実主義）の展開について	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第15回	まとめ ・授業全体を振り返り、近代美術の潮流を確認する。	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分

授業の方法

毎回プリントを配布し、スライドやビデオで画像を提示しながら、講義形式で授業を進める。最新の展覧会情報を紹介するので、美術館に足を運び、実際の作品を見る機会を作ってほしい。

成績評価の方法

中間の報告レポート(30%)、期末のレポート課題(50%)、平常点(20%)を総合して評価する。
単位認定には、3分の2以上の出席と2回のレポート提出が必須条件である。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識/先修科目/関連科目

とくになし。

テキスト

高階秀爾監修 『[カラー版] 西洋美術史』 美術出版社
ISBN4-568-40064-3

参考書

授業の中で随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	人間と美術		
教員名	人見 伸子		
科目ナンバー	1301475090	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要	
古今東西の美術作品には、多くのモチーフが繰り返し描かれている。それは自然や天体、動植物、私たちの身の回りの品々など多岐にわたり、年月を経て特別の意味を持つようになったものもある。この授業では特に人気があったモチーフをいくつか選び、時代や地域によって異なる意味や具体的な作品をあげながら、考察する。	

到達目標	
1. それぞれのモチーフが使われた具体例をスライドやビデオで確認し、その多様性の一端に触れる。 2. 現在開催されている展覧会を訪れ、実際の作品に触れる機会を設け、報告レポートを書く。	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要 / 星のモチーフ ・ 授業計画について概要を説明する。 ・ 星を描いた作品を取り上げ、象徴性を考える。	
	シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。	60分
第2回	虹のモチーフ ・ 雨後の空に広がる虹の象徴性と具体的な作品について	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第3回	海を描いた絵画 ・ 古来から繰り返し描かれた海景画について、象徴性や具体例を考察	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分

第4回	動物 ① ワシ（鷲）とタカ（鷹） ・古今東西を問わず人気があったワシとタカのモチーフについて	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第5回	動物 ② 犬 ・猫と並んで現在でもペットとして愛される犬は、美術のモチーフとしても重要	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第6回	動物 ③ ドラゴン / 竜 ・想像上の動物ドラゴンは美術作品の重要なモチーフであり、西洋と東洋では意味合いが異なる。	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第7回	動物④白鳥 ・美しい姿でありながら、二面性を有する白鳥のモチーフについて	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第8回	花 ① ユリ（百合） ・花の中でもバラと並んで美術作品に数多く登場するユリについて、その具体例と象徴性を考察	
	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第9回	花 ② ヒマワリ ・時代や地域によって異なるヒマワリの象徴性と具体的な作品について	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分

第10回	楽器のモチーフ ・音楽と結び付いた楽器のモチーフについて考察	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第11回	鏡のモチーフ ・呪術的な意味合いから現実を映し出す道具まで、鏡がもつ多様な象徴性を考察	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第12回	窓のモチーフ ・室内を描いた作品の中で、窓はさまざまな象徴性を伴う。	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第13回	鳥瞰図 ・空を飛ぶ鳥が見るであろう風景は、人間の可能性を追求する。	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第14回	四季を描いた絵画 ・古今東西を問わず美術史に彩りを添えてきた、四季図について考察	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分
第15回	まとめ ・授業全体を振り返り、美術表現の多様性を確認する。	
	参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネット-を利用して、他の事例を確認する。	60分

授業の方法

毎回プリントを配布し、スライドやビデオで画像を提示しながら、講義形式で授業を進める。最新の展覧会情報を紹介するので、美術館に足を運び、実際の作品を見る機会を作ってほしい。

成績評価の方法

中間の報告レポート(30%)、期末のレポート課題(50%)、および出席点(20%)を総合して評価する。
単位認定には、3分の2以上の出席と2回のレポート提出が必須条件である。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識/先修科目/関連科目

特になし。

テキスト

特に指定しない。

参考書

高階秀爾監修『[カラー版] 西洋美術史』美術出版社 ISBN4-568-40064-3
その他、授業の中で随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	多文化主義と文学		
教員名	大熊 昭信		
科目ナンバー	1301475100	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要	
<p>今日の多文化社会とはどのような社会なのか。どのように形成されたのか。そこでの文化はいったいどのような形をとっているのか。また異文化間の交流にはどのような形態があるのか。そうしたことを概論的に紹介しながら、現在、そうした状況から生産され消費されている文学作品のうちで、主として英米文学や英語圏の文学、それに日本文学から取り上げ、その概要や作家の抱えた問題などを、適宜映像や生活文化的な資料にも参照しつつ、批評的に解説する。あわせて多文化社会の文学の特徴であるクレオールやエクソフォンの文学、世界文学の問題を紹介し、翻訳の役割を考える。</p>	

到達目標	
<p>多文化社会とそこで生まれた文学を理解し、それを批評的に分析できる能力を涵養する。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	第1回 講義の概要	
	<p>予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。</p>	60分
第2回	第2回 多文化社会の形成	
	<p>予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。</p>	90分
第3回	第3回 多文化社会のありかた(1)	
	<p>予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。</p>	90分

第4回	第4回 多文化社会のありかた（2）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第5回	第5回 多文化社会における移動—作家と作品	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第6回	第6回 植民地の作家の場合（1）—祖国在住	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第7回	第7回 植民地の作家の場合（2）—宗主国への移民	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第8回	第8回 宗主国の作家（1）—移住者	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第9回	第9回 宗主国の作家（2）—旅行者、コスモポリタン	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分

第10回	第10回 クレオール	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第11回	第11回 エクソフォニー	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第12回	第12回 翻訳	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第13回	第13回 世界文学としての英語文学	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第14回	第14回 日本の場合—在日と移民、アイヌと沖縄	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第15回	第15回 まとめ	
	これまでの講義概要を通読して、質問内容を整理しておく。	90分

授業の方法

パソコンからの映像を見ながらの講義を中心とするが、質疑応答の時間を求めて双方向の授業にする。

成績評価の方法

期末試験(80%)と授業への積極的な貢献度(20%)などで総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識/先修科目/関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

第1回の授業概要で参考書リストを成蹊ポータルで配信する。あえて挙げれば
大熊昭信・庄司宏子編著『グローバル化の中のポストコロナリズム—環太平洋諸国の英語文学と日本語文学の可能性』(風間書房、2013)
20世紀英文学研究会編『英文学と他者』(金星堂、2014)
アッシュクロフト、ビル、ガレス・グリフィス、ヘレン・ティフィン『ポストコロニアルの文学』木村茂雄訳、青土社、1998)

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	サブカルチャーと文学		
教員名	清水 均		
科目ナンバー	1301475110	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

かつては「サブカルチャー」とみなされ、文字通り「サブ」扱いされていた（ポジティブにもネガティブにも）アニメやマンガといった文化領域が、メインカルチャーあるいはポップカルチャーとして「日本を代表する文化」という扱い方をされるようになって久しい。「文化」は私たちにあって何らかの価値や意味があるとされるが、特に、私たちの日々の営みと地続きに存在する「サブカルチャー/ポップカルチャー」は、意識的にも無意識的にも、あるいは好きでも嫌いでも、私たちの生活様式や生活感情そのものに価値や意味をもたらすものであるといえ、私たちは嫌でもその強い影響下にあるといえる。そうした文化環境にあって、「文学」は「活字離れ」という一括りの元でその地盤沈下がたびたび指摘されるが、では、現代の「文学」は「サブカルチャー/ポップカルチャー」から疎外された存在（＝無関係）でいられるのであろうか？

本講座では、「サブカルチャー/ポップカルチャー」を中心とする現代の文化状況を俯瞰すると同時に、そうした文化状況における「文学」の立ち位置を、主に村上春樹において検証することとする。

到達目標

①日本の現在の文化環境についての概要を知ることによって、現代人である私たちが、今どのような世界に存在しているのかを把握できる。

②現代社会が戦後、特に高度経済成長期とバブル期を経てどのように形成されてきたかについて、主に「文化」の視点によってその歴史観を説明することができる。

③私たちが生きる現代にあって、自らが他者や社会とどのように関わりながら生きていけるのかということのヒントを得ることができる。

④様々な文化の中において現代日本文学は何を表現してきたのか、今後何を表現すべきなのかを見通すことができる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	序、授業ガイダンス/イントロダクション I、村上春樹とサブカルチャー(1) 高度経済成長の終焉直後 ＝【村上春樹「風の歌を聴け」の問題系】 ①高度経済成長概要	
	(予習) 「高度経済成長」に関して、映像(Youtube等を含む)や関連書籍によって各自でその概要を理解しておく。 第7回目の授業時に予定している「到達度確認レポート」提出までの期間に各自予習し、まとめておく。 (復習) 授業内容のポイントをまとめておく(これも「到達度確認レポート」として提出する)。	60分～90分
第2回	I、村上春樹とサブカルチャー(1) 高度経済成長の終焉直後 ＝【村上春樹「風の歌を聴け」の問題系】 ②サブカルチャーの諸相(CM、大衆音楽)	
	(予習) 「高度経済成長」に関して、映像(Youtube等を含む)や関連書籍によって各自でその概要を理解しておく。 第7回目の授業時に予定している「到達度確認レポート」提出までの期間に各自予習し、まとめておく。 (復習) 授業内容のポイントをまとめておく(これも「到達度確認レポート」として提出する)。	60分～120分
第3回	I、村上春樹とサブカルチャー(1) 高度経済成長の終焉直後 ＝【村上春樹「風の歌を聴け」の問題系】 ③サブカルチャーの諸相(マンガ、ドラマ、映画)	
	(予習) 「高度経済成長」に関して、映像(Youtube等を含む)や関連書籍によって各自でその概要を理解しておく。 第7回目の授業時に予定している「到達度確認レポート」提出までの期間に各自予習し、まとめておく。 (復習) 授業内容のポイントをまとめておく(これも「到達度確認レポート」として提出する)。	60分～120分

第4回	I、村上春樹とサブカルチャー（1） 高度経済成長の終焉直後 ＝【村上春樹「風の歌を聴け」の問題系】 ④サブカルチャーの諸相（ウオークマン登場） ⑤「風の歌を聴け」の解釈 ⑥バブル（虚構の時代へ）	60分～120分
	（予習） 「高度経済成長」に関して、映像（Youtube等を含む）や関連書籍によって各自でその概要を理解しておく。 第7回目の授業時に予定している「到達度確認レポート」提出までの期間に各自予習し、まとめておく。 （復習） 授業内容のポイントをまとめておく（これも「到達度確認レポート」として提出する）。	
第5回	II、村上春樹とサブカルチャー（2） バブルとその崩壊 ＝【1990年代前後の村上春樹】 ①村上春樹「ノルウェイの森」「ダンス・ダンス・ダンス」「国境の南、太陽の西」「ねじまき鳥、クロニクル」	60分～120分
	（予習） 「高度経済成長」に関して、映像（Youtube等を含む）や関連書籍によって各自でその概要を理解しておく。 第7回目の授業時に予定している「到達度確認レポート」提出までの期間に各自予習し、まとめておく。 （復習） 授業内容のポイントをまとめておく（これも「到達度確認レポート」として提出する）。	
第6回	II、村上春樹とサブカルチャー（2） バブルとその崩壊 ＝【1990年代前後の村上春樹】 ②同時代の女性作家（吉本ばなな・山田詠美） ③流通する人生訓的な詩的フレーズとJ-POP	60分～90分
	（予習） 「高度経済成長」に関して、映像（Youtube等を含む）や関連書籍によって各自でその概要を理解しておく。 第7回目の授業時に予定している「到達度確認レポート」提出までの期間に各自予習し、まとめておく。 （復習） 授業内容のポイントをまとめておく（これも「到達度確認レポート」として提出する）。	
第7回	* 到達度確認レポートの提出	60分～90分
	III、村上春樹とサブカルチャー（3） 2000年代＝【「1Q84」の問題系】 ①「新世紀エヴァンゲリオン」とその変容	
第8回	III、村上春樹とサブカルチャー（3） 2000年代＝【「1Q84」の問題系】 ②エヴァ以降のサブカルチャーの諸相（「デスノート」、宮藤官九郎作品）	60分～90分
	（予習） 村上春樹『1Q84』（計3巻）を読んでおく。 （復習） 授業内容のポイントをまとめておく（「最終レポート」の中の課題の一つとして提出する）。	
第9回	III、村上春樹とサブカルチャー（3） 2000年代＝【「1Q84」の問題系】 ③エヴァ以降のサブカルチャーの諸相（「下妻物語」）	60分～90分
	（予習） 村上春樹『1Q84』（計3巻）を読んでおく。 （復習） 授業内容のポイントをまとめておく（「最終レポート」の中の課題の一つとして提出する）。	

第10回	Ⅲ、村上春樹とサブカルチャー（3） 2000年代＝【「1Q84」の問題系】 ④「クレヨンしんちゃん劇場版」	
	（予習） 村上春樹『1Q84』（計3巻）を読んでおく。 （復習） 授業内容のポイントをまとめておく（「最終レポート」の中の課題の一つとして提出する）。	60分～90分
第11回	Ⅲ、村上春樹とサブカルチャー（3） 2000年代＝【「1Q84」の問題系】 ⑤エルサレム賞スピーチと伊坂幸太郎「モダンタイムズ」	
	（予習） 村上春樹『1Q84』（計3巻）を読んでおく。 （復習） 授業内容のポイントをまとめておく（「最終レポート」の中の課題の一つとして提出する）。	60分～90分
第12回	Ⅲ、村上春樹とサブカルチャー（3） 2000年代＝【「1Q84」の問題系】 ⑥村上春樹「1Q84」－1	
	（予習） 村上春樹『1Q84』（計3巻）を読んでおく。 （復習） 授業内容のポイントをまとめておく（「最終レポート」の中の課題の一つとして提出する）。	60分～90分
第13回	Ⅲ、村上春樹とサブカルチャー（3） 2000年代＝【「1Q84」の問題系】 ⑦村上春樹「1Q84」－2	
	（予習） 村上春樹『1Q84』（計3巻）を読んでおく。 （復習） 授業内容のポイントをまとめておく（「最終レポート」の中の課題の一つとして提出する）。	60分～90分
第14回	Ⅲ、村上春樹とサブカルチャー（3） 2000年代＝【「1Q84」の問題系】 ⑧サブカルチャーの諸相（「魔法少女まどか☆マギカ」）	
	（予習） 村上春樹『1Q84』（計3巻）を読んでおく。 （復習） 授業内容のポイントをまとめておく（「最終レポート」の中の課題の一つとして提出する）。	60分～90分
第15回	Ⅲ、村上春樹とサブカルチャー（3） 2000年代＝【「1Q84」の問題系】 ⑨サブカルチャーの諸相（「サイコパス」他）	
	（復習） 第15回目の授業内容のポイントをまとめておく（「最終レポート」の中の課題の一つとして提出する）。	60分～90分

授業の方法

授業内容からすれば学生間の意見交換ができる演習形式が望ましいが、通例の受講者数からすると、基本的には講義形式をとらざるをえない。「到達度確認レポート」と「最終レポート」において授業内容の把握度、理解度を計るので日頃の予習・復習を各自充分に行なっておいてほしいし、それを含めて「授業」ということになる。

尚、第1回目の授業から内容に深く立ち入るので、その後の授業理解のためにも受講者は最初の授業から出席してほしい。

成績評価の方法

1、平常点：「到達度確認レポート」に対して50%（コメントペーパーの内容に対して+ α の評価をする）

2、「最終レポート」：50%

尚、「到達度確認レポート」と「最終レポート」の課題は以下の通りである。

「到達度確認レポート」の課題：①6回目までの授業のポイントまとめ②「高度経済成長」についての調査レポート

「最終レポート」の課題：①7回目～15回目の授業のポイントまとめ②これについては授業時に指示する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要な予備知識等はない。

テキスト

特に指定するものはない。授業は随時プリント資料を配布してこれを使用する。

参考書

適当であると思われるものについては授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	舞台芸術論		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	1201475120	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

アメリカン・ミュージカル研究入門：統合ミュージカル（integrated musicals）の最高傑作といわれる『ウェスト・サイド物語』West Side Story（1957年舞台版初演）を題材として取り上げ、必要に応じてその映画版（1961）や他のフィルム・ミュージカルを見ながら、アメリカン・ミュージカルとはどんなもので、研究対象としてどんな分析ができるのか、について講義します。1990年代以降、音楽学、演劇学、映画学、ゲイ・スタディーズなどが相互乗り入れすることでミュージカル研究は合衆国で本格化しますが、本講義ではその最新の知見をふまえ、アメリカン・ミュージカル研究の（アメリカン・ミュージカルの、ではありません）多様な切り口を提示します。

到達目標

統合ミュージカル・アリモノ・エンジェルズ・トライアウト・白人化といったアメリカン・ミュージカルを演劇学の対象として研究するのに必要な基本概念を「身につける」＝ただ理解するのではなく、自分で使いこなせるようになる。これによってDP1を実現します。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション(1) この講義で何を学ぶのか・そもそも大学の講義では何が学べるのか	
	映画『ウェスト・サイド物語』(152分)を見ておく。シラバスの内容に目を通す	180
第2回	イントロダクション(2) 『ウェスト・サイド物語』を参照項にする理由・「芝居見たまま」の意義。授業内課題(1)提出	
	授業内課題(2)提出準備。授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウェスト・サイド物語』を見直す。	60
第3回	レビューと統合ミュージカル。授業内課題(2)提出	
	授業内課題(3)提出準備。授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウェスト・サイド物語』を見直す。	60

第4回	真正性と贗物性 (1) 物語。。授業内課題 (3) 提出	
	授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第5回	意味と非意味 (1) ナンバー	
	授業内課題 (4) 提出準備。授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第6回	意味と非意味 (2) ダンスミュージカル。授業内課題 (4) 提出	
	授業内課題 (5) 提出準備。授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第7回	アメリカン・ミュージカル以外の世界各地の音楽劇。授業内課題 (5) 提出	
	授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第8回	到達度確認テスト1: 「『ウエスト・サイド物語』見たまま」	
	これまで学んできたことをもとに、映画『ウエスト・サイド物語』を再度通覧し、ミュージカルでは何を「見る」か、何を「聞く」かを考える。	180
第9回	作品外のインフラストラクチャー	
	授業内課題 (6) 提出準備。授業内容をよく復習する	60

第10回	アメリカン・ミュージカル以外のアメリカ演劇。授業内課題（6）提出	
	授業内課題（7）提出準備。授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウェスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第11回	セクシュアリティ：作品内、作り手、観客。授業内課題（7）提出	
	授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウェスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第12回	エスニシティ：作品内、作り手、観客	
	授業内課題（8）提出準備。授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウェスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第13回	階級：作品内、作り手、観客。授業内課題（8）提出	
	授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウェスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第14回	真正性と贗物性（2）音楽	
	授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウェスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第15回	到達度確認テスト2	
	これまで学んできたことを総復習。統合ミュージカル・アリモノ・エンジェルス・トライアウト・白人化といったアメリカン・ミュージカルを演劇学の対象として研究するのに必要な基本概念を「身につける」＝ただ理解するのではなく、自分で使いこなせるようにしておく。	180

授業の方法

講義形式。

成績評価の方法

授業への積極的な参加（32%）：授業内に課題を解いてもらいます（計8回）。
到達度確認テスト1（30%）：映画『ウェスト・サイド物語』の任意の5分程度のシークエンスを上映し、そのシークエンスであなたが何を見たか、何を聞いたかを書いてもらいます（「見たまま」を書く要領です。「見たまま」については講義で説明します）。
到達度確認テスト2（38%）：用語説明＋記述式の、よくあるタイプの期末試験を実施します。

成績評価の基準

実践大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

受講希望者は受講前に映画『ウェスト・サイド物語』（152分）を事前に（少なくとも）一度見ておいてください。

テキスト

テキストは使用しません。

参考書

講義で随時指示。日本語の研究文献は皆無に等しいので、受講者の関心・意欲及び語学力に応じて、英語文献を紹介したり、あるいは講義で引用したりします。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	ファッションと文化		
教員名	和田 早苗		
科目ナンバー	1201475140	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

ファッションを服の形態についてのみ表すことばとしてではなく、人や民族、歴史にかかわる文化としてとらえていく。講義では、ファッションを、衣服・服飾・服装・流行・・・などを表すことばとして広く扱う。まず、人間にとってファッション（服）とは何であり、なぜ人は装うのかを考える。次に、衣服の役割・機能面を概観した後でファッションの歴史（服飾史）をたどりながらその時代背景や生活感情との関わりの中で服をとらえていく。また、現象としての流行やファッション産業などにも触れる。外面的な部分から内面的な部分まで、様々な角度からファッション（服）と人との関係について考える。なお、授業の進捗により、内容や順序を変更する場合もある。

到達目標

DP1（教養の修得）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。
 ①文化的側面から、ファッション（服）をとらえて、説明することができる。
 ②ファッション（服）と人との関わりについて自分なりに考えを述べるができる。
 ③ファッションに関する事象についてグループで意見交換を行い、他者の意見から様々な考え、見方について学び、自分の考えを深めることができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス 授業の内容、授業の進め方、受講上の注意点 ファッションとは何か	
	【予習】 シラバスを読み、講義内容の全体像を把握する。 【復習】 ファッション（服）についての自分の考えを整理する。	60
第2回	人はなぜ服を着るのか	
	【予習】 第1回目の授業内容をふまえて、人にとってファッション（服）とは何か、自分の考えを持つ。 【復習】 文学作品の中の服飾描写の例を確認する。	60
第3回	衣服の役割	
	【予習】 衣服にはどのような役割があるのか、自分なりに考えておく。 【復習】 今回取り上げた内容について、具体例を考える。	60

第4回	衣服の機能	
	【予習】快適な衣服について自分の考えを整理しておく。 【復習】日本の季節に応じた服装について理解を深める。	60
第5回	民族服、西洋ファッション史 (1)	
	【予習】様々な気候に適した服とはそれぞれどのようなものか、考えをまとめておく。 【復習】歴史の流れの中でのファッション、着る人とファッションとのかかわりについて考えを整理する。	60
第6回	西洋ファッション史 (2)	
	【予習・復習】歴史の流れの中でのファッション、着る人とファッションとのかかわりについて考えを整理する。	60
第7回	西洋ファッション史 (3)	
	【予習・復習】歴史の流れの中でのファッション、着る人とファッションとのかかわりについて考えを整理する。	60
第8回	日本服飾史 (1)	
	【予習・復習】歴史の流れの中での服飾、着る人と服飾とのかかわりについて考えを整理する。	60
第9回	日本服飾史 (2)	
	【予習・復習】歴史の流れの中での服飾、着る人と服飾とのかかわりについて考えを整理する。	60

第10回	服飾と文様	
	【復習】着物の文様の構図や意味などについて理解を深める。	60
第11回	ファッションと流行	
	【復習】流行という事象とファッションとのかかわりについて自分の考えを整理する。	60
第12回	第二次世界大戦後の日本の流行色・ファッションの変遷	
	【復習】ファッションと経済、社会生活とのかかわりについて理解する。	60
第13回	ファッション産業	
	【復習】今回取り上げた内容を身近な例に当てはめて説明できるようにする。	60
第14回	様々なファッション	
	【復習】今回取り上げた内容と自分とのかかわりについて考える。	60
第15回	季節感と服、着心地とは	
	【予習】着心地について考えをまとめておく。 【復習】学期末試験に備え、これまでの学修内容を確認する。	90

<p>授業の方法</p> <p>スライド、DVDなど視聴覚教材を使用しながら講義を中心に授業を進める。その日の配布資料や講義内容に関する授業内の小レポートを毎回実施する。小レポートの記述内容の一部を紹介しながら授業を進めることもある。また、少人数で授業の内容に関するディスカッションを行うことも予定している。</p> <p>なお、第1回目の授業時に受講上の注意点を説明する。 私語には厳しく対処する。</p>
<p>成績評価の方法</p> <p>授業内の提出物（約70%）、筆記試験（約30%）、授業への参加状況などに基づき総合的に評価を行う。</p>
<p>成績評価の基準</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化的な側面から、ファッション（服）をとらえているか。 ・ファッション（服）と人との関わりについて自分なりに説明することができるか。 ・ファッションに関する事象について、他者の意見から様々な考え方、見方について学び、自分の考えを深めることができるか。
<p>必要な予備知識／先修科目／関連科目</p> <p>特になし</p>
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>
<p>参考書</p> <p>特になし</p>
<p>質問・相談方法等(オフィス・アワー)</p> <p>授業終了後に教室で受け付ける。</p>

科目名	映像と文化		
教員名	滝浪 佑紀		
科目ナンバー	1201475150	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

私たちと映像文化の関係はいかなるものだろうか？ 120年にわたる映画史を辿りつつ、最近のスペクタクル映画・テレビ・ミュージックビデオにも考察の対象を広げることによって、20世紀・21世紀の映像文化について、概観的かつ多角的にアプローチする。

本科目では、イントロダクションに続いて、映画の発明から、サイレント映画・トーキー映画、ニューウェーブ、近年のブロックバスター映画までを、ハリウッド、欧州、日本映画を中心にたどり、続いて、その応用編として、(1)サイレント映画美学、政治的映画、近年の特撮CG映画の考察、(2)映画を超えて、テレビやミュージックビデオ、アニメの分析に着手する。

より具体的に言えば、グリフィス、エイゼンシュタイン、小津、溝口、ヒッチコック、キャブラ、ウェルズ、ゴダール、大島、スピルバーグ、タランティーノ、ノーランなどの映画監督の作品を扱うことになるだろう。また、授業の進行に応じて、学生からもリクエストを募り、みなさんの興味のある作品についても授業で扱っていきたいと考えている。

到達目標

映画や映像文化に対し、ただ楽しむだけではなく、批判的視点も備えた鑑賞を可能にする。と同時に、映画をより楽しく見ることができるようにしたい。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	映画を見るとは？：編集の原理 〔キーワード〕 ウォン・カーウァイ、小津安二郎、黒沢清、編集、視線	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第2回	映画史Ⅰ：初期映画から物語映画へ 〔キーワード〕 リュミエール兄弟、D・W・グリフィス、映画言語の発展、編集の文法、物語映画	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第3回	映画史Ⅱ：サイレント映画全盛期 〔キーワード〕 ジョセフ・フォン・スタンバーグ、セルゲイ・エイゼンシュタイン、欧州アヴァンギャルド映画、リズム、サイレント映画美学	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分

第4回	映画史Ⅲ：トーキー初期 〔キーワード〕 フランク・キャブラ、バスビー・パークレー、小津安二郎、編集のリズムの変化、ミュージカル、第二次世界大戦前に映画が含意していた「夢」	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第5回	映画史Ⅳ：戦後映画 〔キーワード〕 オーソン・ウェルズ、フレッド・アステア、フィルム・ノワール、B級映画、スタジオ・システムの凋落の兆し、新しい映画文法	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第6回	映画史Ⅴ：ニューウェーブ 〔キーワード〕 ジャン・リュック・ゴダール、大島渚、吉田喜重、映画の持つ政治性、非物語映画	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第7回	映画史Ⅵ：ニューウェーブ以降 〔キーワード〕 アメリカン・ニュー・シネマ、プログラム・ピクチャー、勝新太郎、ロマン・ポランスキー、ヴィム・ヴェンダース	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第8回	映画史Ⅶ：ブロックバスター 〔キーワード〕 スティーブン・スピルバーグ、スターウォーズ、スペクタクル、大作映画とは何か？	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第9回	映画史Ⅷ：最近の映画 〔キーワード〕 リドリー・スコット、クエンティン・タランティーノ、クリストファー・ノーラン、新しい編集法、CG、特撮	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分

第10回	映画史を捉え直すⅠ：サイレント映画美学 〔キーワード〕 小津安二郎、エルンスト・ルビッチ、1920年代のハリウッド映画、戦間期大衆文化、大恐慌	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第11回	映画史を捉え直すⅡ：政治的映画 〔キーワード〕 大島渚、テレビ、1968年、ポリティカル・モダニズム	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第12回	映画史を捉え直すⅢ：2000年以降のアクション映画 〔キーワード〕 バットマン、ミッション・インポッシブル、マトリックス、CG、特撮、人間と機械の関係、人間とコンピュータの関係、スマートフォン	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第13回	映画以外の映像文化Ⅰ：テレビ 〔キーワード〕 野球中継、ニュース、映画とテレビの相違点、スタンリー・カヴェル	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第14回	映画以外の映像文化Ⅱ：ミュージックビデオ 〔キーワード〕 MTV文化、You Tube、映画とは異なる編集の原理、アトラクション	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分
第15回	映画以外の映像文化Ⅲ：アニメ 〔キーワード〕 アニメ、ジブリ作品、リミテッド・アニメーション、3D	
	授業時に指定した映像作品について、あらためて鑑賞すること。	60分

授業の方法

映像を共に鑑賞し、それについて論じる。

成績評価の方法

学期末レポートを課す。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくに予備知識はいらないが、映画や映像文化に対し、強い思い入れがあることが望ましい（好き嫌いは問わない）。

テキスト

必要があれば、授業内で周知します。

参考書

ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシー 1』堤和子・増田珠子・堤龍一郎訳、フィルムアート社、2003年、映画の専門用語を学ぶにあたって有益

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	映像と人間		
教員名	北小路 隆志		
科目ナンバー	1201475160	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

テーマは「映画のより分析的な見方」を学んだうえで、「映画を通して《見ること》の多様性や歴史」を考察し、その一帰結として、現在の「監視社会」を捉えることです。ふだん皆さんは映画館に出かけたり、家で鑑賞するなどして映画に接し、よほど難解であったり特殊であったりする作品でもない限り、その内容を理解しているはずです。しかし、皆さんは本当に映画を《見ること》ができていますか。単にそこで展開される物語に一喜一憂しているだけではないでしょうか。19世紀末に誕生した映画は、20世紀を《映画の世紀》とする見方も成立するほど、巨大な娯楽産業として世界中で影響力を持ち、わたしたちの視覚のあり方を決定づけました。映画は長い時間をかけて、さまざまな物語を語るための技法を身につけ、それを洗練させたり変化させたりしてきており、今なおさまざまな視覚表現の規範となっています。この授業では、まず（物語の）「内容」に傾きがちなわたしたちの映画鑑賞のあり方に疑問を呈し、（物語の）形式（語り方や映画技法、技術的な側面）により焦点を当てた鑑賞法について学びます。さらに、そうした下地を会得したうえで、「見ること（＝視覚）」の歴史や多様性について考察を進めましょう。視覚は歴史のあるいは哲学的にどのようなものとして把握されてきたのか。19世紀から20世紀への移行期に出現した新たな視覚芸術＝映画を通して、ほとんどの人にとって当然のものとしてある《視覚＝見ること》についての認識を新たにしてみようと考えています。この授業は、そうした「見ること」の多様性や歴史の帰結として、「監視社会」を捉え、視覚に伴う《権力》の問題を扱うことで締め括る予定です。

到達目標

①現在もなお規範となっている映画の基本的な技法を学び、より分析的な映画（映像）鑑賞法を身につけることができる。
 ②映画を通して「見ること＝視覚」の歴史や哲学を学び、とりわけ、「見ること＝視覚」と「権力」の関係から生じる、「監視社会」についての理解を深めることができる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス ・授業の概要や狙い、進め方について説明する。 ・参加者各自に、これまで抱えてきた映画観について発表を求め、検討する。 ・授業で使用する資料の配布。	
	・シラバスの内容を読み込み、あらかじめ授業内容を把握する。 ・各自の映画観（これまでどのような映画を見てきたか、どんな映画が好きか、それはなぜか、など）をまとめておくこと。	60
第2回	映画の分析的鑑賞に向けての授業① ・映画の基本的性格をめぐる考察～映画の「平面性」とフレームによる限定について。 （関連資料の配布）	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。	60
第3回	映画の分析的鑑賞に向けての授業② ・前回の授業内容の続きと応用。 ・具体的な分析を通し、関連するさまざまな演出法を確認する。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。	60

第4回	映画の分析的鑑賞に向けての授業③ ・ 映画的空間についての考察。 ・ 画面と画面外空間について。	
	・ 授業で習った内容の確認と理解。 ・ 関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・ 授業で紹介した映画の鑑賞。	60
第5回	映画の分析的鑑賞に向けての授業④ ・ 前回の授業内容の続きと応用。 ・ 具体的な分析を通し、関連するさまざまな演出法を確認する。	
	・ 授業で習った内容の確認と理解。 ・ 関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・ 授業で紹介した映画の鑑賞。	60
第6回	映画の分析的鑑賞に向けての授業⑤ ・ ショットとは何か？ ・ さまざまなショットの分類法。	
	・ 授業で習った内容の確認と理解。 ・ 関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・ 授業で紹介した映画の鑑賞。	60
第7回	映画の分析的鑑賞に向けての授業⑥ ・ 前回の授業の続きと応用。 ・ 具体的な分析を通し、関連するさまざまな演出法を確認する。 ・ これまでの授業内容の理解度を確認するためのもの。	
	・ 授業で習った内容の確認と理解。 ・ 関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・ 授業で紹介した映画の鑑賞。	60
第8回	映画の分析的鑑賞に向けての授業⑦ ・ 聴覚的表象としての映画。 ・ 映画におけるサウンドの分類法。	
	・ 授業で習った内容の確認と理解。 ・ 関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・ 授業で紹介した映画の鑑賞。	60
第9回	映画の分析的鑑賞に向けての授業⑧ ・ 前回の授業の続きと応用。 ・ 具体的な分析を通し、関連するさまざまな演出法を確認する。	
	・ 授業で習った内容の確認と理解。 ・ 関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・ 授業で紹介した映画の鑑賞。	60

第10回	映画の分析的鑑賞に向けての授業・まとめ① ・小レポート（これまでの授業内容の理解度を確認するため）の課題作品の上映。	
	・課題作品についての小レポートのための全体の復習、準備、執筆。	120
第11回	映画の分析的鑑賞に向けてのj授業・まとめ② 前回の課題作品についての検証と解説。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・それぞれの小レポートについての振り返り。	60
第12回	映画の起源とそこでの眼差し（視覚）のあり方についての授業① ・シネマトグラフ（映画）の誕生。 ・シネマトグラフと植民地主義・日本。	
	・授業で習った内容の確認と理解。	60
第13回	映画の起源とそこでの眼差し（視覚性）のあり方についての授業② ・見る側と見られる側の非対称性について。 ・課題作品の紹介	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・課題作品を鑑賞し、各自の考えをまとめるなど。	120
第14回	「監視社会」と映画についての授業① ・課題作品についての発表、討議、解説。 ・「覗き見」（映画）の視線と「権力」。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・課題作品の振り返り。	60
第15回	「監視社会」と映画についての授業② ・監視社会についての考察。 ・全体のまとめ。	
	・授業で習った内容の確認と理解。 ・全体の復習と期末レポートの準備。	60

授業の方法

授業は講義を中心に進めるが、適宜、関連する映画の（主として部分的な）上映も行う。もちろん、授業の一環としての上映であり、そもそも映画についての授業である以上、真剣な態度での鑑賞が必要とされ、上映作品についての口頭での質問やディスカッションを行う場合もある。なお、授業に関連する映画を随時、自主的に鑑賞することが望ましいが、それに要する時間については、特記したケースを除き、基本的に上記の準備学修時間に含まれない。

なお、各レポート、テストの狙いは以下の通りである。

小テスト：授業や関連資料での学習を通し、映画の基本的な技法について理解でき、それを作品鑑賞で具体的に応用し、文章化できるかを確認する。

小レポート：先のテストの結果を踏まえた改善ができているか、さらに映画の主題を正確に把握し、必要に応じて調べるなどして文章化することができるかを確認する。（実施の有無は授業の進行で決める）

期末レポート：授業全体の内容（映画の分析的な鑑賞法や視覚性に関する諸問題についての理解）をどこまで自分のものとし、（できれば）各自のオリジナルな発想を展開できているかを確認する。

成績評価の方法

期末レポート（50%）、小レポートも含め、授業での発表や発言など、授業への積極的な参加（50%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

「映画理論講義」（J・オーモン他著、武田潔訳、勁草書房）。授業内で使用する分については配布する。その他については適宜、授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	文化人類学の考え方		
教員名	三吉 美加		
科目ナンバー	1201475170	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要	
<p>本授業は、米国におけるラティーノ、カリブ系、アフリカ系アメリカ人のコミュニティの形成を理解し、各エスニック集団の文化表象について文化人類学的視点から考察するものである。</p> <p>主に検討する集団は、アフリカ系アメリカ人、メキシコ系、プエルトリコ系、ドミニカ系、キューバ系である。米国主流社会との関係性を検討しながら、それぞれのコミュニティにみられる若者文化をみていく。</p>	

到達目標	
<p>受講者は、文化人類学がどのような学問であるかをまず理解し、人種やエスニシティにまつわる社会的文化的事柄を文化人類学的に考察することを学ぶ。</p> <p>また、米国社会のアフリカ系アメリカ人、カリブ系、ラティーノがそれぞれにどのようなコミュニティを形成し、文化的社会的活動を行っているのかについて説明できるようになる。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	配布するプリントをよく読んでおくこと	60分
第2回	文化人類学的とは？ 文化人類学の特徴、学問形成の背景について説明する	
	配布されたプリントをよく読んでくること	60分
第3回	アフリカ系アメリカ人の歴史とコミュニティの形成 米国のアフリカ系アメリカ人の歴史を概観した後、奴隷解放後、どのように全米で黒人コミュニティが形成されていったかを解説する	
	配布されたプリントをよく読んでくること	60分

第4回	<p>アフリカ系アメリカ人のコミュニティ 南部とシカゴ、ワシントンD.C.、ニューヨーク、ロサンゼルスなどの米国大都市部のアフリカ系アメリカ人の生活経験の差について解説する</p>	
	<p>配布されるプリントをよく読んでくること。講義中、言及する都市や州名を地図で確認すること</p>	20分
第5回	<p>ブラックカルチャー 米国の音楽ジャズにおけるアフリカ系アメリカ人やカリブ系の影響、ソウル音楽、R&Bなどに共通してみられる「黒人らしい」特徴について解説する</p>	
	<p>配布されるプリントをよく読んでくること</p>	15分
第6回	<p>ラティーノとは？ ラティーノと呼ばれる人びとはどういう人びとなのだろうか。彼らの米国社会における影響は？なぜ多くのラティーノが米国に流入しつづけるのかについて解説する</p>	
	<p>教科書の該当章をよく読んでくること</p>	30分
第7回	<p>メキシコ系アメリカ人 19世紀半ばの米墨の関係を説明した後、どのような経緯で「メキシコ系米国人」が誕生したかをみていく。また、現在の南西部およびロサンジェルス市のメキシコ系のコミュニティ発の文化を検討していく。とくに若い人びとの間で流行するファッション、音楽、ダンスを検討する。</p>	
	<p>教科書の該当章をよく読んでくること。メキシコ系文化にどのようなものがあるかを各自調べてくる。</p>	45分
第8回	<p>ロサンゼルス市のメキシコ系とサルバドル系 ロサンゼルスにおいてどのようにメキシコ系とサルバドル系がコミュニティをそれぞれ形成しているのか理解する</p>	
	<p>教科書の該当章をよく読んでくること。サルバドル系の文化にどのようなものがあるかを各自調べてくる</p>	45分
第9回	<p>プエルトリコ系アメリカ人 プエルトリコ系が「米国人」になった歴史的経緯を説明した後、彼らが集中するニューヨーク市のコミュニティについてみていく。</p>	
	<p>教科書の該当章をよく読んでくる。プエルトリコ系文化にどのようなものがあるかを各自調べてくる</p>	45分

第10回	プエルトリコ系の文化復興運動 ニューヨーク市で1950年代からみられたプエルトリコ系による社会運動に注目する。また、サルサ、ボンバ、レゲトンなどの文化表象を検討し、アイデンティティの表象とどのようにかかわっているかを理解していく	
	教科書の該当章をよく読んでくる	45分
第11回	キューバ系アメリカ人 キューバと米国の歴史的なかかわりを理解する。キューバ革命とマイアミのキューバ系コミュニティとの関連性を考えながら、キューバ系文化とされるものを具体的に理解していく。	
	教科書の該当章をよく読んでくる	40分
第12回	ドミニカ系アメリカ人 ドミニカ人が大勢米国に押し寄せてくるようになった社会的背景を検討しながら、ニューヨーク市の彼らのコミュニティについて解説する。	
	教科書の該当章をよく読んでくる	40分
第13回	ニューヨークのドミニカ系コミュニティ ラティーノやアフリカ系も多く居住するドミニカ系コミュニティでどのような若者文化が創造されているかについてみていく。	
	教科書の該当章をよく読んでくる	20分
第14回	講義のまとめ	
	配布したプリント、教科書を再読する	60分
第15回	試験	
	よく準備をして試験に臨むこと	60分

授業の方法

教科書をよく読んできてもらう。授業時に配るワークシートに書き込みをしながら、自分の理解度を確認していく。講義の後、映像資料を参考にしながら、理解をさらに深めていく。

成績評価の方法

リアクションペーパー 10%、
授業参加度（発言など） 10%、
小テスト 20%
期末テスト 60%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

三吉美加 『米国のラティノー』 大学教育出版、1800円、ISBN 9784864292627

参考書

初回授業時指示す

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業後に教室で相談に応じます。

科目名	政治学の基礎 <1>		
教員名	立石 洋子		
科目ナンバー	1301472010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
政治学の基本的な概念や理論、現代日本の政治制度とその問題点、国際政治の現状について学ぶ。			

到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）を実現するため、以下を到達目標とする。 政治学の基本的な理論や概念、日本の政治制度とそれが作り出された歴史的な過程、国際政治の現状を学ぶことにより、私たちの生活と政治の関係を理解するために必要となる知識を身につける。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	政治とは何か1 権力や自由といった概念を中心に政治とは何かを考え、政治学の対象について学ぶ。		
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。		60分
第2回	デモクラシー1 民主主義の歴史について考察する。		
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。		60分
第3回	デモクラシー2 現代の世界とデモクラシーについて検討する。		
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。		60分

第4回	デモクラシー3 非民主的体制について学ぶ。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第5回	マスメディアと政治 マスメディアの政治的・社会的役割と世論への影響について考える。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第6回	日本の政治1 日本の政党政治の歴史と現状について学ぶ。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第7回	日本の政治2 選挙制度と政治参加、投票率について考察する。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第8回	日本の政治3 日本の国会の基本的な制度を説明する。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第9回	日本の政治4 日本の行政について学ぶ。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分

第10回	日本の政治 5 日本の地方自治の歴史と現状、その特色について概説する。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第11回	日本の政治 6 戦後日本の外交政策について考察する。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第12回	国際政治 1 国際政治を分析するうえで必要となる思想や規範を学ぶ。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第13回	国際政治 2 現代の国際政治と日本の役割を検討する。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第14回	まとめ 1 授業の内容を振り返り、日本と世界が直面する問題について考える。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第15回	まとめ 2 授業の内容を振り返り、日本と世界が直面する問題について考える。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分

授業の方法

配布するレジメに基づいて講義を進める。授業の内容について、コメントシートの提出を求めることがある（4-5回の予定）。

成績評価の方法

定期試験の成績、コメントシートによって評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日頃から政治に関する報道に関心を持つことが必要である。

テキスト

使用しない。

参考書

佐藤史郎、上野友也、松村博行著『はじめての政治学 第2版』法律文化社、2017年、苅部直、宇野重規、中本義彦編『政治学をつかむ』有斐閣、2011年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	政治学の基礎 <2>		
教員名	立石 洋子		
科目ナンバー	1301472010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
政治学の基本的な概念や理論、現代日本の政治制度とその問題点、国際政治の現状について学ぶ。			

到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）を実現するため、以下を到達目標とする。 政治学の基本的な理論や概念、日本の政治制度とそれが作り出された歴史的な過程、国際政治の現状を学ぶことにより、私たちの生活と政治の関係を理解するために必要となる知識を身につける。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	政治とは何か1 権力や自由といった概念を中心に政治とは何かを考え、政治学の対象について学ぶ。		
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。		60分
第2回	デモクラシー1 民主主義の歴史について考察する。		
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。		60分
第3回	デモクラシー2 現代の世界とデモクラシーについて検討する。		
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。		60分

第4回	デモクラシー3 非民主的体制について学ぶ。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第5回	マスメディアと政治 マスメディアの政治的・社会的役割と世論への影響について考える。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第6回	日本の政治1 日本の政党政治の歴史と現状について学ぶ。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第7回	日本の政治2 選挙制度と政治参加、投票率について考察する。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第8回	日本の政治3 日本の国会の基本的な制度を説明する。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第9回	日本の政治4 日本の行政について学ぶ。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分

第10回	日本の政治 5 日本の地方自治の歴史と現状、その特色について概説する。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第11回	日本の政治 6 戦後日本の外交政策について考察する。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第12回	国際政治 1 国際政治を分析するうえで必要となる思想や規範を学ぶ。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第13回	国際政治 2 現代の国際政治と日本の役割を検討する。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第14回	まとめ 1 授業の内容を振り返り、日本と世界が直面する問題について考える。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分
第15回	まとめ 2 授業の内容を振り返り、日本と世界が直面する問題について考える。	
	配布されたレジュメとテキストの該当部分を読む。	60分

授業の方法

配布するレジメに基づいて講義を進める。授業の内容について、コメントシートの提出を求めることがある（4-5回の予定）。

成績評価の方法

定期試験の成績、コメントシートによって評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日頃から政治に関する報道に関心を持つことが必要である。

テキスト

使用しない

参考書

佐藤史郎、上野友也、松村博行著『はじめての政治学 第2版』法律文化社、2017年、苅部直、宇野重規、中本義彦編『政治学をつかむ』有斐閣、2011年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経済学の基礎 <1>		
教員名	庄司 俊章		
科目ナンバー	1601472020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

現代の経済は自由な市場取引を通じて各種の「資源配分」が決まっていくのが基本であるが、「市場経済」は万能ではなく、政府や中央銀行のような公共セクターも大きな役割を果たしている。本講義では、ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎的な内容を学び、社会で起きている問題を経済学の視点から考えていく。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

到達目標

DPI(教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。
 現代社会を理解するための重要な視角として「経済的なものの見方・考え方」をはぐくみ、様々な経済問題や経済事象に関する新聞報道や雑誌マスコミ等の記事を正しく読み取り、経済社会の動向を冷静に判断できるようになることを到達目標とする。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	シラバスを読み講義内容を確認する。 授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	90
第2回	<ミクロ編> 家計の行動 ・財への需要	
	家計による消費財の需要量と価格の関係(需要曲線)の意味を理解する。	90
第3回	家計の行動 ・労働の供給	
	家計による労働の供給行動を考える。	90

第4回	企業と生産活動	
	競争的企業による供給行動と生産費用との関係（供給曲線）を考える。	90
第5回	競争市場と資源配分	
	競争市場における資源配分の効率性の意味を理解する。	90
第6回	競争市場の失敗	
	競争市場が成立する条件とともに、それが成立しないケースを理解する。	90
第7回	政府と公共財 ・政府の規模、政府の機能、公共財とタダ乗り	
	政府の機能を経済学的に理解する。	90
第8回	政府支出の資金調達	
	政府と民間部門とのお金の流れを理解する。	90
第9回	これまでのまとめと補足 授業内テスト	
	イントロダクション、及び、ミクロ編に関するこれまでの学習内容を確認する。	90

第10回	授業内テストの解説と補足 <マクロ編> マクロ経済 ・日本経済の規模、経済成長率、景気循環	
	中間テストにおける自分の到達度を確認し、不十分な点があれば補う。 マクロ経済とは何か理解する。	90
第11回	GDPの概念とその成長・循環	
	GDPとは何か理解する。	90
第12回	物価と為替レート ・物価、インフレ・デフレ、為替レート、実質経済成長率	
	名目と実質の違いを理解する。	90
第13回	貨幣・金融市場と利子率	
	金融市場のキーワードを理解する。	90
第14回	マクロ経済政策 政府と中央銀行 ・財政政策、金融政策、マクロ政策の効果	
	マクロ経済政策とは何か理解する。	90
第15回	まとめ ミクロ編とマクロ編の復習	
	全体を振り返り、各テーマの要点を確認する。	90

授業の方法

講義資料と板書を中心に講義を行う。講義内容と連動性の高い参考文献として以下を挙げる。なお、授業の進度に応じて内容を一部変更する可能性がある。

成績評価の方法

平常点（授業内テスト）30%、期末試験70%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 経済学の基本的なキーワードを正確に理解しているか。
- ・ ミクロ経済学やマクロ経済学が扱うテーマを論理的に理解できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

『入門経済学（第3版）』、井堀利宏、2016年、新世社

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経済学の基礎 <2>		
教員名	藤垣 芳文		
科目ナンバー	1601472020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

現代の経済は自由な市場取引を通じて各種の「資源配分」が決まっていくのが基本であるが、「市場経済」は万能ではなく、政府や中央銀行のような公共セクターも大きな役割を果たしている。本講義では、そのような現代経済を理解するための基礎的な見方・考え方を紹介する。

到達目標

DPI(教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。
 現代社会を理解するための重要な視角として「経済的なものの見方・考え方」をはぐくみ、様々な経済問題や経済事象に関する新聞報道や雑誌マスコミ等の記事を正しく読み取り、経済社会の動向を冷静に判断できるようになることを到達目標とする。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容 準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第2回	家計の行動(1) 財への需要	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第3回	家計の行動(2) 労働の供給	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120

第4回	企業と生産活動	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第5回	競争市場と資源配分	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第6回	市場の失敗	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第7回	政府と公共財： 政府の規模、政府の機能、公共財とタダ乗り	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第8回	財政のしくみ（1）財政民主主義と予算制度	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第9回	財政のしくみ（2）日本の財政の概要	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120

第10回	マクロ経済：日本経済の規模、経済成長率、景気循環	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第11回	GDPの概念とその成長・循環	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第12回	物価と為替レート：物価、インフレーション・デフレーション、為替レート、実質経済成長率	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第13回	貨幣・金融市場と利子率	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第14回	マクロ経済政策 政府と中央銀行、財政政策、金融政策、マクロ政策の効果	
	授業に先立って配布する資料に基づき予習、復習すること。	120
第15回	まとめ	
	これまでに配布した資料に基づき授業全体を振り返り、復習すること。	120

授業の方法

原則として講義形式で行う。

各回の授業で使う資料は seikei portal のこの授業のページの資料欄に授業 1 週間前をめどに掲示する。授業開始前にダウンロードして予習し、授業中にはそれを参照できるように持参すること。

成績評価の方法

不定期に授業内小テストを行い、その成果を最大50%までの範囲で最終評価に繰り入れる。学期末には筆記試験を行う。これらを総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上記の達成目標の達成度に基づき評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくに指定はしない。ただし下記の参考書を準テキストとして用いる予定。

参考書

『グラフィック経済学 第2版』浅子和美・石黒順子【共著】新世社。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	経済学の基礎 <3>		
教員名	山上 浩明		
科目ナンバー	1601472020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要			
<p>現代の経済は自由な市場取引を通じて各種の「資源配分」が決まっていくのが基本であるが、「市場経済」は万能ではなく、政府や中央銀行のような公共セクターも大きな役割を果たしている。本講義では、そのような現代経済を理解するための基礎的な見方・考え方を紹介する。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。</p>			

到達目標			
<p>DP1（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 現代社会を理解するための重要な視角として、「経済的なものの見方・考え方」を育てることを目標にする。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	<p>シラバスを読み講義内容を確認する。 授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。</p>	60-90分	
第2回	<ミクロ編> 家計の行動 財への需要		
	<p>家計による消費財の需要量と価格の関係（需要曲線）の意味を理解する。</p>	60-90分	
第3回	家計の行動 労働の供給		
	<p>家計による労働の供給行動を考える。</p>	60-90分	

第4回	企業と生産活動	
	競争的企業による供給行動と生産費用との関係（供給曲線）を考える。	60-90分
第5回	競争市場と資源配分	
	競争市場における資源配分の効率性の意味を理解する。	60-90分
第6回	競争市場の失敗	
	競争市場が成立する条件とともに、それが成立しないケースを理解する。	60-90分
第7回	政府と公共財 政府の規模、政府の機能、公共財とタダ乗り	
	政府の機能を経済学的に理解する。	60-90分
第8回	政府支出の資金調達	
	政府と民間部門とのお金の流れを理解する。	60-90分
第9回	これまでのまとめと補足 授業内テスト	
	イントロダクション、及び、ミクロ編に関するこれまでの学習内容を確認する。	60-90分

第10回	授業内テストの解説と補足 <マクロ編> マクロ経済 日本経済の規模、経済成長率、景気循環	
	中間テストにおける自分の到達度を確認し、不十分な点があれば補う。 マクロ経済とは何か理解する。	60-90分
第11回	GDPの概念とその成長・循環	
	GDPとは何か理解する。	60-90分
第12回	物価と為替レート 物価、インフレーション・デフレーション 為替レート、実質経済成長率	
	名目と実質との違いを理解する。	60-90分
第13回	貨幣・金融市場と利子率	
	金融市場のキーワードを理解する。	60-90分
第14回	マクロ経済政策 政府と中央銀行 財政政策、金融政策、マクロ政策の効果	
	マクロ経済政策とは何かを理解する。	60-90分
第15回	まとめ ミクロ編とマクロ編の復習	
	全体を振り返り、各テーマの要点を確認する	60-90分

授業の方法

板書・配布物を中心に講義を行うが、講義内容と連動性の高い参考文献の一例として以下の参考書を挙げる。その他類似の参考文献を含め、詳細は、必要に応じ、講義内で紹介する。なお、授業の進度に応じて、授業内でのテストの実施時期や回数は異なることがある。

成績評価の方法

平常点（授業内のテスト）30%、期末試験70%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 経済学の基本的なキーワードを正確に理解しているか。
- ・ ミクロ経済学やマクロ経済学が扱うテーマを論理的に理解できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし。

必要に応じて授業内で指示する。

参考書

[1] 井堀利宏（2016）『入門経済学（第3版）』新世社 2572円

[2] 梶谷真也・鈴木史馬（2016）『しっかり基礎から ミクロ経済学 LQアプローチ』日本経済評論社 2500円

また、必要に応じて授業内で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学と現代 <1>		
教員名	挾本 佳代		
科目ナンバー	1601472030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
「公と私のゆくえ」			
この授業では「公と私」をキーワードに、現在、わたしたちが生活している社会がどのような問題を抱えているのかを考察していく。			
「公と私」とは、「社会と個人」「国家と個人」とも言い換えることができる。これまで、わたしたち個人が感じてきた閉塞感、個人が社会の中で生きづらいというだけでなく、個人が社会との距離感があまりにもありすぎるという現状からも引き起こされているのかもしれない。個人の利益を追求すると、社会的正義が成り立たなくなるという事例も、「公と私」の問題のひとつといえる。			
この授業では、わたしたち個人が社会の中でおかれている現状も考えていく。自分が生活している社会を追求してみようという強い問題意識をもって、授業に臨んで欲しい。			

到達目標			
DP 1（教養の修得）、DP 2（課題の発見と解決）、DP 3（他者との協働）、DP 5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。			
①社会でおきている「公と私」の相克関係を理解し、他人と知識を交換しながら、説明できる。			
②自分が生活している社会の問題点の在処を知ることができる。			
③社会の中での自らの立ち位置を明確に他人に理解させることができる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 「公と私」の関係性の破綻にはどのようなものがあるかを把握する。 		
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60	
	【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		
第2回	「社会」とは何か／その理論		
	<ul style="list-style-type: none"> 社会学における社会理論を解説する。 そもそも「社会」とはどういう状態を指し示しているのかを解説する。 社会学の歴史を通し、「社会」がどのように捉えられるべきものとして変遷してきたのかを解説する。 		
	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。	60	
	【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		
第3回	「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界（1）		
	<ul style="list-style-type: none"> 「無縁社会」の現状を解説する。 NHK「無縁社会キャンペーン」を考察する。 「無縁社会」批判を解説する。 		
	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。	60	
	【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		

第4回	<p>「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「無縁社会」は人間の結びつきやつながりの限界なのかどうかを考察する。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	60
第5回	<p>わたし探しのゆくえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で上手くコミュニケーションがとれない人間は、アイデンティティの在処を追い求める「わたし探し」をし続けなければならないのか、について解説する。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	60
第6回	<p>マスメディアに踊らされる個性のゆくえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニマリズム、断捨離、ときめき片づけといった、作り上げられる流行に振り回されて個性は確立されるかについて考える。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	90
第7回	<p>中間テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。 	
	<p>【予習】 これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。</p>	60
第8回	<p>コミュニティの可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティは人間の結びつき、つながりを密接なものにするのかどうかを考察する。 ・「コミュニティ」という言葉が使われる現状を解説する。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	60
第9回	<p>コミュニケーション不全は解決できるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平野啓一郎による「分人」という考え方を解説する。 ・「分人」によって社会の中の一人の人間は救われるかどうかを考察する。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	60

第10回	大きな政府と小さな政府と個人 <ul style="list-style-type: none"> ・「大きな政府」「小さな政府」を解説する。 ・それぞれの政府の問題点についても検討する。 ・個人が「公」との矛盾を小さくするには、どちらの政府が良いのかを考察する。 	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第11回	ネットワーク／メディアの可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体と個人の意思疎通を図るものとして、ネットワークやメディアはどのように使われていくべきかを解説する。 ・メディアによって作り上げられる「理想の自分像」はないかどうかを考察する。 	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第12回	社会病理から公と私を考える <ul style="list-style-type: none"> ・自殺の増加、うつ病などの精神疾患者の増加、不登校児童の増加といった社会病理から、社会における個人の現状を考察する。 	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第13回	社会的正義と個人（1） <ul style="list-style-type: none"> ・ロールズ『正義の理論』を解説する。 ・ロールズ正義論の批判を解説する。 	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第14回	社会的正義と個人（2） <ul style="list-style-type: none"> ・個人の利益と、社会的正義の相克関係をさらに解説する。 	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
第15回	授業のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学修内容を振り返り、現代社会における「公と私」の諸問題を確認する。 ・わたしたちの社会は、個人にとって生きやすいものかどうかを考える。 	
	【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】到達度確認テストに向けて、キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60

授業の方法

基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。
随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。
上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。
なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。

- ・ 中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。
- ・ 課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。
- ・ 到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

成績評価の方法

随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（15%）、到達度確認テスト（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価する。

- ・ 基礎的なキーワード、鍵概念的な理解。
- ・ 「社会と個人」「公と私」の相克に対する深い思考。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。「現代のマスメディア」（前期、挟本担当）

テキスト

授業で適宜指示をする。

参考書

授業で適宜指示をする。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会学と現代 <2>		
教員名	金崎 一郎		
科目ナンバー	1601472030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要	
<p>社会学は従来イメージしにくい学問であると考えられてきたが、近年その研究対象の広さからか、「社会学の時代」と言われるまで一般に受け入れられた感がある。社会の様々な領域に応用され、ポップな印象を持っている学生も多いだろう。この講義では、3つの議論に分けて社会学の内容を見ていくことにしたい。</p> <p>A 社会学の前提に関わる議論 B マクロな社会についての社会学的な説明に関わる議論 C ミクロな社会についての社会学的な説明に関わる議論</p> <p>まずAにおいて、社会学だけでなくより広く社会科学の見地から概念や理論構成、人間観、文化・集団・個人についての基本的な議論を、Bでは、マクロに捉えられた社会を近代・資本主義・産業社会という点から、そしてCで、ミクロな社会として対面的状況における他者との関係性を表出的行為の視点から、それぞれ見ていくことになる。講義を通じて最終的に、マクロ・ミクロ様々な現代社会の諸現象を社会学的な視座から捉え、記述・説明できるようになってもらいたい。</p>	

到達目標	
<p>①人間の社会性についての社会学的な理解を深める ②社会学的な記述・説明のタイプを理解すること ③自分を取り込んだ具体的な対面的状況の記述・説明ができること ④学習した概念を具体的な社会現象に適用・応用できること</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の概要、進め方、予習・復習についての説明 A1 社会科学の用語法(1) ・と 「民主主義とは？」を例にして ・科学言語の構成 科学言語と自然言語 	
	<p>【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。</p>	60
第2回	<p>A1 社会科学の用語法(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理論構成のタイプ 2つのアプローチ ・科学と価値判断に関わる問題群 1 事実命題と価値命題の関わり 	
	<p>【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。</p>	60
第3回	<p>A1 社会科学の用語法(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学と価値判断に関わる問題群 2 ・価値自由と社会的責任 	
	<p>【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。</p>	60

第4回	A2 社会学の前提 <ul style="list-style-type: none"> ・社会学はどのように捉えるか 社会学の「人間観」について <ul style="list-style-type: none"> ・経済学との対比 としての人間 <ul style="list-style-type: none"> ・自己現象からみる人間の ・知覚からみる人間の ・「自明性」からみる人間の 	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	60
第5回	A2 自己現象からみる人間の <ul style="list-style-type: none"> ・Cooleyの「鏡映自己」 ・G. H. Meadの「役割取得」、「I と Me」 ・吉田民人の「自己包絡図式」 	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	60
第6回	A2 知覚からみる人間の <ul style="list-style-type: none"> ・視覚と他の知覚について ・Bruner&Goodmanの「過大視実験」 ・Sherifの「規範形成実験」 	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	60
第7回	A2 「自明性」からみる人間の <ul style="list-style-type: none"> ・性に関わるアイデンティティと文化の拘束 A3 文化と価値 <ul style="list-style-type: none"> ・生物の進化段階と文化 ・丸山圭三郎の「見分け」と「言分け」 ・言語について ・意味と価値 	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	60
第8回	A3 集団と個人 <ul style="list-style-type: none"> ・近代・前近代における集団との関わり ・個人主義の歴史的変容 ・欲望の個人主義の登場 ・Girardの「欲望の三角形」 ・Mertonの「準拠集団」 	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	60

第9回	B1 DurkheimとWeberにみる社会学の方法 Durkheimの捉えたの関係 ・『自殺論』から ・集合意識と自殺	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	60
第10回	B2 Weberの捉えた「宗教と資本主義」について ・『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から ・Weber vs. Marxについて ・資本主義の精神 (ethos)	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また新聞・メディア等で政治・経済・社会・文化等の現実の諸現象を周知し、習得した諸概念を適用・応用してみること。	60
第11回	C 対面的状況での相互行為について ・活動としての行為と表出としての行為 ・Goffmanの演出論的 sociology の視点	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また自分と周囲の他者との関係に対する適用・応用。	60
第12回	C 「パフォーマンス (performance)」について ・外面 (front) ・劇的具象化 (dramatization) ・理想化 (idealization) など	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また自分と周囲の他者との関係に対する適用・応用。	60
第13回	C 「チーム (team)」について ・チームのメンバーの関係性 ・チーム単位で行うパフォーマンスの方針	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また自分と周囲の他者との関係に対する適用・応用。	60
第14回	C 「局域 (region)」について ・相互行為の場・空間 ・「表局域」と「裏局域」 ・「局域」のコントロール	
	【予習・復習】基本的な概念の整理と理解、また自分と周囲の他者との関係に対する適用・応用。	60

第15回	講義全体の補足と総括	
	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	60
授業の方法		
教室における講義を中心とする。		
成績評価の方法		
期末試験（あるいは授業内試験）及び出席によって評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特になし。		
テキスト		
井上俊・大村英昭、1993年、『社会学入門』、日本放送出版協会		
参考書		
E. ゴッフマン 『行為と演技』、誠信書房 その他、講義時に適宜指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
授業終了後に教室で受け付ける。		

科目名	社会学と現代 <3>		
教員名	青山 陽子		
科目ナンバー	1601472030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

なぜ自分が他ならぬ仕方でこのように存在するのか、他者とのやりとりはどのように成り立つのか。そしていかにして何事もなく日々は過ぎていくのか。社会学はこうした当たり前の日常の中に問いを立てる学問です。それは一般社会の常識的なものの見方をいったん括弧に入れて、社会を見つめ直す作業から始まり、個人の認識のなかに、他者との相互作用のなかに、人々の集団のなかに、社会の存在を複眼的にみだし、探求していく営みといえます。講義では様々な領域における社会のあらわれについて考えてゆき、最後に社会学の学問的な歴史を概観します。

到達目標

社会を読み解く学問としての社会学のユニークな見方を身につける。
社会学への関心を深め、現実社会への洞察力を高める。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	オリエンテーション(授業の概要と進め方) 社会学とは何を捉える学問なのかについて身近な事例から解説する。	
	シラバスを読んでくる。	30
第2回	社会化と人間形成1(家族のなかの個人) 「家族とは何か」。これまでの家族社会学の知見を紹介しながら、社会学が家族をどのように捉えてきたのかについて紹介する。	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第3回	社会化と人間形成2(多様化する家族) 「少子化が意味すること」。なぜ少子化が社会問題として捉えられているのか。その背景や要因、さらにはこの問題に対する各国の政策について取り上げる。	
	キーワードについて説明できるようにする。	60

第4回	構造と社会問題1(学校と文化的再生産) 「学歴はいかにして獲得されるのか」。大卒が希少性をもっていた時代から大学全入時代となった今日、学校歴が重視されているが、それは果たして個人の努力によって獲得されるもののだろうか。	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第5回	構造と社会問題2(格差と階層) 「格差社会と階層意識」。格差が問題視されるようになって20年近くになるが、果たして何を格差として捉えているのだろうか。実態と意識の両面から考える。	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第6回	構造と社会問題3(医療化する社会) 「医療化するひきこもり」。ひきこもりは状態を表す言葉であり、決して医学的に定義された言葉ではなかった。しかし今日、ひきこもりは障害や疾患などと共に捉えられるようになっている。ひきこもりをめぐる現状を医療化という視点から捉える。	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第7回	中間テスト	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第8回	規範と逸脱1(逸脱の社会的構築) マリファナや覚醒剤などの違法薬物は国家によって規制されているが、規制されるに至った歴史的経緯を踏まえつつ、逸脱は時代によって変化することを理解する。	
	キーワードについて説明できるようにする。	60
第9回	規範と逸脱2(逸脱的下位文化とスティグマ) マリファナ使用者は最初から上手にマリファナを使用できるわけではない。ではどのような学習を経て、マリファナ使用者になるのか。正統的周辺参加論とともに考える。	
	キーワードについて説明できるようにする。	60

第10回	<p>多元化する現代社会(日本におけるエスニシティ) オールドカマーの在日コリアンからニューカマーの外国人まで、日本の外国人政策を歴史的に概観し、日本の政策は国際化が進む世界のなかでどういった立場にあるのかを理解する。</p>	
	<p>キーワードについて説明できるようにする。</p>	60
第11回	<p>社会学の視点(社会学の草創から現代まで) 「社会学の創出」。個人と社会との関係は社会学が取り組む課題の一つである。これまで社会学は個人と社会をどのように捉えてきたのか。社会学の歴史と共に概観する。</p>	
	<p>キーワードについて説明できるようにする。</p>	60
第12回	<p>社会学の歴史1(理解社会学とは何か) 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』=『プロ倫』。『プロ倫』に取り組む前にM. ウェーバーの基本理念について学習する。</p>	
	<p>キーワードについて説明できるようにする。</p>	60
第13回	<p>社会学の歴史2(『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読む) 資本主義の精神はどのような人たちのいかなる動機から発生したのだろうか。資本主義の精神を歴史社会学的に分析したウェーバーの知見を理解する。</p>	
	<p>キーワードについて説明できるようにする。</p>	60
第14回	<p>社会学の歴史3(『自殺論』を読む) 『自殺論』。E. デュルケムは社会的事実という視点から社会を捉えようとした社会学者である。当時の統計を駆使して自殺の社会的要因を捉えようとしたデュルケムの知見を理解する。</p>	
	<p>キーワードについて説明できるようにする。</p>	60
第15回	<p>総括</p>	
	<p>到達確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。</p>	120

授業の方法

講義形式で行います。

成績評価の方法

講義中の小テスト20%、筆記試験80%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

特に指定しません。

参考書

授業時に適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	日本国憲法 <1>		
教員名	小沼 史彦		
科目ナンバー	1401472040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要			
<p>日本国憲法は、大学入学以前にも、社会科関係の科目で習いました。国民主権、平和主義、そして基本的人権の尊重を基本原理とする憲法だということは、皆さんご存知だと思います。では、国民主権の国民とは、いったい誰のことでしょうか？日本国籍を持っている人は皆、主権者国民なのでしょうか？また、地方公共団体の選挙権を持つ「住民」と言ったときには、国籍は問題になるのでしょうか。ここでは一例だけを挙げてみましたが、言葉としては知っていても、それが憲法との関係では何を意味する概念なのか、実際にはよく分かっていないものがいくつもありそうです。</p> <p>また、現代の立憲主義は、国際的な広がりを見せています。国際社会では、国家の枠を超えて人類が取り組むべき価値の問題（人権、平和、環境など）が認識されるようになってきています。国際社会に共通の価値を含む憲法について学ぶことは、今後益々重要になってくるでしょう。</p> <p>このクラスでは、日本社会の基本的なルールのあり方について、憲法の基本的な考え方や基本的人権の諸問題を中心に取り上げながら、皆さんと一緒に考えて行きます。</p>			

到達目標			
<p>現代の憲法が持つ基本的な考え方を理解する。 立憲主義的な観点から政治を見ることができる。 近代的な憲法の歴史を押さえた上で、憲法に対する自分なりの視点を持つ。</p>			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	憲法とは何か？		
	教科書や参考書の好きなところを読んでみて、憲法学の議論に触れる。		90 (文科省が指定する2単位認定に対する学習時間を参考にした数字)
第2回	日本国憲法の誕生		
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。		90
第3回	日本国憲法の基本原理(1) 国民主権		
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。		90

第4回	日本国憲法の基本原理 (2) 平和主義	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90
第5回	日本国憲法の基本原理 (3) 基本的人権の尊重・人権総論-人権の享有主体	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90
第6回	日本国憲法の基本原理 (3) 基本的人権の尊重・人権総論-法の下での平等	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90
第7回	精神的自由 (1) 思想良心の自由・信教の自由	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90
第8回	精神的自由 (2) 信教の自由・表現の自由	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90
第9回	精神的自由 (3) 表現の自由・学問の自由	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90

第10回	経済的自由	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90
第11回	人身の自由 憲法と刑事法	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90
第12回	社会権（1） 生存権	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90
第13回	社会権（2） 教育を受ける権利・労働基本権	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90
第14回	包括的人権条項・幸福追求権	
	教科書・参考書の該当箇所を読む。 講義ノートの振り返り。	90
第15回	まとめ	
	以上の予定で進行しますが、講義を進めて行く中で、必要に応じて修正することもあります。 講義ノート振り返り。	90

授業の方法

講義形式で行いますが、皆さんに問題を考えてもらうなど、コミュニケーションを取りながら、双方向の授業を目指します。

成績評価の方法

学期末試験による。平常点も考慮する場合もある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、社会や政治の動きを知る努力をしてください。

テキスト

初宿・大沢・高橋・常本・高井編著『目で見える憲法 第5版』有斐閣 ISBN978-4-641-13104-0

参考書

六法（『ポケット六法』、『セレクト六法』、『岩波基本六法』など）
その他、適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

質問・相談の宛先：konuma△mail.dendai.ac.jp（△はアットマーク）

E-mailを送る際は、必ず件名に成蹊大学の日本国憲法履修者であることが分かるように書くこと。必ず氏名（可能であれば学籍番号も）を明記すること。

科目名	日本国憲法 <2>		
教員名	橋場 典子		
科目ナンバー	1401472040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

本講義では、日本国憲法の基本構造を学ぶとともに、憲法理念と現実社会との関連についても考察を行う。具体的には、国民主権、権力分立、人権の尊重などの日本国憲法の基本的枠組みを理解するとともに、立憲主義の考え方を学ぶ（知識面）。その上で、社会で発生している諸問題、例えば外国人の権利問題や格差問題、LGBT問題と憲法理念との関連についても考察する（応用面）。
 憲法についての知識面と応用面の両面を学ぶことにより、憲法の基本理念がどのように社会で実現されているのか／いないのかについて、学生自身の言葉で考察できるようになってもらいたい。

到達目標

DP1（教養の修得）を実現するため、次の三点を到達目標とする。

- ①日本国憲法の基本構造を理解できる。
- ②立憲主義の考え方を説明できる。
- ③社会における諸問題について、憲法の基本理念に基づいて考察することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・講義の全体像について説明する	
	(予習) シラバスを読んでくる	30
第2回	日本国憲法の基本構造と立憲主義 ・日本国憲法の基本構造を説明する ・立憲主義の考え方について考える	
	(復習) 立憲主義の考え方を説明できるようにする	50
第3回	日本国憲法の制定過程 ・日本国憲法の制定過程を学修する ・天皇制について学修する	
	(復習) 憲法の制定過程を説明できるようにする	50

第4回	日本国憲法の基本理念（1） ・ 国民主権 ・ 平和主義	
	（復習） 国民主権、平和主義について理解する	50
第5回	日本国憲法の基本理念（2） ・ 基本的人権の尊重 ・ 法の下での平等	
	（復習） 基本的人権の尊重、法の下での平等について理解する	50
第6回	三権分立 ・ 三権分立の基本構造を学修する ・ 三権分立の意義について理解する	
	（復習） 三権分立の基本構造と意義について説明できるようにする	50
第7回	自由権（1） ・ 精神的自由 ・ 経済的自由	
	（復習） 精神的自由、経済的自由について理解する	50
第8回	自由権（2） ・ 人身の自由 ・ 罪刑法定主義	
	（復習） 人身の自由、罪刑法定主義について説明できるようにする	50
第9回	社会権（1） ・ 生存権 ・ 社会保障	
	（復習） 生存権について理解する 社会保障制度の理念について説明できるようにする	60

第10回	社会権（2） ・教育を受ける権利 ・労働基本権	
	（復習） 教育を受ける権利、労働基本権について理解する	60
第11回	人権の適用範囲 ・私人間効力 ・公務員の政治活動	
	（復習） 私人間効力、公務員の政治活動について理解する	60
第12回	幸福追求権 ・プライバシーの権利 ・自己決定権	
	（復習） 幸福追求権について説明できるようにする	60
第13回	憲法と社会（1） ・子どもと人権 ・LGBTと人権	
	（復習） 子どもやLGBTを巡る諸問題について憲法理念の観点から理解する	60
第14回	憲法と社会（2） ・高齢者と人権 ・障がい者と人権	
	（復習） 高齢者や障がい者を巡る諸問題について憲法理念の観点から理解する	60
第15回	講義のまとめ ・全体の振り返り ・憲法の存在意義について	
	講義全体を振り返る	60

授業の方法

授業は講義を中心に進めるが、講義内で不定期に小レポートを書いてもらうことが予定されている。知識面の学修に加え、現代社会における諸問題についても適宜取り上げるため、日頃から法的問題についての意識を高めておいてもらいたい。

成績評価の方法

期末試験80%、平常点20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

到達目標に示された、①～③の達成度が評価の基準となる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。新聞やニュース等で日頃から憲法問題についての意識を高めておくことが望ましい。

テキスト

日本国憲法の条文。講義内で適宜プリントを配布する。

参考書

- ・ 芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第六版）』（岩波書店、2015年）
- ・ 岡田信弘編著『憲法のエチュード（第三版）』（八千代出版、2012年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本国憲法 <3>		
教員名	橋場 典子		
科目ナンバー	1401472040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

本講義では、日本国憲法の基本構造を学ぶとともに、憲法理念と現実社会との関連についても考察を行う。具体的には、国民主権、権力分立、人権の尊重などの日本国憲法の基本的枠組みを理解するとともに、立憲主義の考え方を学ぶ（知識面）。その上で、社会で発生している諸問題、例えば外国人の権利問題や格差問題、LGBT問題と憲法理念との関連についても考察する（応用面）。
 憲法についての知識面と応用面の両面を学ぶことにより、憲法の基本理念がどのように社会で実現されているのか／いないのかについて、学生自身の言葉で考察できるようになってもらいたい。

到達目標

DP1（教養の修得）を実現するため、次の三点を到達目標とする。

- ①日本国憲法の基本構造を理解できる。
- ②立憲主義の考え方を説明できる。
- ③社会における諸問題について、憲法の基本理念に基づいて考察することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・講義の全体像について説明する	
	(予習) シラバスを読んでくる	30
第2回	日本国憲法の基本構造と立憲主義 ・日本国憲法の基本構造を説明する ・立憲主義の考え方について考える	
	(復習) 立憲主義の考え方を説明できるようにする	50
第3回	日本国憲法の制定過程 ・日本国憲法の制定過程を学修する ・天皇制について学修する	
	(復習) 憲法の制定過程を説明できるようにする	50

第4回	日本国憲法の基本理念（1） ・ 国民主権 ・ 平和主義	
	（復習） 国民主権、平和主義について理解する	50
第5回	日本国憲法の基本理念（2） ・ 基本的人権の尊重 ・ 法の下での平等	
	（復習） 基本的人権の尊重、法の下での平等について理解する	50
第6回	三権分立 ・ 三権分立の基本構造を学修する ・ 三権分立の意義について理解する	
	（復習） 三権分立の基本構造と意義について説明できるようにする	50
第7回	自由権（1） ・ 精神的自由 ・ 経済的自由	
	（復習） 精神的自由、経済的自由について理解する	50
第8回	自由権（2） ・ 人身の自由 ・ 罪刑法定主義	
	（復習） 人身の自由、罪刑法定主義について説明できるようにする	50
第9回	社会権（1） ・ 生存権 ・ 社会保障	
	（復習） 生存権について理解する 社会保障制度の理念について説明できるようにする	60

第10回	社会権（2） ・教育を受ける権利 ・労働基本権	
	（復習） 教育を受ける権利、労働基本権について理解する	60
第11回	人権の適用範囲 ・私人間効力 ・公務員の政治活動	
	（復習） 私人間効力、公務員の政治活動について理解する	60
第12回	幸福追求権 ・プライバシーの権利 ・自己決定権	
	（復習） 幸福追求権について説明できるようにする	60
第13回	憲法と社会（1） ・子どもと人権 ・LGBTと人権	
	（復習） 子どもやLGBTを巡る諸問題について憲法理念の観点から理解する	60
第14回	憲法と社会（2） ・高齢者と人権 ・障がい者と人権	
	（復習） 高齢者や障がい者を巡る諸問題について憲法理念の観点から理解する	60
第15回	講義のまとめ ・全体の振り返り ・憲法の存在意義について	
	講義全体を振り返る	60

授業の方法

授業は講義を中心に進めるが、講義内で不定期に小レポートを書いてもらうことが予定されている。知識面の学修に加え、現代社会における諸問題についても適宜取り上げるため、日頃から法的問題についての意識を高めておいてもらいたい。

成績評価の方法

期末試験80%、平常点20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

到達目標に示された、①～③の達成度が評価の基準となる

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。新聞やニュース等で日頃から憲法問題についての意識を高めておくことが望ましい。

テキスト

日本国憲法の条文。講義内で適宜プリントを配布する。

参考書

- ・ 芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第六版）』（岩波書店、2015年）
- ・ 岡田信弘編著『憲法のエチュード（第三版）』（八千代出版、2012年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	市民生活と法 I		
教員名	渡邊 知行		
科目ナンバー	1201472050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要	
市民生活において、いかなる法律が適用されているのか、実際に紛争が発生した場合に、どのような法律のルールが適用されて解決が図られるのか、具体的な事案を取り上げながら、民法を中心に概説する。	

到達目標	
DP 1（教養の修得）、DP 2（課題の発見と解決）、DP 3（他者との協働）、DP 5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 市民生活にかかわる法律を理解する。	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 法とは何か◇法律の全体像と分類◇条約◇政令・省令◇条例◇判例	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第2回	民法と刑法 損害賠償と刑罰◇懲罰的損害賠償◇自動車運転処罰法	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第3回	民事裁判 訴訟の提起◇口頭弁論◇判決と和解◇弁護士の役割◇強制執行	
	授業の内容を確認して復習する。	60分

第4回	刑事裁判 捜査◇公訴の提起（起訴）◇公判手続◇弁護士の役割◇被告人の人権保障◇被害者の参加◇裁判員制度	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第5回	契約の成立 契約の自由◇契約の無効・取消◇公序良俗違反◇錯誤・詐欺・強迫◇消費者契約法	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第6回	行為能力の制限 未成年者◇成年後見制度	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第7回	債務不履行 損害賠償◇契約解除	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第8回	売買契約 手付◇目的物の契約不適合（欠陥など）	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第9回	賃貸借契約 借地借家法◇契約の更新◇無断転貸と解除	
	授業の内容を確認して復習する。	60分

第10回	金銭消費貸借 利息制限法◇貸金業法◇保証◇抵当権	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第11回	所有権 所有権の侵害◇相隣関係◇共同所有◇建物の区分所有	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第12回	不動産登記制度 不動産登記法◇対抗要件	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第13回	不法行為 過失責任◇賠償額の算定◇使用者責任◇工作物責任◇国家賠償法	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第14回	交通事故 自動車損害賠償保障法◇自賠責保険◇過失相殺	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第15回	製造物責任 製造物責任法◇家電製品・自動車・医薬品などの欠陥	
	授業の内容を確認して復習する。	60分

授業の方法

事前に各回のレジュメをポータルサイトに掲示して、講義形式で行う。

成績評価の方法

期末試験による。
授業への参加状況（平常点（出席と授業中に回答する課題）も考慮する。
（期末試験 80%、平常点 20%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特に指定しない。

参考書

授業のなかで紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	市民生活と法II		
教員名	渡邊 知行		
科目ナンバー	1201472060	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要
 市民生活に関わる裁判例について、どのような法律のルールがどのように適用されて解決が図られているか解説したうえで、裁判例が市民生活や社会に与える影響を考察する。

到達目標
 DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。
 裁判例が市民生活に影響を与える重要なものであることを認識するとともに、裁判例の社会的な意義や問題点などについて自ら考えることができるようにする。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容と成績評価の説明	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第2回	裁判手続の概要 裁判例の意義	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第3回	未成年者と親権者の監督責任	
	授業の内容を確認して復習する。	60分

第4回	高齢者と家族の責任	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第5回	契約の内容の適切性（非正規労働者の賃金問題など）	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第6回	契約の解除（携帯の解約金条項など）	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第7回	欠陥住宅問題	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第8回	賃貸借の更新料、敷金をめぐる紛争	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第9回	消費者契約の不当勧誘規制	
	授業の内容を確認して復習する。	60分

第10回	マンション紛争	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第11回	医療事故	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第12回	交通事故	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第13回	製造物責任	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第14回	相続紛争	
	授業の内容を確認して復習する。	60分
第15回	まとめ	
	授業の内容を確認して復習する。	60分

授業の方法

事前に資料をポータルサイトに掲示して、講義形式で行う。
授業のなかで、授業で考察した判例に関する課題の回答を作成して提出する。

成績評価の方法

平常点（出席と授業中の課題）：50%
レポート課題：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

市民生活と法 I

テキスト

特に指定しない

参考書

授業のなかで紹介する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代の国際政治		
教員名	白鳥 潤一郎		
科目ナンバー	1301476020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要
 世界は再び激動の時代を迎えつつある。中国をはじめとする新興国の台頭、ブレグジットに揺れる欧州、アメリカにおけるトランプ政権成立など目まぐるしく動き続けている。グローバル化が進み、異質な国家間の相互依存状態に置かれたことで各国の内政は不安定化している。本講義では、日本との関係を軸に現代の国際問題を学んでいく。

到達目標
 ①広く国際問題に関する基礎知識を習得する。
 ②国際社会の中での日本のあり方を考えるための基本的な視座を獲得する。
 ③様々な国際問題について自分なりに調べ、考えられるようにする。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション：なぜ国際政治を学ぶのか	
	授業前日及び当日の国際ニュースの確認	60分
第2回	第二次世界大戦後の国際社会と日本	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第3回	主要国①アメリカ：同盟国との関係	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分

第4回	主要国②中国：台頭する新興国	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第5回	主要国③韓国・北朝鮮：難しい隣国との関係	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第6回	主要国④ロシア（ソ連）：「遠い隣国」との関係	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第7回	主要国⑤西欧諸国：先進国との関係	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第8回	エネルギー／環境問題：古くて新しい問題といかに向き合うか	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第9回	貿易：自由貿易体制の行方	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分

第10回	経済危機：リーマン・ショック後の世界	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第11回	核兵器：なぜ無くならないのか？	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第12回	テロリズム：9.11、イラク戦争後の世界	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第13回	平和構築：日本に何が出来るのか？	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第14回	領土問題・歴史認識問題：「過去」と「現在」	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分
第15回	まとめ：国際社会のなかの日本	
	前回のレジュメ及びノートの確認	60分

授業の方法

講義形式で行うが、受講人数や受講者のニーズを踏まえて授業内に質疑応答の時間を設けるなど柔軟に対応する。

成績評価の方法

期末試験（100%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に無し。

テキスト

指定しない。各回レジュメを配布する。

参考書

五百旗頭真（編）『戦後日本外交史 第3版補訂版』有斐閣、2014年 ISBN：978-4641220188
佐藤史郎・川名晋史・上野友也・齊藤孝祐（編）『日本外交の論点』法律文化社、2018年3月刊行予定 ISBN：978-4589039033
村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年 ISBN：978-4641177222

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	日本と世界の経済		
教員名	大野 正智		
科目ナンバー	1201476030	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

一国で起きた出来事の影響は国内だけに留まらず、瞬時に全世界に波及してしまう世の中です。もはや日本の経済問題を国内だけで論ずることはできません。グローバル化の現代社会にあって、日本ならびに世界で起きている経済現象を単なる事例としてだけとらえるのではなく、論理的・体系的に理解するにはどうしたらよいかについて、経済学の観点から教養的内容を中心に紹介します。なお、授業の進捗によって、以下の計画内容を一部変更する場合があります。

到達目標

DP1（教養の習得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）、を実現するため、次の点を到達目標とします。
教養レベルの経済学入門（あるいは、経済学の基礎）を踏まえた上で、国際経済問題を理解し、問題点や論点を自発的に発信できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	身近に経済を見る（経済学入門）	
	経済学入門の初日的位置づけとして、生活の中での経済を認識する。	60
第2回	取引として経済を見る（ミクロ経済学入門）	
	人と人のつながりの中で経済を認識する。	90
第3回	国全体として経済を見る（マクロ経済学入門）	
	マクロ経済学的視点としての経済を認識する。	90

第4回	GDPの基礎（経済統計入門）	
	GDPの基礎を復習・再確認する。	90
第5回	国際貿易とGDP 小テスト1（第1回から小テスト直前までの範囲より出題）	
	国際的な位置づけとしてGDPを認識する。	90
第6回	小テスト1の解説と補足 為替レートと貿易	
	小テスト1の理解を完全にする。 為替レートと貿易の基本概念を理解する。	90
第7回	為替レートと貿易の相互関係(1)	
	為替レートと貿易の関係について、基礎的理論を理解する。	90
第8回	為替レートと貿易の相互関係(2)	
	為替レートと貿易の関係について、発展的理論を理解する。	90
第9回	国内通貨と国際通貨	
	通貨とは何か、国内・国際の両面から考察する。	90

第10回	国際通貨 小テスト2 (小テスト1終了後から小テスト2直前までの範囲より出題)	
	国際通貨の特性を理解する。	90
第11回	小テスト2の解説と補足 日本と世界の金融市場	
	小テスト2の理解を完全にする。 日本と世界の金融市場の特性を理解する。	90
第12回	海外直接投資	
	日本の直接投資について、対外・対内の両方向の状況について認識を深める。	90
第13回	国際収支の読み方	
	対外的な取引について、国際基準における記録方法を学ぶ。	90
第14回	対外資産負債	
	日本の対外的な資産と債務の状況を理解し今後の見通しを考察する。	90
第15回	授業全体のまとめ ※期末試験の正解は試験終了後ポータルサイトにアップします。	
	期末試験に向けての要点整理	90

授業の方法

板書や配布プリントを通して主に講義形式で行います。配布プリントは当日の授業終了後にSeikeiポータルにアップします。欠席者はそこから入手してください。特に、第1回目は期末試験までの全体的計画についてシラバス更新版として配布プリントとともにお知らせしますので、第1回目欠席者は十分注意してください。

授業の進展に合わせて、理解力の向上が伴うよう、受講生に質問したり、クイズ・小テスト等を実施します。講義は聴講だけでなくクイズ・テスト等の受験も受講の一部ですので、学内外からの受講形態にかかわらず、クイズ・テスト等を含め受講してください。なお、授業の進度に応じて、授業内でのテストの実施時期や回数が上記の計画とは異なることがあります。

成績評価の方法

授業への参加・クイズ等（20%）、小テスト（30%）、期末テスト（50%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価する。

1. 教養科目として必要な広域的理解ができています。
2. 日本における世界との関わり方について、今日的理解ができています。
3. 基本的概念と初級レベルの理論的理解ができています。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識：クイズ・テスト関係の答えは学内ネットを通して電子返却しますので、ダウンロードなどの初歩的なPC・スマホの操作が最低限できることを必須とします。

先修科目：経済学に関する入門科目を履修済みが望ましい（例えば、経済学部以外の学生の場合、「経済学の基礎」が入門科目に相当します）。履修済みでない受講生は、同学期、あるいは、来学期以降に履修することを勧めます。

テキスト

適宜、指定します。

参考書

「経済のしくみと制度（第3版）」井出・井上・大野・北川・幸村著、多賀出版（注意：最新版の第3版です。内容が異なる第2版や第1版ではありません）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	企業と社会		
教員名	井上 慶太		
科目ナンバー	1201476040	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

私たちが日々生活する中で、企業の活動は深いかわりをもっています。手軽に食べられるファーストフード、通学で利用するバスや鉄道など、多くの製品やサービスは企業によって提供されています。アルバイト先での経験を通じて企業の活動に直接ふれることもあるでしょう。就職活動では、働く場として自分はどのような企業がよいのかを考えることになります。それでは、企業とはどのようなもので、どのようにして私たちに製品やサービスを提供しているのでしょうか。

本講義では、社会における企業の役割に注意し、企業経営の基本的な考え方を学修します。そのために、つぎの3部構成で授業を進めます。

パート1：組織のマネジメント

企業を運営するための基本的な考え方について学びます。

パート2：戦略のマネジメント

企業が成長を続けていくための論理である戦略について学びます。

パート3：お金のマネジメント

企業の決算書類である財務諸表の内容、基本的な分析方法を学びます。

想定している受講生は、これまで経営学関連の科目を履修したことがない学生（法・文・理工学部）です。基本的な内容を扱いますので、経済学部の学生にとっては、ほかの科目で既に学んだことが多いかもしれません。適宜ディスカッション問題などを取りいれて進めますので、既習者でも新たな気づきがあると思います。企業の活動について眺めるための基本的な力を身につけたいという意欲をもつみなさんはぜひトライしてください。

到達目標

DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）を実現するために、つぎの3つの点を達成目標として学修します。

- ① 社会の中で企業が果たす役割について説明できる。
- ② 経営学や会計学の基本的な考え方を説明できる。
- ③ 書籍、新聞、インターネットなどから企業の事例について情報を集め、自分の伝えたいことをわかりやすく説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス 企業とは何か ・ 企業の役割	
	【復習】 ・ 今回学んだキーワードを説明できるようにする。	60
第2回	組織行動論① ・ 個人の行動：モチベーション ・ 集団の行動：集団行動の基本要素	
	【予習】 ・ 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 ・ 今回学んだキーワードを説明できるようにする。	60
第3回	組織行動論② ・ リーダーシップ ・ 組織文化	
	【予習】 ・ 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 ・ ディスカッション問題について自分の考えをまとめる。 【復習】 ・ 今回学んだキーワードを説明できるようにする。	90

第4回	<p>組織理論①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分業と調整 ・組織の基本形態（前半）：職能制組織，事業部制組織 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	60
第5回	<p>組織理論②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織の基本形態（後半）：マトリックス組織 ・適切な組織形態の選択のために：組織運営のコスト ・場のマネジメント 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 ・ディスカッション問題について自分の考えをまとめる。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	90
第6回	<p>経営戦略①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略とは何か ・多角化が起こる理由 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	60
第7回	<p>経営戦略②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の事業間での資源配分：製品ポートフォリオ・マネジメント（PPM） 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 ・ディスカッション問題について自分の考えをまとめる。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	90
第8回	<p>競争戦略①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争戦略とは何か ・競争優位の2つの方法：コスト優位と差別化優位 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	60
第9回	<p>競争戦略②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より高い成果を実現するには：スタック・イン・ザ・ミドル仮説について考える ・より広い視点からみた競争戦略：競争と協調を両立するコーペティション 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 ・ディスカッション問題について自分の考えをまとめる。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	90

第10回	<p>会計の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計の基本的な役割：財務会計と管理会計 ・企業の決算書類である財務諸表の構成：貸借対照表，損益計算書，キャッシュ・フロー計算 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	60
第11回	<p>貸借対照表の読み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社の財政状態を示す貸借対照表：資産，負債，純資産 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	60
第12回	<p>損益計算書の読み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社の経営成績を示す損益計算書：収益と費用 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	60
第13回	<p>キャッシュ・フロー計算書の読み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の資金繰りを示すキャッシュ・フロー計算書：収入と支出 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 ・ディスカッション問題について自分の考えをまとめる。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	90
第14回	<p>財務諸表の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実数分析と比率分析 ・安全性指標と収益性指標 	
	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を読んで，疑問点を整理する。 ・ディスカッション問題について自分の考えをまとめる。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回学んだキーワードを説明できるようにする。 	90
第15回	<p>授業全体のまとめ</p>	
	<p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験にむけて授業全体で学んだ考え方を説明できるようにする。 	120

授業の方法

授業は講義形式で行います。コメントシートやディスカッションを通じて、できる限り双方向の授業にしたいと思います。時々理解度を確認する課題を出しますので、授業内容の復習に力を入れてください。そのさい、普段自分が慣れ親しんだ製品やサービスを扱っている企業などの事例を参考に考えることが、理解を深めるためのコツです。時間に余裕があれば質問の時間を設けますので、わからないところはその場で解決するようにしてください。

※受講生の理解度や関心などに応じて授業の内容を変更することがあります。

成績評価の方法

以下の項目を総合的に評価します。

授業への積極的な参加（ディスカッションへの貢献度、コメントシートの記載内容）20%

レポート課題など20%

学期末試験60%

※詳細はガイダンスで説明しますので、第1回の授業に必ず参加してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

つぎの3つの点について、到達度を評価します。

- ①組織、戦略、お金のマネジメント（経営学、会計学）の基本的な考え方を明確に説明できるか。
- ②コメントシートやディスカッションを通じて授業に十分貢献できているか。
- ③レポートの内容が十分準備されたものであったか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識はとくに必要ありません。

ビジネスへの具体的なイメージをもつことが重要ですので、新聞記事などを通じて企業が直面している問題に注意する習慣をつけてください。

テキスト

榊原清則（2013）『経営学入門（上）第2版』日本経済新聞出版社。

※第1回のガイダンスを受講した後に購入してください。

参考書

授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	現代のマスメディア		
教員名	挾本 佳代		
科目ナンバー	1301476050	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

「マスメディアのこれまでとこれからを考える」

わたしたちは好むと好まざるとにかかわらず、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされている。こうした情報を共有することで、わたしたちは一見バラバラに存在しているかのように見えても、実は情報を共有することで相互に結びついているのだとする考え方もある。

この授業では、現代社会を語る上で欠かすことのできないマスメディアの現状と問題点を考察していく。そして、急速に発展してきたソーシャルネットワークの展望も考察する予定である。

わたしたちは、マスメディアに対してどのような姿勢をもって臨むべきなのか。いま現実生活をしている社会そのものに関心を持ちながら、毎回の授業に臨んでほしい。

到達目標

DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。

- ① マスメディアが果たしている役割を理解し、他人と知識交換をしながらきちんと説明できる。
- ② マスメディアの功罪と展望を説明できる。
- ③ ソーシャルネットワークの展望について、的確に理解し、説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	<p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・ マスメディアにはどのようなものがあるかを把握する。 	
	<p>【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。</p> <p>【復習】 授業の進め方などを確認する。</p>	60
第2回	<p>マスメディアとは何か／コミュニケーションの類型</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスメディアの定義、特徴を解説する。 ・ コミュニケーションの類型を解説する。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	60
第3回	<p>マスメディアと個性（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスメディアが人間の個性にどのような影響を与えているかを考察する。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	60

第4回	<p>マスメディアと個性（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費行動と人間個性の関連性を解説する。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	60
第5回	<p>マスメディアと個性（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「断捨離」、ミニマリストの流行とマスメディアの関連性について解説する。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	60
第6回	<p>多チャンネル化と嗜好の多様化と情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 地上デジタルテレビ放送やケーブルテレビ放送によってもたらされた嗜好の多様化について解説する。 多チャンネル化が引き起こす社会内で共有する情報の多寡について考察する。 視聴率のからくりについて解説する。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	90
第7回	<p>中間テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。 	
	<p>【予習】 これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。</p>	120
第8回	<p>スモールメディアとミドルメディア</p> <ul style="list-style-type: none"> スモールメディアとミドルメディアの現状を考察する。 この2つのメディアがマスメディアを凌駕するかどうか、問題点はどこにあるのかについて解説する。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	60
第9回	<p>メディアとしての新聞社を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 活字離れの現状、それを食い止めるための方法について解説する。 新聞社の役割を考える。 	
	<p>【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。</p> <p>【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。</p>	60

第10回	新聞の再生は可能か	
	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアとしての新聞の歴史を解説する。 ・新聞の発行部数の推移から、メディアとしての役割の変化を考察する。 ・インターネット網の拡大化によって、新聞にどのような影響が及ぼされたかについて解説する。 ・新聞の今後の展望を考える。 	
	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。	60
	【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	
第11回	企業戦略とマスメディア（1）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・マスメディアを利用して商品宣伝を行ってきた企業戦略を具体的に考察する。 	
	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。	60
	【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	
第12回	企業戦略とマスメディア（2）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・マスメディアを利用して商品宣伝を行ってきた企業戦略がどのように変化してきているかを考察する。 	
	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。	60
	【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	
第13回	マスメディアと政治と民主主義	
	<ul style="list-style-type: none"> ・政治に及ぼすマスメディアの果たす役割を解説する。 ・民主主義に関する理論とその特徴を解説する。 ・マスメディアによって政治意識は変化するかどうかについての問題を考察する。 ・マスメディアと政治の良好な関係を探る。 	
	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。	60
	【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	
第14回	マスメディアの功罪とその展望（1）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・マスメディアの功罪にはどのようなものがあるのかを考察する。 	
	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。	60
	【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	
第15回	マスメディアの功罪とその展望（2）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・マスメディアとスモールメディア・ミドルメディアとの棲み分けは可能かどうかを考察する。 ・これまでの学修内容を振り返り、現代社会におけるマスメディアの現状を確認する。 	
	授業のまとめ	
	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。	60
	【復習】 到達度確認テストに向けて、キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	

授業の方法

基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。
随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。
上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。
なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。
①中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。
②課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。
③到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

成績評価の方法

随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（15%）、到達度確認テスト（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度によって評価する。
①基礎的なキーワード、鍵概念的な理解。
②マスメディアの功罪を通して、現代社会を見通す深い理解力。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。
「社会学と現代」（後期：挾本担当）

テキスト

授業で適宜指示をする。

参考書

授業で適宜指示をする。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	コミュニケーションと社会		
教員名	金崎 一郎		
科目ナンバー	1301476060	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

この講義では、身の回りの対面的状況における相互行為（狭義のコミュニケーション）に基づき、日常生活での人間関係（狭義の社会）を考えていくことにしたい。社会学的に人間関係を考える際には、基本的には役割関係を中心に見ていくことになる。しかしながら、例えば同じ「友人」という役割であっても、行為者の置かれている状況において、その演じるキャラクターは異なるのが普通であって、役割概念だけでは相互行為を巡る行為者の表出性を見るには十分とは言えない。本講義では、E.ゴフマンの「演出論的社会学」の視点に立ち、「パフォーマンス—オーディエンス」モデルを用いて、日常の—コマとしての様々な相互行為を体系的かつ具体的に分析・記述する。1回1回の講義において、多くの学生自身の対面的状況での体験や経験が社会学的にどのように説明・記述されるのか、それがはっきりと分かるはずである。

到達目標

- ①相互行為を考える際の基本的な概念・アプローチの理解。
- ②自分を取り巻く身近な対面的状況における相互行為の分析・記述・説明。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	対面的状況における相互行為 ・行為の様々な見方 情報処理視点の行為と資源処理してんの行為 活動としての行為と表出としての行為 ・E.ゴフマン(Goffman)の演出論的社会学 「パフォーマンス—オーディエンス」モデル (P—Aモデル)	
	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	60
第2回	P—Aモデルによる相互行為の全般的な説明 ・印象の与え方 ・相互行為の秩序 ・パフォーマンスの道德性 ・秩序の崩壊とその回避	
	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	60
第3回	パフォーマンスについて(1) ・パフォーマンスの2つのタイプ ・外面 (front) ・劇的具象化(dramatization)	
	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	60

第4回	パフォーマンスについて(2) ・理想化(idealization) ・表出的統制の維持(maintenance of expressive control)	
	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	60
第5回	パフォーマンスについて(3) ・偽りの呈示(misrepresentation) ・神秘家(mystification) ・リアリティとたくらみ(reality and contrivance)	
	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	60
第6回	チームについて ・「チーム(team)」とは ・チームのメンバー間の2つの関係性 ・チーム単位のパフォーマンスの方針	
	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	60
第7回	局域と局域行動について(1) ・「局域(region)」とは ・表局域と裏局域 ・表極域の2つの基準	
	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	60
第8回	局域と局域行動について(2) ・裏局域の性質 ・裏局域の非形式性と行動の制約条件 ・極域の統制	
	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	60
第9回	様々な分裂的役割について(1) ・「分裂的役割(discrepant roles)」とは ・「秘密(secret)」の種類	
	【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。	60

第10回	<p>様々な分裂的役割について(2)</p> <p>相互行為に同席している分裂的役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 密告者(informer)の役割 ・ さくら(shill)の役割 ・ 忍び目付け(imposter)の役割 ・ 仲介人(go-between)の役割 ・ 番外人(non-person)の役割 	
	<p>【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。</p>	60
第11回	<p>様々な分裂的役割について(3)</p> <p>相互行為に同席していない分裂的役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サービス・スペシャリストの役割 ・ 腹心(confidant)の役割 ・ 同類(colleague)の役割 	
	<p>【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。</p>	60
第12回	<p>役柄から外れたコミュニケーション</p> <p>裏局域における役柄から外れたコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不在者の取り扱い ・ 演出談合 <p>表局域における役柄から外れたコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チーム単位の共謀 	
	<p>【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。</p>	60
第13回	<p>表局域における役柄から外れたコミュニケーション(続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な一時的再調整 	
	<p>【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。</p>	60
第14回	<p>印象管理(impression management)の技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パフォーマンスに不信を招く要因 <p>パフォーマーの防衛的措置</p> <p>オーディエンスの保護的措置</p>	
	<p>【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。</p>	60
第15回	<p>講義全体の総括と質疑</p>	
	<p>【予習・復習】習得した概念の全体の整理と理解の確認、また社会現象等への適用・応用の確認。</p>	60

授業の方法 講義形式とする。
成績評価の方法 期末試験（あるいは授業内試験）及び出席によって評価する。出席は適宜取る。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし。日常生活に自覚的・内省的であること。
テキスト E. ゴフマン「ゴフマンの社会学1 行為と演技 一日常生活における自己呈示」（誠信書房、石黒毅訳） (E. Goffman, The Presentation of Self in Everyday Life, Doubleday Anchor Books, 1959)
参考書 適宜指示する。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	社会心理学入門		
教員名	正木 郁太郎		
科目ナンバー	1201476070	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要
 社会心理学は、人間の感じ方や考え方、行動について、他者との関係の中で理解することを目指し、科学的に研究する学問である。この講義では、社会心理学の基本的な研究手法と、主要な知見を解説することを通じて、私たち自身が普段、どのように感じ、考え、行動しているのかを客観的に理解することを目指す。

到達目標
 (1) 人間の認知、感情、行動について科学的に調べる方法を理解する
 (2) 人々が無意識のうちに受けている対人的、社会的影響について理解する
 (3) 人間の考え方、行動、社会現象について、「なぜ？」と問い、客観的に考える力をつける

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の内容、進め方を理解する ◎社会心理学とは？ 社会心理学の方法 ・社会心理学の特徴、方法について学ぶ	
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する 【復習】 授業内容を復習し、社会心理学の方法について確認しておく。	60
第2回	◎社会的認知 ・人間にとって「ものごとを客観的に捉えることがどう難しいか」を学ぶ	
	【復習】 授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60
第3回	◎対人認知：「血液型人間学」、ステレオタイプ ・「血液型人間学」を例に、人に対する印象形成や、そこに潜むバイアスの問題について学ぶ	
	【復習】 授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60

第4回	◎帰属過程 ・私たちが他者の行動の原因をどのように推測するのか、その傾向を学ぶ	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60
第5回	◎自己 ・私たちが自分自身をどのように評価しているのか、その評価がどのようにゆがんでいるのかを学ぶ ・また、それが認知や行動に対する影響についても学ぶ	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60
第6回	◎態度と説得 ・私たちは、どのようなときに、なぜ態度を変えるのかを学ぶ ・合わせて、対人的な説得の方法などについても学ぶ	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60
第7回	◎集団1: 同調・服従と規範 ・私たちが他者から影響されてどのように行動を変えるのかを学ぶ	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60
第8回	◎集団2: 集団間関係、対立、偏見 ・2つ以上の集団があるとき、なぜ対立が起こりやすいかを学ぶ	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60
第9回	◎心理的プロセスの文化差 ・私たちの心は、国や文化によってどのように違うのか、その違いはどのように生まれるのかについて学ぶ	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60

第10回	◎ソーシャルネットワーク ・人と人が結びつくことで、どのような利点があるのか、どのように結びつくことが良いのかについて学ぶ	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60
第11回	◎組織のマネジメントと社会心理学 ・会社やサークル・部活動など、様々な組織をどのように運営すればよいのか、研究から分かっていることについて学ぶ	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60
第12回	◎マスメディアと世論形成、インターネット ・私たちは、マスメディアや周囲の人からどのように影響されているのかについて学ぶ	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60
第13回	◎社会心理学の応用について：現代社会の問題解決の例 ・第12回までで扱った内容が、現代社会で実際に応用・研究されている事例について学ぶ ・事例を通じて、社会心理学が持つ「実社会に役立つ」という側面について理解する	
	【復習】授業内容を復習し、学んだ視点で身近な出来事を解釈する。	60
第14回	◎実際に問題事例を社会心理学的に読み解く ・授業で提示する社会問題、または受講者の身近な問題を取り上げて、授業で扱った社会心理学の観点から分析し、問題の解決方法を考える ・活動を通じて、社会心理学と社会のつながりについて、自分の言葉で説明できるようになる ・グループワークが中心の回になる予定である	
	【復習】授業全体を振り返り、自分がこの授業で何を学んだかを体系的に考える。	60
第15回	◎質疑応答、授業のまとめ	
	【復習】授業全体を振り返り、自分がこの授業で何を学んだかを体系的に考える。	120

授業の方法

- ・ 授業は、パワーポイントと、随時配布資料を用いて、講義を中心に進める。
- ・ 簡単な質問紙実験やゲームを体験してもらう機会も設け、講義内容の理解を促進する。
- ・ また、受講人数に応じて、少人数に分かれてのディスカッションなどを行う可能性がある。
- ・ 学生の疑問や、授業を通じて考えたことは、適宜リアクションペーパーを通じて回収し、翌週の授業内などでできるだけ回答する。
- ・ 授業を通じて数回（授業3～5回に1回ほどを予定しているが授業進度に応じて決定する）、小テストを実施する予定である。内容はそれまでの授業の理解度を自分で確認するためのものである。受講者全体で誤答の多かった問題についてはフィードバックを行い、授業全体の理解度を高めることを目指す。
- ・ 普段から、授業資料を用いた復習に力を入れ、分からないところを持ち越さないようにすること。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出、小テストの結果）50%、期末試験50%で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度によって評価する。

- ・ 社会心理学の方法について、理解できているか。
- ・ 社会心理学の主な知見について、理解できているか。
- ・ 社会心理学で学んだ視点で、身近な出来事について考えているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識はないが、受講者同士のコミュニケーションやディスカッションでの発言を求めため、「座って一方的に授業を受ける」以上に活発な参加が求められる。そのため、人とのコミュニケーションにためらいが無いことが望ましい。ただし内容は決して難しいものではなく、日常的な出来事に対する考えを話し合うものや、授業内容の復習が主であるため、高度な知識は必要ではない。

テキスト

特に指定しない。適宜、資料を配付する。

参考書

1. 『社会心理学』、池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣。
2. このほかに授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	社会と統計		
教員名	竹内 光悦		
科目ナンバー	1201476080	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

現在のビジネス社会の多くの分野において、データに基づいた論証や現状把握はよく行われている。特に一般的に人は数字を信じてしまう傾向があるため、このような状況下では、データを正しく見ることができないとだまされ、またデータを正しく扱うことも大学生のみならず、社会人としても必要な素養である。このような状況を踏まえ、本講義では社会におけるデータを題材に、公的統計データの紹介、データ整理、データの効果的な表現法、基礎的なデータの解析方法を学ぶ。特に単なる知識の伝達に終始するのではなく、演習を含め、体験的に学ぶことを重視している。理系はもちろんのこと、文系であってもこれから先はデータなどを活用して、意思決定をせざるを得ない状況と言えよう。このことも踏まえた授業展開を予定している。

到達目標

理論的な背景にも触れますが、実際にデータ分析で問題解決ができるか、基礎的なデータ分析の知識やスキルの修得を目指します。特に以下のデータ分析の基礎および展開の理解を主とします。

1. 統計を用いた問題解決力の基礎を理解できる。
2. 基本的な統計指標が理解できる。
3. 基礎的なデータ処理の概念が理解できる。
4. 基礎的なデータ分析を行い、客観的なレポート作成ができる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス、社会生活における統計データの利用	
	【予習】 データ分析系の知識の復習。 【復習】 社会生活における統計データの利用方法の確認。	60
第2回	公的統計・公開データの求め方、使い方および測定尺度	
	【予習】 統計的なものの考え方の復習。 【復習】 オープンデータの確認。	60
第3回	データの視覚的表現-統計グラフの罫-	
	【予習】 オープンデータの復習。 【復習】 統計グラフが与える影響の確認。小レポートの作成。	120

第4回	データを統計表でまとめる-度数、相対度数、統計表-	
	【予習】 統計グラフの復習。 【復習】 データの集計、処理の整理。	60
第5回	データを二元表でまとめる-層別による関連・要因を探る-	
	【予習】 データの集計法の復習。 【復習】 クロス集計表、連関係数の整理。	60
第6回	代表値を使ったデータ比較-分布の中心傾向による比較-	
	【予習】 データの分布の考え方の確認。 【復習】 代表値を用いたデータ分析の整理。	60
第7回	散布度を使ったデータ比較-分布の散らばり傾向による比較-	
	【予習】 データの分布の代表値の復習。 【復習】 データの分布の散布度の整理。	60
第8回	習熟度確認テスト	
	【予習】 習熟度確認テストに向けた復習。 【復習】 習熟度確認テストの振り返り。	120
第9回	2変量データのグラフ表現、変量間の関係（相関と因果）を探る	
	【予習】 データの代表値と散布度の復習。 【復習】 相関関係の検証の整理。	60

第10回	時系列データの傾向把握、予測-回帰分析の基礎、多変量データを知る	
	【予習】 相関関係を用いた関係把握の復習。 【復習】 傾向・予測、回帰分析の整理。	60
第11回	標本調査による推定-統計的推定、統計的仮説検定の紹介及び利用-	
	【予習】 回帰分析を用いた予測の復習。 【復習】 標本調査と区間推定の整理。	60
第12回	ICT を活用した実データ分析の実際、表計算ソフト利活用	
	【予習】 区間推定を用いた推定の復習。 【復習】 統計ソフトの利活用の整理。	60
第13回	調査報告書にみる統計資料、今後の統計科学の展開	
	【予習】 統計ソフトの利用法の復習。 【復習】 データに基づくレポート作成の整理。	60
第14回	公的統計の収集、自身による実験データの収集演習	
	【予習】 データに基づくレポート作成の整理。 【復習】 最終レポート作成の計画検討。	60
第15回	データに基づくレポートの作成とまとめ	
	【予習】 最終レポートの執筆。 【復習】 最終レポートの完成。	120

授業の方法

講義と演習を中心とした授業を行う。体験的にデータに触れる講義・演習形式のため、計算機環境（電卓（ルート機能を有するものなら百円ショップで販売しているもので十分）、スマートフォン、タブレット、等）を少なくとも一つ準備すること。なお、サイトにて授業内で使用した資料の配布を行うので、それらも利用すること。また随時、電子メールによる質問を受け付けているので活用すること。

成績評価の方法

授業内課題（演習課題、小レポート、中間試験）50%、最終レポート試験 50% により総合的に評価する。また適宜、授業中の積極的な発言に対する加点も行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。特に電卓等を使ったデータ分析力、情報収集・活用・発信能力を踏まえたデータに基づく問題解決能力が身についたかを総合的に評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要に応じて授業内で説明するため、数学や統計の知識は必須ではありません。統計量の計算は電卓等で使用できる四則演算と平方根の内容とするため、高度な電卓等は不要。スマートフォンでも可。電卓等の利用法を覚えることが望ましいが、不明点は適宜質問してください。なお数学的証明には原則、触れません。統計学関連の科目の基礎、導入授業ですが、社会での統計的問題解決の育成を主に考えます。

テキスト

毎回資料を Portal で配布します。テキストは指定しませんが、情報系、データ分析系の資料等は参考になります。

参考書

「よく分かる統計解析の基本と仕組み」、山口和範、秀和システム、1800円、「Excel 徹底解析 統計データ分析」、渡辺美智子他、秀和システム、2500円。など。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。また随時、メールによる質問も受け付けます。また毎回使用するスライド（動画形式に変換します）や各回の授業後のコメント等も Portal で公開しますので、参考にしてください。

科目名	裁判と社会		
教員名	橋場 典子		
科目ナンバー	1201476090	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

本講義では、裁判に関する基本的事項を学修すると同時に、裁判と社会との関連性についての理解を深めることを目指す。講義全体を通して、裁判に関する基本的事項を学修するとともに、裁判や法の限界点についても考察してもらいたい。

到達目標

DP1（教養の修得）を実現するため、次の三点を到達目標とする。

- ①裁判に関する基本的事項を修得する。
- ②裁判以外の紛争解決方法について説明できる。
- ③訴訟や法の限界点について説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・講義の全体像について説明する	
	(予習) シラバスを読んでくる	30
第2回	裁判の種類と概要 ・民事訴訟、刑事訴訟 ・訴訟の状況	
	(復習) 裁判の種類と概観について説明できるようにする	40
第3回	司法制度改革 ・司法制度改革の前と後	
	(復習) 司法制度改革の内容と効果について説明できるようにする	50

第4回	裁判を受ける権利の保障 ・ 民事法律扶助制度 ・ 司法過疎対策	
	(復習) 民事法律扶助制度や司法過疎対策について説明できるようにする	60
第5回	裁判員裁判 ・ 裁判員裁判の概要	
	(復習) 裁判員裁判の概要を理解する	60
第6回	裁判と専門職(1) ・ 法曹三者とは ・ 法曹一元について	
	(復習) 法曹三者、法曹一元について説明できるようにする	60
第7回	裁判と専門職(2) ・ 隣接法律専門職とは ・ 多職種連携について	
	(復習) 隣接法律専門職、多職種連携について説明できるようにする	60
第8回	裁判の利用(1) ・ 訴訟率 ・ 法意識 ・ 和解	
	(復習) 訴訟率、法意識、和解について説明できるようにする	60
第9回	裁判の利用(2) ・ 隣人訴訟について	
	(復習) 隣人訴訟の概要について説明できるようにする	60

第10回	ADR ・ADRの概要について ・メディエーション	
	(復習) ADRの概要、メディエーションについて説明できるようにする	60
第11回	法化社会と法曹（1） ・弁護士—依頼者間関係 ・法曹の役割	
	(復習) 弁護士と依頼者間の関係、法曹の役割について理解する	60
第12回	法化社会と法曹（2） ・コース・ローヤリング ・プロボノ ・法曹倫理	
	(復習) コース・ローヤリング、プロボノ、法曹倫理について説明できるようにする	60
第13回	裁判と社会（1） ・公害訴訟 ・労災訴訟	
	(復習) 公害訴訟、労災訴訟の概要について説明できるようにする	60
第14回	裁判と社会（2） ・夫婦別姓訴訟 ・同性婚	
	(復習) 夫婦別姓訴訟や同性婚の概要と問題点について説明できるようにする	60
第15回	講義のまとめ	
	講義全体を振り返る	60

授業の方法

授業は講義を中心に進めるが、適宜講義内で小レポートを課す場合もある。

成績評価の方法

期末試験80%、平常点20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

到達目標に示された、①～③の達成度が評価の基準となる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。日頃から新聞やニュース等で法的問題についての意識を高めておくことが期待される。

テキスト

講義内で適宜プリントを配布する。

参考書

・市川正人・酒巻匡・山本和彦著『現代の裁判（第七版）』有斐閣アルマ、2017年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	科学的に考える（熱と光の科学）		
教員名	日高 啓晶		
科目ナンバー	1301473010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

日常生活の中での熱と光にかかわりのある現象について取り上げる。高校で物理や数学を履修していないことを前提とし、微分積分等を使わずにやさしく解説する。日常生活での熱と光に関係のある不思議な現象を取り上げ、なぜそのような事が起きるのか解説したり、学生にその理由を考えさせたりする。このようにすることで学生が興味を持って面白く学習し、科学的な考え方を自然に身につけることが出来ると考えられる。頭の中で想像する机上の物理の学習を避けるため、図・写真・映像・動画（CD ROM）を中心にして不思議な自然現象を面白く解説する物理の教科書・参考書等を活用しながら授業を展開する。また、数人ずつのグループをつくり、なぜそのような不思議な現象が起きるのか等を議論させ発表させる、グループ学習の方法を、必要に応じて取り入れる。

到達目標

このような授業を通じて、身の回りの自然現象や科学技術に興味を持ち、科学的な考え方が出来るようになる。将来、日常生活や社会で何らかの科学技術的な問題等に遭遇したときに、このような考え方を生かして実践出来るようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	<p>授業の目的と概要； 日常生活での熱と光に関係のある不思議な現象を挙げてみよう 熱と生活 光と生活</p> <p>【予習】日常生活での熱と光について、なぜだろうと不思議に思う現象を考えておく。</p> <p>【復習】日常生活での熱と光について、不思議な現象にどのようなものがあるか復習し、その観点で次の講義に備える。</p>	60
第2回	<p>熱と温度； 熱とはなにか？ 温度とはなにか？</p> <p>【予習】教科書・参考書の熱と温度に関連するところ（の解説図・写真、付属のCD-ROMの映像・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。</p> <p>【復習】熱と温度について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。</p>	60
第3回	<p>熱容量と比熱 熱量の保存</p> <p>【予習】教科書・参考書の熱容量と比熱に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。</p> <p>【復習】熱容量と比熱について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。</p>	60

第4回	物質の状態（固体・液体・気体）； 不思議な超臨界流体 圧力鍋・圧力釜の原理 水蒸気でマッチに火をつけることができる？ 過冷却水をお皿に注ぐとどうなるか？ 打ち水の効果 熱膨張（夏に曲がるレール）	
	【予習】教科書・参考書の物質の状態に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。 【復習】物質の状態について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。	60
第5回	気体の法則； ボイル・シャルルの法則 理想気体の状態方程式（富士山にもって行った菓子袋が膨らむ！） 気体の分子運動	
	【予習】教科書・参考書の気体の法則に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。 【復習】気体の法則について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。	60
第6回	気体の状態変化； 仕事とエネルギー（エネルギーとはなにか？） 熱と仕事の関係（手をこすると熱くなる、熱を仕事に変える蒸気機関車） 内部エネルギー 熱力学第一法則 気体の状態変化（自転車の空気入れが暑くなるのはなぜ？）	
	【予習】教科書・参考書の気体の状態変化に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。 【復習】気体の状態変化について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。	60
第7回	不可逆変化と熱機関； エネルギーの変換と保存 不可逆変化と熱力学第二法則（コップの中での氷から水への変化と水から氷への変化） 熱機関 永久機関は存在するか？	
	【予習】教科書・参考書の不可逆変化と熱機関に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。 【復習】不可逆変化と熱機関について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。	60
第8回	波と媒質の運動； 横波と縦波 波の重ね合わせの原理 波の干渉 波の反射・屈折・回折	
	【予習】教科書・参考書の波と媒質の運動に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。 【復習】波と媒質の運動について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。	60

第9回	<p>光の反射と屈折； 反射の法則 屈折の法則（水槽中の物が浮き上がって見えるのはなぜ？） 全反射（光の全反射を応用した光ファイバー・光通信）</p>	
	<p>【予習】教科書・参考書の光の反射と屈折に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。</p> <p>【復習】光の反射と屈折について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。</p>	60
第10回	<p>光の分散と散乱・偏光； 光の分散（二重にかかる虹が出来るのはなぜ？） 光の散乱（空が青いのはなぜ？） 偏光（偏光眼鏡で3D映画を見ると立体的に見えるのはなぜ？）</p>	
	<p>【予習】教科書・参考書の光の分散と散乱・偏光に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。</p> <p>【復習】光の分散と散乱・偏光について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。</p>	60
第11回	<p>レンズ； 実像と虚像 レンズの式（写像公式） 望遠鏡と顕微鏡</p>	
	<p>【予習】教科書・参考書のレンズに関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。</p> <p>【復習】レンズについて学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。</p>	60
第12回	<p>光の干渉と回折； ヤングの干渉実験 回折格子</p>	
	<p>【予習】教科書・参考書の光の干渉と回折に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。</p> <p>【復習】光の干渉と回折について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。</p>	60
第13回	<p>光の干渉と回折（続き）； くさび形空気層による光の干渉 ニュートンリング 薄膜による干渉（しゃぼん玉や水面に浮かんだ油の膜が色づいて見えるのはなぜ？）</p>	
	<p>【予習】教科書・参考書の光の干渉と回折に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。</p> <p>【復習】光の干渉と回折について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。</p>	60
第14回	<p>光の正体は何？； 光の粒子説と波動説 光の波の媒質は何？（エーテル説と電磁波説） マイケルソン・モーレイの実験 光の正体は電磁波 光速不変の原理とアインシュタインの相対性理論</p>	
	<p>【予習】教科書・参考書の光の正体に関連するところ（の解説図・写真・動画）を参考にしながら予習し講義に備える。</p> <p>【復習】光の正体について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながら復習する。</p>	60

第15回	授業のまとめ； 原子・分子の運動エネルギーとしての熱 電磁波としての光 最終レポート課題出題	
	【予習】熱と光について学んだことを、講義ノートや教科書・参考書（の解説図・写真・動画）を参考にしながらまとめる。 【復習】熱と光の科学についての最終レポートを作成する。	90
授業の方法		
頭の中で想像するだけの机上の物理の学習を避けるため、図・写真・映像・動画（CD ROM）を中心にして解説する物理の教科書・参考書などを活用しながら授業を展開する。また、数人ずつのグループをつくり、なぜそのような不思議な物理現象が起きるのか等を議論させ発表させる、グループ学習の方法を、必要に応じて取り入れる。		
成績評価の方法		
平常点（授業への参加等）20%、レポート 20%、期末試験の成績60%により評価する。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特に要しない		
テキスト		
「視覚でとらえるフォトサイエンス 物理図録」（数研出版）（1110円）		
参考書		
「基礎物理」杉本・山田・伊藤著（東京教学社）（2000円）		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
授業の後に質問・相談を受け付ける。		

科目名	科学的に考える（物質の科学）		
教員名	加藤 茂		
科目ナンバー	1201473020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

現在、科学情報を含めあらゆる情報が氾濫している。その中から正しいと思われるものを取捨選択する能力が各個人に課せられています。インチキ商品やえせ科学情報も蔓延しています。近年、科学のあり方については話題となる機会が増してきている。講義では基礎化学も含め話題提供をするが、実際の人間生活に必要とされる科学的情報を平易に分かりやすく解説することに重点を置きます。

到達目標

DP1の目標に関連し、本講義の受講によって、「科学的な考え方」とはどのようなものを会得・理解することができるようになることを目的とする。また、科学（化学）物質や科学情報等を正しく把握し、各個人が詳細な議論や主張ができることを目的とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	科学情報から学ぶ	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第2回	生活を支える化学物質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第3回	環境と化学物質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分

第4回	健康と化学物質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第5回	産業と化学物質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第6回	植物からの化学物質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第7回	植物と物質（食料）生産	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第8回	動物と化学物質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第9回	微生物からの化学物質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分

第10回	先端産業と化学物質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第11回	地球環境と化学物質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第12回	化学物質とエネルギー	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第13回	食物連鎖と化学物質	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第14回	科学物質の恩恵？科学物質は必要？	
	講義中に作成したノートに基づき、小テストにも備え復習してください	各回で取り上げる話題の知識や興味に応じて30-60分
第15回	科学的な考え方とは	
	これまでの内容を整理し、期末試験またはレポートを作成してください	期末試験またはレポート作成

授業の方法

講義を中心とします。小テスト（20～30分程度）を3～4回行う予定。

成績評価の方法

小テスト（50%）と期末レポート（50%）、また、出席も加味します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要ではありませんが、科学情報に関心を持って欲しい。

テキスト

特に指定しません。プリントを配布します。

参考書

特にありません。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	科学的に考える (数の世界)		
教員名	石井 卓		
科目ナンバー	1201473030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

数にまつわる問題は、数千年もの昔から多くの人々を惹きつけ、今なお未解決の問題も数多く存在する。ここでは、微積分をはじめとする解析学などの高度な数学を用いない「初等整数論」についての入門的講義を行い、数の世界のもつ不思議さや美しさの一端を紹介する。一方で、この一見「役に立たない」整数論も近年、現代の通信技術において不可欠な暗号理論に応用されることがわかってきた。講義の後半では、RSA暗号、エルガマル暗号といわれる暗号を中心にその仕組みを解説する。

到達目標

DP 1 (教養の修得)、DP 2 (課題の発見と解決)、DP 5 (表現力、発信力) を実現するため、以下を到達目標とする。

- ① 一次不定方程式、一次合同式が解ける。
- ② 素因数分解を用いて約数の個数、和が求められる。
- ③ べき乗剰余、べき乗根が求められる。
- ④ RSA暗号、エルガマル暗号が解読できる。
- ⑤ 原始根を用いて、合同式が解ける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	導入	
	シラバスを読む。	20分
第2回	約数・倍数、ユークリッドの互除法	
	第1回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジュメの練習問題を解く。次回の講義のレジュメを読んでおく。	60分
第3回	一次不定方程式	
	第2回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジュメの練習問題を解く。次回の講義のレジュメを読んでおく。	60分

第4回	素数、素因数分解	
	第3回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分
第5回	約数の個数・総和、完全数	
	第4回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分
第6回	合同式、一次合同式の解法	
	第5回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分
第7回	フェルマーの小定理	
	第6回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分
第8回	オイラーの定理	
	第7回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分
第9回	べき乗剰余の計算	
	第8回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分

第10回	暗号の歴史, RSA暗号	
	第9回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分
第11回	原始根、指数、離散対数問題	
	第10回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分
第12回	エルガマル暗号	
	第11回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分
第13回	平方数の和	
	第12回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分
第14回	ペル方程式	
	第13回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。次回の講義のレジユメを読んでおく。	60分
第15回	総合演習	
	第14回のノートを見直し理解を深めるとともに、レジユメの練習問題を解く。	60分

授業の方法

教室における講義を主体とする。教科書は特に指定せず、レジュメを配布し、その内容を板書、口頭での説明によって解説する。学生は静かにノートを取りながら、解説を聞いて理解する（必要ならば質問をしてもよい）。また講義内の後半は演習（小テスト）の時間に充て、その日に学習した内容を自分の手を動かして確認する。

成績評価の方法

講義内の演習1/3、期末試験2/3

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校で習う数学 I、数学A

テキスト

特になし

参考書

「はじめての数論」・シルヴァーマン著、鈴木治郎訳・ピアソンエデュケーション

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	科学的に考える（生命の科学）		
教員名	麻生 一枝		
科目ナンバー	1201473040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

男と女には生物学的な違いがあります。身体はもちろんのこと、行動や考え方、その基となる脳の構造など、男女の生物学的な違いは様々なところに見受けられます。日々の生活のなかで私たちが見たり感じたりする、さまざま男女の行動や考え方の違い。そこからわき上がってくる「なんで違うのだろう？」という疑問。この授業では、そんな疑問について「自然選択による進化」という観点から考えていきます。男と女の生物学的な違いを知り、なぜ、ヒトの進化の過程で男女はそのような違いをもつようになったのかを考えること。それは、あなたのまわりの異性、あなたのまわりの同性、そして、あなた自身を理解する手助けになると思います。

到達目標

男女の違いを様々な視点から考えることにより、男女の違いだけでなく、男女の類似性、さらにはヒトの性の曖昧さを理解することを目標とする。

- ・ヒトのもつ行動の性差を、科学的・生物学的視点、とくに生物の進化という側面から考察できるようになる。
- ・様々な性のあり方について理解できるようになる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス ・本講義の目的、授業で取り扱う内容について説明する	
	【予習、復習】 シラバスを読み、講義の内容を把握する事	60
第2回	自然選択による進化・ヒトの進化の歴史 ・現代進化論における自然選択説について学修する	
	【予習、復習】 教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60
第3回	基本性差（オス・メスの根本的な違い）と行動の性差 ・基本性差と行動の性差との関係を、自然選択による進化という視点から解説する	
	【予習、復習】 教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60

第4回	ヒトの配偶者選択1 ・ヒトにおける配偶者選び（異性についての好み）を、自然選択による進化という視点から考察する	
	【予習、復習】教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60
第5回	ヒトの配偶者選択2 ・前回に続き、ヒトにおける配偶者選び（異性についての好み）を、自然選択による進化という視点から考察する	
	【予習、復習】教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60
第6回	パートナー獲得競争 ・ヒトにおけるパートナー獲得行動を、自然選択による進化という視点から考察する	
	【予習、復習】教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60
第7回	パートナーつなぎとめ戦術 ・DVやマインド・コントロールを含むヒトにおけるパートナーつなぎとめ行動を、自然選択による進化という視点から考察する	
	【予習、復習】教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60
第8回	クラス・ディスカッション	
	【予習、復習】これまでの講義内容を復習するとともに、講義第7回の最後に提示されたクラス・ディスカッションのテーマについて、自分の考えをまとめておく事	60
第9回	性と犯罪1： ・犯罪者数や加害・被害関係などにみられる性差を、自然選択による進化という視点から考察する	
	【予習、復習】教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60

第10回	性と犯罪2 ・子の虐待・殺害に見られる傾向をデータで示し、自然選択による進化という視点から考察する	
	【予習、復習】教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60
第11回	脳の性差1 ・空間認知能力・共感能力など、さまざまな能力の性差について学修する	
	【予習、復習】教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60
第12回	脳の性差2 ・さまざまな能力の性差と、その生物学のおよび社会学的要因について学修する	
	【予習、復習】教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60
第13回	性差の発達のメカニズム1 ・身体や心の性の分化のしくみについて学習し、多様な性のあり方への理解を深める	
	【予習、復習】教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60
第14回	性差の発達のメカニズム2 ・心の性や性指向の発達における生物学的・社会学的要因の役割について考察する	
	【予習、復習】教科書、配布資料を参考に授業の要点を理解する事	60
第15回	まとめ ・これまで学修した知識を基に男性と女性の違いについて総括する	
	【予習、復習】講義で学んだ事を基に、自身の考えをまとめること	60

授業の方法

教室における講義を中心に行ない、必要に応じてディスカッションの時間も設けることとする。講義終了後、毎回コメントペーパーの提出を求め、学修状況を確認する。

成績評価の方法

毎授業で提出する自筆コメントペーパー（70%）、最終授業日（15回目の講義）内に書く期末自筆感想文（30%）の合計100点で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、その達成度により評価する

- ・ヒトの性差を生物の進化的な背景から科学的に理解できているか
- ・講義で学んだ内容をふまえ、身近な事象を説明する事が出来るか

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

『科学でわかる男と女の心と脳』 麻生一枝著 サイエンス・アイ新書
『科学でわかる男と女になるしくみ』 麻生一枝著 サイエンスアイ新書
テキストに載っていない題材については、資料プリントを配布する。

参考書

John Alcock 2013 Animal Behavior: An Evolutionary Approach 10th Edition, Sinauer Associates, Inc. ISBN-13: 978-0878939664
『人間の本性を考える（上・中・下）』 2004スティーブ・ピンカー著 山下篤子訳 NHKブックス
その他、授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	科学的に考える（文系のための数学）		
教員名	小林 幸夫		
科目ナンバー	1301473050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

あなたは、 $3 \div 0$ 、 $0 \div 2$ 、 $0 \div 0$ の商を正しく言えますか？0 を含むわり算が、実は連立方程式の解を見つけるときに重大なカギを握っている。「勉強したら親に叱られる」「病気が治らないならば薬を飲まない」という命題はあり得るでしょうか？これらの問題の正解は、「演算の規則」「集合・論理」を学ぶと納得できる。

本講義では、「数理の話題（数的推理に対応）」と「集合・論理の話題（判断推理に対応）」とを取り上げる。たとえば、価格の計算の中で、かけ算・わり算の意味を見直すところから始める。同じ式の中では、かけ算をたし算よりも先に計算する理由が納得できる。それだけではなく、簡単な連立方程式であれば、暗算でも解を求めることができるようになる。他方、ヒトが問題を考えるときには「まったくそう」「大体そう」…のようにゆらぎがある。脳は本来論理的でないのかも知れない。しかし、あいまいな表現の引き起こすトラブルは少なくない。このような事情を踏まえて、数学の規則で命題の内容を論理的に判断する方法も身につける。数理の話題と集合・論理の話題との橋渡しとして、高校までとちがった方法で確率・統計の考え方を振り返る。

講義で培った素養を何に生かすかは受講者次第である。SPI 適性検査・公務員試験などでは、数列・集合・論理の素養を要求しているようである。本講義は、これらの受験講座ではない。しかし、このような試験の数的推理・判断推理の分野に役立てるのも一つの活かし方になる。何かに役立てるために学習するのではなく、数学の発想を楽しむ自由もある。人文・社会系の多くの受講者にとって、本講義が学校教育で受ける最後の数学になる。数学を活かす仕事に従事しないのであれば、今しか数学を学習する機会はない。だからこそ履修するという発想もある。数学は日常生活から生まれてきたのだから、本来は人と親しくなる性格を持っている。数学の意外な姿を見つけてみませんか？

到達目標

1. 数と図形に対するイメージが思い浮かぶような感覚を培う。
公式を暗記してあてはめるという習慣から脱却する。
問題の意味、解法の説明を図解するプレゼンテーション技術を身につける。
 2. 型通りに式を扱うのではなく、計算を工夫する力を伸ばす。
数学の文法を身につけ、日本語と同じレベルで表現手段として、式を読解したり、式でいい表したりすることができるようにする。
 3. 統計データの見方を身につけて、数学の立場で社会現象のしくみを理解する力を伸ばす。
数値に潜む意味を読み取る目を養う。
 4. 論理の組み立て方を正しく理解する。
あいまいな言語に陥らないような表現力を身につける。
 5. 思考パズルを通じて、柔軟な思考力、洞察力を伸ばす。
 6. 答案・レポートを通じて、書類作成能力（数学以外でも重要）を高める。
書式、表現法などのプレゼンテーション技術も本科目で身につける。
- これらの観点から、目安として SPI 適性検査、公務員試験等と同程度以上の基礎力を養うことをめざす。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	第1回 数学的発想 生活の中のどこに数学が現れるか？	
	【予習】 シラバスを熟読する。 【復習】 配布資料の演習問題を解く。	60
第2回	第2回 大きな数の扱い方（クレジットカードの返済、指数・対数の使い方） 演算規則の決め方 負の数を含む割り算の商と余りを求めるには？	
	【予習】 国語辞典等で接頭辞を調べる。 クレジットカード等の利子計算のしくみを調べる。 【復習】 講義ノートを確認に理解した上で、配布資料の演習問題を解く。	60
第3回	第3回 身のまわりの数理モデル（ハノイの塔、ウサギの繁殖）	
	【予習】 高校で数列を学習した経験の有無に関係なく、生活の中で数列を使う実例を考える。 【復習】 講義ノートを確認に理解した上で、配布資料の演習問題を解く。	60

第4回	第4回 連立方程式の解き方 (その1) あなたがコンピュータになったつもりで解くには? (その2) 解を分数で簡単に表すことができるのはほんとうか?	
	【予習】0を含む割算の商の考え方を確認する。 【復習】講義ノートを確認し理解した上で、配布資料の演習問題を解く。	60
第5回	第5回 数を行列の形に並べる発想 (その1) 魔方陣、パスカルの三角形に潜む神秘性	
	【予習】多項式の意味と扱い方を確認する。 (a+b)の4乗以上の展開の方法を考える。 【復習】講義ノートを確認し理解した上で、配布資料の演習問題を解く。	60
第6回	第6回 ポーランド記法 括弧をまったく使わないで式を書けるか?	
	【予習】数式と言語との間で、語順、修飾関係などの共通点を考える。 【復習】講義ノートを確認し理解した上で、配布資料の演習問題を解く。	60
第7回	第7回 確率の発想 デタラメの中にある規則性とは? ペイズの法則(紅白玉問題・タクシー問題)、円周率の推定	
	【予習】コイン投げで、10回投げたら必ず5回おもてが出るといえるかどうかを確かめ、確率1/2の意味を考える。降水確率、打率等の意味も確認する。 第5回のパスカルの三角形の使い方を復習する。 【復習】講義ノートを確認し理解した上で、配布資料の演習問題を解く。	60
第8回	第8回 数値データの見方 平均だけで分布の特徴を判断できるか? 偏差値はほんとうに実質的な成績を反映するか? 統計は集合の特徴を表す概念と考え、「集合と論理」への橋渡しとする。	
	【予習】配布資料に基づいて、期待値、標準偏差の意味を確認する。 【復習】講義ノートを確認し理解した上で、配布資料の演習問題を解く。	60
第9回	第9回 集合と要素との関係(要素の数え方のトレーニング) まっすぐの思考とまわりくさい思考とは? ものの集まりはすべて「集合」といえるのか? 奇数と自然数とはどちらが多い?	
	【予習】数学では、どのような場合に集合の概念を考えたら確認する。もの数え方の意味(男子学生の人数から女子学生の人数を引けるか)を考える。わかったつもりになっていなかったどうかを自問する。 【復習】講義ノートを確認し理解した上で、配布資料の演習問題を解く。	60
第10回	第10回 演算の意味と集合の発想 引き算の意味をいくつ知っているか? 論理クイズ(これから論理の問題に入るための準備) 命題の意味:「あなたは優等生である」という文は命題といえるか?	

	<p>【予習】減法を使う例題を考える。ただし、「引く」意味の異なる例を挙げる。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で、配布資料の演習問題を解く。</p>	60
第11回	<p>第11回 命題演算 (その1) 「かつ」「または」が真になるのはどんな場合？ (その2) 「山と海とのどちらか一方に行かない」の否定はどんな意味？ (その3) 「雨天ならば旅行を中止する」とはどんな意味？</p>	
	<p>【予習】「雨天ならば体育祭を延期する」というのは、雨天でない場合は必ず実施するという意味になるのかどうかを考える。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で、配布資料の演習問題を解く。</p>	60
第12回	<p>(その4) 「イヌは四つ足である」はいつでも真か？ (その5) 命題の立場で不等式を見直してみよう (その6) 逆・裏・対偶 (その7) 「すべて」と「ある」との意味をはっきりさせよう</p>	
	<p>【予習】「イヌは四つ足である」という命題は、どういう状況で正しいといえるのかどうかを考える。手がかりは前回の講義で示唆する。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で、配布資料の演習問題を解く。</p>	60
第13回	<p>第13回 推論 アリバイの原理とは？ 判断・推理の少しむずかしい問題に挑戦してみよう</p>	
	<p>【予習】前回の講義で出題する問題を考える。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で、配布資料の演習問題を解く。</p>	60
第14回	<p>第14回 数学パズル (柔軟な思考力のトレーニング) あなたは暗号を解読できるか？ 楽譜はグラフの一種？</p>	
	<p>【予習】前回の講義で出題する問題を考える。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で、配布資料の演習問題を解く。</p>	60
第15回	<p>第15回 まとめ 社会と数学との密接な関係、数学の発想による脳のトレーニング 履修後も数学と長くつき合うために</p>	
	<p>【予習】初回の講義に戻って、数学が数学以外の分野で活用されている例を挙げる。たとえば、音楽、美術、スポーツに見つからないかどうかを確かめる。 【復習】講義ノートを確実に理解した上で、配布資料の演習問題を解く。</p>	60
授業の方法		

- 初回を単なるガイダンスと誤解しないこと。放送大学・NHK教育テレビ等を見るとわかるように、初回からテーマを決めて講義を進行することは不思議ではない。
- 1回あたり一つのトピックスを取り上げる。前回のトピックスが今回のトピックスに連鎖するように、ストーリーを組み立てながら進め、数学の各項目は本質が密接に関連し合っている事情を示す。受講生の理解度・疑問点などを確認しながら進行するため、シラバスに記載した各回の内容を変更することがある。
- 板書・配布資料による講義と演習とを行う。
- 本講義は SPI・公務員試験の受験講座ではない。しかし、内容と水準の観点から、これらの試験の数的処理・判断推理の分野に対応できる基礎学力が養えると期待する。
- 受講生の理解度を配慮して進度を調整するため、必ずしもシラバスどおりに進むとは限らない場合もある。
- 中学・高校数学の単なるくり返しを期待している学生、公式を暗記して正解を求めれば良かったことになると思込んでいる学生には、まったく向かない。
- 数学は積み上げ式に理解していくという性格がある。受講を中断すると、筋道を見失うので注意する。

成績評価の方法

定期試験 80%・毎回の確認問題 20%

ただし、定期試験の採点后、難易度を判断した上で、評価割合を $\pm 10\%$ 程度の範囲で変更することがある。

確認問題は、必ずしも正解であることを要求しているわけではなく、どのような発想で考えたかという過程を重視する。

単なる式の羅列ではなく、第三者に内容が正しく伝わるように表現する作文・図解の技法を評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

単に、正解に達するだけでなく、プレゼンテーション技術としての日本語作文能力（数学の書式を含む）、図解の技法が身につけていること。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識を期待していない。高校までの先入観に固執しない柔軟な発想で受講することがのがぞましい。

テキスト

プリント配布

問題の見方、考え方、説明の方法は人によってちがうので、講義に沿った補助教材を作成している。

毎回の講義の確認問題を提出する際に、配布資料を熟読する。

参考書

木下是雄：『レポートの組み立て方』（筑摩書房，1994）。

篠田義明：『コミュニケーション技術』（中央公論社，1986）。

質問・相談方法等（オフィス・アワー）

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	科学的に考える（文系のための科学実験）		
教員名	浅野 雅子、伊藤 郁夫		
科目ナンバー	1201473060	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

例年、授業の冒頭で「科学（理科）は好きですか？」と聞くと、「小学生までは理科は好きだった」という答えが多くかえってくる。中学や高校で、暗記しなければいけないことや計算問題がなかったならもっと理科が好きになれたのに、と思う人も少なからずいることだろう。この授業では日常生活の中での見慣れた現象をとりあげて、自ら実験や工作することを中心に進めるので、科学をより身近なものとして感じることができるようになるはずだ。中学や高校の理科をやり直してみたい、科学に興味はあるがいつも話ばかりで飽き足らない、子供の時のように実験でわくわくするような感覚を味わってみたい、など、いろいろな動機での受講が可能である。

到達目標

DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。

① 身の回りの現象を題材にして、自らの手で実験をし、確かめることで、科学に対して積極的に向き合う姿勢を醸成する。

② 実験結果を整理した上で、自分の視点にもとづいて人に伝えることができる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	【ガイダンス】授業の概要と到達目標を確認し、テーブル上でできる簡単な実験を体験して、授業の進め方を説明する。予習・復習の仕方などについても確認する。	
	【予習】シラバスを読み、教室の確認とポータルサイトへのアクセス環境を確認しておく。 【復習】授業時に行った実験内容を、自分で再現して他の人に見せられるくらいにしておく。	60
第2回	【虹の解体】ガラスビーズで虹をつくる。詩人キーツが言及した虹の解体について君の意見は賛成か反対か。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。	60
第3回	【サングラスを通して見える世界】偏光サングラスを通して見える景色を観察する。スマホの画面も普段と違って見えるかもしれない。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業で配布された偏光シートを通していろいろな景色を観察し、普段と違って見えるものがないか調べてみる。	60

第4回	【光を分ける】回折格子を使った分光計を製作し、それを通していろいろな光源からの光を観察する。遠く離れた天体のことも光を分けることでわかるとしたらすごいことだ。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】製作した分光計でいろいろな光源からの光を観察し、その結果も含めてレポートを作成する。	90
第5回	【楽器の科学】試験管に水を入れた笛、ギターを弾いて音の高さを調べる。弦楽器や管楽器では音階は何によって決まるだろうか。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。	60
第6回	【音を科学する】音源からの音の波形をパネルに映し出し、その形と音色の関係を調べる。自然の音源とデジタル音源の違いは何だろうか。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。	60
第7回	【キャンディを噛んで稲妻】静電気がよく知られた様々な実験を自分で実演する。蛍光管が静電気で光るとするのは本当だろうか。ましてキャンディは？	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】授業で配布したキャンディを他の人の前で光らせて確認してもらおう。なぜ光るのかを説明して納得してもらおう。	60
第8回	【LEDで省エネ】豆電球とLEDを乾電池で点灯させる。LED照明が省エネルギーと言える理由はどのようなところにあるのだろうか。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。	60
第9回	【電池を作ってオルゴールを鳴らす】身近な材料を使って電池をつくる。はたして、電子オルゴールを鳴らすことができるだろうか。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】いろいろな材料の電池を自分で作り、その動作結果もあわせてレポートを作成する。	90

第10回	【電気と磁気は切っても切れない】手回し発電機で電気を起こす。モーターを製作し、回してみることで、電気と磁気の働きを実感する。モーターが回れば大成功だ。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。	60
第11回	【放射線をつかまえる】いろいろな放射線の検出装置を使って自然放射線の存在を確認する。放射線は「正しく怖がる」ことが大切である。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。	60
第12回	【環境にある放射線】ポータブルのガンマ線検出器を持って学園内の環境放射線量を測定し、マップをつくる。46億年前に地球ができたときに由来する放射線を確認して、宇宙の歴史について思いを馳せてみよう。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】自分の住んでいる自治体で公表されている環境放射線量もふまえて、測定結果をまとめた上でレポートを作成する。	90
第13回	【コーヒーが冷めない工夫】紙コップに注いだコーヒーはどのくらいで冷めるのか、マグボトルはどのくらい保温能力があるかを調べる。地球温暖化とは何を意味するのだろうか。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。	60
第14回	【凍らない水】試験管の水を過冷却にし、これを振って目の前で一瞬のうちに氷になる現象を確かめる。凍るという現象に潜む自然の姿を実感しよう。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。 【復習】ペットボトルに水を入れて、冷凍庫で過冷却になるまで冷やし、それを器にあけて解放される現象を観察する。	60
第15回	【過冷却湖畔のかすかな光】宮沢賢治が好んで観察したと言われる実験を再現する。賢治の詩の一節にある「過冷却湖畔」の光を確かめることができるだろうか。	
	【予習】ポータルサイトにアップされた資料を読んでおく。	60

授業の方法

- ・ 教員が実験して見せてくれる授業ではない。学生自らが協同しながら作業を行うことで進められる。
- ・ 授業内容に関連した資料を事前にポータルサイトへアップするので、授業時に行う実験内容の理解のためにも時間を取って目を通してのこと。
- ・ 4回目、9回目、12回目の実験については、それぞれ報告書を作成して期日（おおむね2週間後）までに提出する。

成績評価の方法

平常点（授業への参加）60%、提出物（実験報告書）40%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 科学的な現象に対して、積極的に取り組む姿勢が身についたか。
- ・ 実験内容を整理し、自分の視点もとりにこんで報告することができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識はとくに要しないが、新聞やウェブ、またテレビなどで科学関連のニュースや記事があったら、スキップしないで目を通すようにしよう。また、科学博物館へ足を運んだり、サイエンスチャンネルを視聴したりして、少しでも科学に触れる時間を作り、さらに授業で扱った実験を自宅で再現するなどして、積極的に取り組む姿勢を醸成してほしい。

テキスト

授業前にポータルにアップされる資料と、授業時に配布するプリント

参考書

授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	環境と科学（地球と環境）		
教員名	宋 苑瑞		
科目ナンバー	1301473070	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要	
<p>環境と科学のシリーズ科目の中で地球と環境に焦点を合わせた科目である。地球上で起きている様々な自然現象を説明し、私たちが直面している環境問題を取り上げる。</p>	

到達目標	
<p>DP1（学際的な分野の概念と思考方法を理解し人間社会の諸問題を多角的に把握し思考力を身につける）を実現するために、以下を到達目標とする。 地球の仕組みを理解し、地球上の自然現象と環境問題を理解する。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容 準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	日本の成り立ち 豊かな自然と災害	
	シラバスをよく読み、広義の内容と目標を理解しておく。	60
第2回	地震	
	キーワードをまとめる レポート①	60
第3回	火山	
	キーワードをまとめる	60

第4回	斜面と地すべり	
	キーワードをまとめる	60
第5回	河川と洪水	
	キーワードをまとめる	60
第6回	寒冷地・氷河	
	キーワードをまとめる	60
第7回	アントロポセン（人間による環境改変期）	
	キーワードをまとめる	60
第8回	気候変動・地球温暖化	
	キーワードをまとめる	60
第9回	大気汚染・水質汚染・土壌汚染	
	キーワードをまとめる	60

第10回	熱帯林の減少と砂漠化	
	キーワードをまとめる	60
第11回	人口増加と環境問題ー山火事	
	キーワードをまとめる	60
第12回	人口増加と環境問題ー水不足	
	キーワードをまとめる	60
第13回	都市化・ごみ処理問題	
	キーワードをまとめる	60
第14回	持続可能な開発	
	キーワードをまとめる	60
第15回	まとめ	
	レポート②	60

授業の方法

ツイッターを講義と連動して使用する。
授業の進捗によって内容を変更する場合がある。

成績評価の方法

以下の内容で成績を評価する。
・レポート：40 %
・期末試験：40 %
・平常点：20 %

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中・授業後
月9時～10時

科目名	環境と科学（生命と環境）		
教員名	池田 威秀		
科目ナンバー	1201473080	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

本講義では、生物がいかにして環境に適応してきたか、特に生物の体色に関する話題を中心に紹介する予定である。
 生物、物理等を履修していない学生も理解できるよう、前半は生物と進化、光と色などの基礎的な話題が中心となる。後半は主に生物の視覚や体色を例に、その適応的な意味について検討したい。なお、事情により内容を一部変更する場合がある。

到達目標

生命の進化と環境への適応について、特に視覚と体色の進化を中心に理解する。

- ①生命の進化、適応について理解する
- ②光、色の特性と環境を理解する
- ③生物の形質についての論理的考察ができる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・ 授業の内容、進め方について ・ レポートに関して	
	・ シラバスの確認と内容把握	30
第2回	進化と適応 (1) ・ 種とはなにか ・ ダーウィンの進化論	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第3回	進化と適応 (2) ・ ネオダーウィニズム ・ 様々な適応戦略 等	
	授業内キーワードの確認と復習	60

第4回	光と色 (1) ・光とはなにか ・色とはなにか 等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第5回	光と色 (2) ・どのように色を記述するか ・分光スペクトル 等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第6回	視覚 (1) ・複眼と単眼 ・物が見えるしくみ 等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第7回	視覚 (2) ・目と視物質の進化 等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第8回	体色と適応的意味 ・様々な体色と適応的意義 等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第9回	発色のメカニズム ・色素細胞とは ・チューリング・パターン 等	
	授業内キーワードの確認と復習	60

第10回	体色を考える (1) ・レポートの書き方 ・魚類の体色について 等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第11回	体色を考える (2) ・環境と体色 ・体色変化とメカニズム 等	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第12回	体色を考える (3) ・特殊な環境と色	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第13回	植物と色 ・花の色／実の色 ・受粉戦略と種子散布	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第14回	生活と色 ・生活における色	
	授業内キーワードの確認と復習	60
第15回	まとめ	
	授業内キーワードの確認と復習	60

授業の方法

基本的にはプロジェクターを用いた講義形式で行う。
講師の都合により止むを得ず休講となることがあるので、掲示等で随時確認をすること。

成績評価の方法

学期末に課すレポート（80%程度）を中心に評価する。その他、平常点（授業への参加状況等）も考慮する予定である（20%程度）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

特にレポート課題に関しては、

①適切な対象を選択し、その生態をよく理解しているか

②物理的、生物的環境を理解できているか

③上記をふまえた上での論理的な考察ができているか

を主な評価点とする

詳細に関してはガイダンスおよび授業内に発表する予定である

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必須ではないが、生物学、物理学等の基礎が理解できていることが望ましい。

テキスト

特に指定しないが、下記参考書の内容を中心に講義する予定である。

参考書

視覚とその進化に関しては、アンドリュー・パーカー『眼の誕生』、サイモン・インクス『見る』、色素に関しては梅鉢幸重『動物の色素』、藤井良三『色素細胞』、また生物の色に関しては日高敏隆『動物の体色』等。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

また、授業内にも質問を受け付ける時間を取りたい

科目名	物質の究極像		
教員名	和田 純夫		
科目ナンバー	1201477010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要
 物理嫌いでも構いません。「自然界の基本的な成り立ち」について、好奇心をもっている人に、誰にでもわかるレベルで説明します。新聞や雑誌の記事を取り上げ、背景にある学問を解説します。クォーク、ニュートリノ、重力波、相対性理論、プランク定数といった専門用語に少しでもなじみ、特にこの100年間に人類は自然の基本構造をどこまで明らかにしたのか、感じ取ってもらうための授業です。

到達目標
 科学者は自然界の根本法則に対してどのように取り組んでいるのかを知る。そしてその最先端の状況についてイメージをもち、ときにテレビや新聞・雑誌に登場する科学ニュースに、関心をもって接触できるようになる。

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
第1回	準備学修(予習・復習等)		
	ものの大きさと宇宙 地球のスケール、宇宙のスケール、光の速度、1メートルとは何か	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第2回	ミクロな世界 原子の発見、電子の発見、原子核とその内部構造、クォークの提案		
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60	
第3回	光の粒子 光子とは、光子の存在がわかる諸現象、プランク定数		
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60	

第4回	放射線と弱い相互作用の発見 ニュートリノ、ミュー粒子	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第5回	統一理論に向けて(1) 6種のクォーク、6種のレプトン	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第6回	統一理論に向けて(2) 最後の発見：ヒッグス粒子（質量の源）	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第7回	統一理論の今後の夢 ストリング理論、加速器の建設	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第8回	光速度の問題から相対性理論へ（アインシュタインの登場） 時間は遅れ、長さは縮む。質量エネルギーの発見	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第9回	特殊相対論から一般相対論へ 時空のゆがみ、時間の遅れ、	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60

第10回	膨張する宇宙と物質138億年の歴史 ビッグバン、元素の合成	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第11回	ブラックホールとは	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第12回	重力波 時空の波、重力波望遠鏡、100年かかった発見	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第13回	量子力学の新しい世界像 2スリット実験、粒子と波（粒子の位置は決まっていない）	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第14回	ポーア・アインシュタイン論争 多世界解釈(宇宙は一つではない・・・パラレル・ワールドの話)、量子コンピューター	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60
第15回	まとめ・復習	
	配布されたプリントを読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。	30~60

授業の方法

プリント、黒板、OHCを使った講義が中心。基本的に毎回、授業で説明したことについての質問に対する解答を提出する（小テストと呼びます）。授業を聞いていればすぐに答えられる程度の問題です。

成績評価の方法

合否は小テストの提出状況＋内容で決めます。いい成績を望む人には、簡単なレポートを提出してもらおう予定です。テーマはいくつか候補を提示します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

物質は原子からできているということ・・・ファインマン

テキスト

ありません。

参考書

橋本幸示 「宇宙のすべてを支配する数式をパパに習ってみた」 講談社
和田純夫 「現代物理の世界がわかる」、「宇宙創成から人類誕生までの自然史」 ベレ出版
和田純夫 「量子力学が語る世界像」 ブルーバックス
和田・大上・根本 「新・単位がわかると物理がわかる」 ベレ出版
他、授業で提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	人間と進化		
教員名	櫻木 晃彦		
科目ナンバー	1201477020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

この授業の内容は生物人類学、すなわち生物学的観点に立って人間を探求するものである。具体的には、生物としてのヒトの特徴を学ぶ。あらゆる自然科学の究極の目的は自分自身を知ることであろう。生物としての人間、すなわちヒトとはどのようなものを学ぶことによって、「自らを知ろう」という知的作業を体験する。

到達目標

生物としてのヒトの正確なイメージをもつこと。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1. 生物としてのヒトを概観する	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第2回	2. 生物とは何か	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第3回	3. 人体の概形を決める骨の形	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分

第4回	4. 人体の運動システム	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第5回	5. 人体のエネルギーシステム	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第6回	6. 人体の物流・調節システム	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第7回	7. 人体の防御システム	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第8回	8. 人体の情報システム	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第9回	9. ヒトの個体発生（1）受精・誕生・成長	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分

第10回	10. ヒトの個体発生（2）老化と死	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第11回	11. 進化とは何か	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第12回	12. 人類への進化	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第13回	13. ヒトは特別な生物か	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第14回	14. ヒトとしての自分自身を考える	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分
第15回	15. まとめと試験	
	教科書の関連すると判断できるところを熟読する。	60分

授業の方法

講義形式で行なう。ほぼ毎回プリントを配布し、コンピュータグラフィックス等の画像を駆使して視覚に訴え、わかりやすく解説する。

成績評価の方法

評価は筆記試験(95%)と課題(5%)による。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識/先修科目/関連科目

人体に興味があることを必要とする。高校で「生物」を履修している必要はない。

テキスト

『人体で学ぶ生物学』、桜木晃彦、てらぺいあ社、¥1,900、ISBN:978-4-88699-021-1

参考書

『ここまでわかった人類の起源と進化』、R. ルーウィン、てらぺいあ社、¥3200、ISBN:88699-013-4

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	天文学入門		
教員名	古荘 玲子、渡部 潤一		
科目ナンバー	1201477030	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

天文学は、私たち人類が自分たちを取り巻く世界を理解したいという知的好奇心から生まれた、最古の学問のひとつである。私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河までが、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概略を学ぶ。また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。

到達目標

1. 天文学が明らかにしてきた知見を、時間的・空間的なスケールと絡めて包括的に理解する
2. 地球や私たちの文明のあり方を、宇宙における存在として捉えなおす

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス／宇宙観の変遷 ・本講義の進め方や評価基準について説明する。 ・天文学の始まりと研究の流れについて解説する。	
	【予習】 シラバスや参考書を読み、予め講義内容を把握する。 【復習】 講義の進め方や評価基準を確認し、配布プリントを復習する。	30 60
第2回	基礎知識 1 ・時間と空間、暦の成立と変遷、天体のスケールについて解説し、学修する。	
	時間と空間の概念、暦の成立と変遷、天体のスケールについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第3回	基礎知識 2 ・観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて解説し、学修する。	
	観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90

第4回	地球 ・地球の誕生、歴史について解説し、学修する。	
	地球の誕生と進化の歴史について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第5回	太陽系 1 ・太陽系の概念の変遷と惑星とは何かについて解説し、学修する。	
	太陽系の概念の変遷、特に惑星の定義について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第6回	太陽系 2 ・個々の惑星の性質、特徴、種別などについて解説し、学修する。	
	個々の惑星の性質、特徴、種別などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第7回	太陽系 3 ・太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について解説し、学修する。	
	太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第8回	太陽 ・恒星としての太陽、太陽の物理について解説し、学修する。	
	太陽の物理について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第9回	恒星 1 ・恒星とは何か、および恒星分類について解説し、学修する。	
	恒星とは何か、および恒星分類についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90

第10回	恒星 2 ・ 恒星の進化と輪廻、物質循環に果たす役割について解説し、学修する。	
	恒星の進化と輪廻、物質循環に果たす役割についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第11回	銀河系 ・ 天の川銀河の性質、構造、および進化について解説し、学修する。	
	天の川銀河の性質、構造、および進化についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第12回	銀河 ・ 銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造について解説し、学修する。	
	銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第13回	宇宙論 ・ 宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論について解説し、学修する。	
	宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論についてプリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第14回	宇宙と生命 ・ 宇宙における生命の可能性や生命探査、さらに系外惑星について解説し、学修する。	
	宇宙における生命の可能性や生命探査、系外惑星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。	90
第15回	到達度確認テスト ・ これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを実施する。	
	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	120

授業の方法

教室での講義を主体とする。授業時に各回のトピックに関するプリントを配布する。普段から、ノートやプリントを使って復習に力を入れること。最終授業で到達度確認テストを行い、授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

成績評価の方法

授業最後に実施する到達度確認テストの成績を主とするが（70%）、講義への出席状況（30%）を加味する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ① 天文学が明らかにしてきた基本的な知見を、論理的に正しく説明できる。
- ② ①について、さらに時間的・空間的なスケールと絡めて解説できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校程度の数学的な基礎知識があることを前提とする。

テキスト

なし（必要に応じてプリントを配布します）

参考書

「面白いほど宇宙がわかる15の言葉」 渡部潤一著、小学館101新書
「宇宙科学入門 - 第2版 - 」 尾崎洋二著、東京大学出版会

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	薬はなぜ効くか		
教員名	武田 収功		
科目ナンバー	1201477040	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

<概要> 「薬はなぜ効くか」を考えたとき、その対象は常に生体である。生体は主に有機化合物で構成されており、薬もまたその多くは有機化合物としての化学構造を持っている。それゆえ生体と薬との相互作用、すなわち分子どうしの化学反応によってその効果が発現される。「薬が効く」と言うことはまさにこの化学反応を理解することである。薬（医薬品）は病気の治療、予防、そして診断に用いられ、人類の健康の維持に無くてはならないものである。ここ数年、日本人によるノーベル医学・生理学賞が相次いでいる。再生医療を実現するために重要な役割を果たす新しい多能性幹細胞や新規な抗生物質の発見、自己細胞の不要なプロテインや細胞小器官をリサイクルするオートファジー、またがん細胞を攻撃する免疫細胞にブレーキをかけるタンパク質「PD-1」の発見など多岐にわたる医療分野や薬が開発され、薬の作用も多様化している。薬の効果は治療面に大いに発揮されるが、薬の持つ副作用も大きく無視できない。副作用の疑いが持たれた抗インフルエンザウイルス薬のタミフルに代わり2018.3月に発売されたゾフルーザは今やインフルエンザ治療の60%以上を占める全く新しい作用機序を持つ薬である。もちろん、PD-1などと共に抗ガン剤も次々と開発されている。しかしガン細胞にも薬に対する耐性が発生していることも理解しておかねばならない。このような薬についての様々な事柄について、薬にかかわる分野が化学、生物学、物理学、医学、化学工学、経済学、また倫理学などの総合科学であることを認識しながら、その本質を多様な観点から考察し、理解する。

<テーマ> 「薬はなぜ効くか」の理解は、より優れた新薬の開発、耐性の克服、副作用の軽減、正しい薬の使い方などのために必要である。近年、発見の目覚ましい受容体と薬の相互作用などをはじめ、薬の種類、作用機序（薬はなぜ効くか）、薬剤耐性（薬はなぜ効かなくなるか）、薬による副作用、遺伝子治療など、最近発見された受容体と新薬の相互作用も含め、「薬」全般について講義する。その他、アレルギーなどの慢性疾患に効果が認められる漢方薬について概説し、更に覚せい剤、モルヒネ、大麻などを違法に使用する「薬物乱用」についてもその危険性などについて講義する。できるだけ化学構造式や反応式などを使わず、図案化したモデルを用い、わかりやすい、しかしサイエンスに基づいた内容とする。

到達目標

受講生が薬について正しい知識を取得し、薬の全体像を理解し説明できる。また、それが自分自身や家族はもとより、社会全体に対してこれからの健康的なまた、保健衛生上の生活の一助となることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	講義全体の概説及び薬（医薬品）とは何かについて ・薬の定義などについて学修する。	
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 テクニカルタームの理解をする。	30 60
第2回	薬の発展の歴史（人類と様々な疾病との闘い） ・ヒポクラテス、錬金術からゲノム新薬へ。人類はどのように薬を開発し利用してきたかを学修する。	
	【予習】 図書館、インターネットなどで、薬の発展の経緯を調べておく。 【復習】 進化の過程を理解する。伝統薬などを知る。	30 60
第3回	薬の形と性質・薬の作用を受ける身体の仕組み ・臓器、神経、ホルモン、酵素、DNA・・・などの働きとその理解。	
	【予習】 高校の生物、化学の教科書をあらかじめ読んでおく。 【復習】 個々の用語が説明できる。	60 60

第4回	薬の種類（サルファ剤、抗生物質などの抗菌剤） ・病原細菌の種類と薬の作用機序を学修する。 ・前回までの確認小テスト。	
	【予習】 シラバス内容にある単語を調べておく。 【復習】 効くメカニズムを理解し、説明できるようにする。	30 60
第5回	薬の種類（抗ガン剤、抗高血圧薬、抗高脂血症薬などの抗生活習慣病薬） ・抗がん剤の種類と効き方の違いについて学修する。	
	【予習】 がんとは何か、イメージしておく。 【復習】 3人に1人はがんになる現代、自分の生活習慣や遺伝などと考え合わせ、理解を深める。	60 60
第6回	薬の種類（解熱鎮痛薬、抗精神病薬など） ・風邪薬について ・情動作用と大脳辺縁系など、こころと脳をつなぐ薬について学修する。	
	【予習】 新聞などでインフルエンザやうつ病について読んでおく。 【復習】 学んだことを実生活で生かせるように具体的な薬名を覚える。	60 60
第7回	薬の種類（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬など） ・免疫とアレルギー。身近な疾患と市販薬なども含め薬の種類を学修する。	
	【予習】 アレルギー性鼻炎や蕁麻疹など身近な疾病について調べておく。 【復習】 対症法について理解を深める。	30 60
第8回	薬の種類（ビタミン剤、ホルモン剤など） ・栄養とビタミン ・少量でびりりと効く ・特徴的な化学構造などモデルを使い学修する。 ・ここまでの確認小テスト。	
	【予習】 医薬品では、新聞やテレビコマーシャルなどで知れる知識とは異なることをあらかじめ理解しておく。 【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。	30 60
第9回	薬はなぜ効くか（作用機序） ・受容体 ・ファーマコフォア ・薬と受容体のCGによるドッキングシミュレーションを視覚で体験することで、生体と薬が化学反応していることを学ぶ。	
	【予習】 この講義の本質的などころなので、図書館やインターネットでキーワードを確認しておく。 【復習】 テクニカルタームの理解と作用機序を科学の言葉で説明できる。なぜ効くのか、分子レベルの理解。	60 60

第10回	薬はなぜ効かなくなるか（薬剤耐性） この回はなぜ効くかと同様に本質的な理解が必要 ・薬剤耐性と遺伝子について学修する。 ・抗ガン剤排出ポンプの作用	
	【予習】 キーワードを調べておく。 【復習】 テクニカルタームの理解。 なぜ効かなくなるのか、遺伝子レベルの理解。	30 60
第11回	薬の副作用（ほとんどの薬は副作用を持つ。様々なケースとそれらの原因、予防など） ・薬はさじ加減、毒物としての作用も含め学修する。	
	【予習】 キーワードを調べておく。 【復習】 テクニカルタームの理解。	30 60
第12回	違法薬物（薬物乱用に用いられる違法薬物の種類と身体に及ぼす悪影響など） ・麻薬、覚せい剤、大麻、コカイン・・・などなど。 ・薬物乱用について学修する。	
	【予習】 キーワードについてあらかじめ調べておく。 【復習】 違法薬物についての知識を理解する。	30 60
第13回	薬用植物と漢方薬・健康食品などについて ・生薬 ・栄養機能食品、特定保健用食品など。 ・補完代替医療について学修する。	
	【予習】 シラバスの内容を調べておくこと。 【復習】 生薬・漢方薬は種類が多いので整理して理解する。	30 60
第14回	これからの薬・医療（新しいアイデアから得られた薬や遺伝子療法などについて） ・分子生物学、薬物動態学、コンピュータによるドラッグデザインなどが新薬を創る。 ・創薬について学修する。	
	【予習】 人類にとってどんな薬が必要か考える。 【復習】 新しい薬の未来と医の倫理について考え理解する。	30 60
第15回	全体のまとめ ・薬の未来。 ・講義全体のレポート提出。	
	【復習】 健康と薬を生活の中で深く考え理解する。	60 60

授業の方法

パワーポイントによる講義形式および分子模型などを使用し薬と生体との相互作用が三次元であることを理解させる。毎回小テスト（12回）、学期末に試験またはレポート提出を実施する。対話形式をとりながら可能な限り受講生との双方向性を高めるよう工夫する。毎回講義内容を配布し復習の手助けとする。テクニカルタームの習得が講義の理解を深める。したがって小テストはテクニカルタームを出題することがある。

成績評価の方法

学期末試験またはレポート、小テストの成績、出席を加味して評価する。

評価方法は

学期末試験またはレポート（40%）、12回の小テスト（30%）、出席（15回）（30%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日常的に新聞、テレビ、インターネット、雑誌などから薬・医療に関する情報を摂取するように努めると、講義内容が理解しやすい。

テキスト

「特になし」

参考書

特に定めないが、毎回講義内容の印刷物を配布する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	身の回りの科学		
教員名	多田 司		
科目ナンバー	1401477050	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要

この講義では、科学について学ぶ機会の少ない文系学部の学生を主な対象として、サイエンスのエッセンスを伝えることを目指します。そのため日常的な意味でも使われ馴染みのある「エネルギー」という言葉をキーワードに、身の回りの現象を解説していきます。そもそも「エネルギー」は物理学において定式化されている概念ですが、自然現象は、エネルギーの流れを見ていくことにより、質的にも量的にも深く理解することができます。エネルギーを正しく学ぶことを通して、自然現象への理解を深めることがこの講義の目的です。講義では様々な現象を取り上げ解説する予定ですが、単に雑学的な理解にとどまらず、エネルギーというキーワードを通じて一貫した流れがあることを感じて貰います。これは自然界の法則の普遍性を理解することにつながります。そのために身近な現象を主に取り上げながらも、太陽系における地球に関することや宇宙の成り立ちについても話題にする予定です。また授業中に質問して貰えば、各自が不思議に思っている現象についても取り上げたいと考えています。

到達目標

身の回りの出来事から宇宙全体に至るまでの自然現象は、共通する法則に支配されていることを理解する。そしてそれらの現象はエネルギーを始めとする物理量によって、量的に把握可能であることを実感する。これによって科学的な自然観を涵養する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション エネルギーと様々な単位について解説します。	
	シラバスを読み、講義計画を確認すること。	60
第2回	力とエネルギー 力学の法則とエネルギーの定義について理解を深めます。	
	前回までの講義内容の確認	60
第3回	エネルギーと熱 熱や温度とエネルギーの関係を理解します。	
	前回までの講義内容の確認	60

第4回	電気とエネルギー 電気が関係する身近な現象でのエネルギーを理解します。	
	前回までの講義内容の確認	60
第5回	波のエネルギー 波は水面の波以外にも身近に幅広く見られる現象です。波をエネルギーを通して理解します。	
	前回までの講義内容の確認	60
第6回	光と電磁波のエネルギー 普段の生活に溢れている光と電波について、学びます。	
	前回までの講義内容の確認	60
第7回	ミクロの世界のエネルギー 物質の元になっている原子や電子といった目に見えないミクロの世界のエネルギーを理解します。	
	前回までの講義内容の確認	60
第8回	半導体とエネルギー 携帯電話はパソコンにも使われている半導体にかかわるエネルギーを見ていきます。	
	前回までの講義内容の確認	60
第9回	エネルギーと化学反応 身の回りで起こる化学反応にエネルギーが深く関わっていることを理解します。	
	前回までの講義内容の確認	60

第10回	生命現象におけるエネルギー 私達自身を含めて生命活動に必要なエネルギーの道筋を見ていきます。	
	前回までの講義内容の確認	60
第11回	相対性理論とエネルギー 相対性理論ではエネルギーはどう扱われるのか、アインシュタインの有名な式を中心に解説します。	
	前回までの講義内容の確認	60
第12回	放射能とエネルギー 身の回りにもある放射性物質と放射線にかかわるエネルギーを理解します。	
	前回までの講義内容の確認	60
第13回	太陽系とエネルギー 地球上のエネルギーの源になっている太陽、そして太陽を取り巻く惑星に係るエネルギーを見ていきます。	
	前回までの講義内容の確認	60
第14回	宇宙の成り立ちとエネルギー そもそもエネルギーはどこから来たのか、その源を宇宙に求めます。	
	前回までの講義内容の確認	60
第15回	まとめ これまでの授業を総括します。	
	前回までの講義内容の確認	60

授業の方法

必要に応じてプリントを配布しての講義。

成績評価の方法

毎回の講義中に出題するレポートの評価に平常点を加味する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

必要な場合はプリントして配布

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。 また電子メールでも受け付ける。

科目名	科学と哲学		
教員名	瀬戸 一夫		
科目ナンバー	1201477070	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要	
<p>現代の科学と科学技術は、専門細分化が高度に進み、全貌を捉えることが難しくなっている。このような状況のもとで、人間社会に対して科学がどのような役割を果たすべきであるのかを考える機会はどうしても少なくなりがちである。この授業では「科学」が歴史のなかで果たしてきた役割とその哲学的な意義について検討する。</p>	

到達目標	
<p>知識の客観性をめぐる真相その他、科学に関する諸問題を、自ら哲学的に捉え直せるようになる(DP1)。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容と進め方の概説	
	(予習)シラバスを読み、授業内容の概要をイメージしておく。 (復習)授業内容のイメージを修正し、自分に必要な予習の計画づくりをする。	60
第2回	自然科学の考え方と方法	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60
第3回	科学の客観性の哲学的基礎	
	(予習)前回までの授業内容を確認しておく。	60

第4回	自然観の諸類型と科学の歴史	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第5回	ガリレオの課題	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第6回	コペルニクス革命の様々な解釈	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第7回	コペルニクス革命の謎	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第8回	宗教と科学の関係	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第9回	科学の源流と神話	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60

第10回	古代の自然研究	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第11回	科学的な説明の原型	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第12回	説明原理の役割	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第13回	古代の宇宙論	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第14回	宇宙進化論の原型	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60
第15回	客観性の真相	
	(予習) 前回までの授業内容を確認しておく。	60

授業の方法

解説講義を中心とする。なお、授業の進捗によって、第2回～第14回の項目を入れ替える、あるいは変更する場合がある。

成績評価の方法

各学生について、50パーセントは学期末試験の点数により、残る50パーセントは受講態度と小テストの成績により総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

特に以下のことを重視して評価する。

- ・哲学の基本用語が正しく使えるようになったか。
- ・科学の問題を、哲学的な観点から捉え、考えられるようになったか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

なし。

テキスト

特に指定しない。

参考書

瀬戸一夫著『コペルニクスの転回の哲学』（勁草書房）3，500円

瀬戸一夫著『知識と時間』（勁草書房）2，600円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	環境論		
教員名	齊藤 喬士		
科目ナンバー	1301477080	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

テーマ 生物と環境との相互関係を生物進化を通して考える。

概要 生命は個体維持と生殖の二本柱でできている。この二本柱は環境との関係でバランスを保っている。環境の変化が生物の二本柱に与える影響を生物進化という観点でとらえ、個体維持の多様な変化を環境の変化と同時に考えていく。

目標 環境について、生物の進化という切り口で学び、生物の形態的、生理的、生化学的変化を理解する。それらを通して生物と環境との関係を自分の価値観でとらえられるようになることを目的とする。

到達目標

新たに得た知識を用いて自分の考えや意見をまとめることが大切です。だから、各時間の内容に沿った課題を文章でまとめることで、自分の考えを整理し、その考えの根拠を明確にすることができるようになる。この積み重ねが生物進化と環境の相互関係の理解を深めるだけでなく、「環境」をより身近な問題としてとらえ、問題解決に対して自分の意見が持てるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	<p>全体の流れと生命と進化、生態系、環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> * 地球上には多種多様な生物が生きているが、現生生物には、細胞の基本構造、生体の営む化学反応、生体における遺伝情報の流れ、遺伝暗号、タンパク質を構成するアミノ酸の立体構造、生体における直接的なエネルギー源など、多くの点で共通性が認められ、現生生物は同一祖先に由来すると考えられていることを概観し学修する。 <p>(予習) 参考文献の中の生命、生態系についての項目を読んでおくこと。</p> <p>(復習) 課題問題を中心に、講義内容に沿ってテキストを読み返し、生命について理解を深める。</p>	60
第2回	<p>原始地球環境と生命の起源とRNA</p> <ul style="list-style-type: none"> * 地球最古の細胞の化石 * 生命の起源、初期進化研究法 * 動的平衡について * RNAワールド * 化学進化に関連した残された問題点や物質から 生命の誕生について学び、考える。 <p>(予習) 原始地球環境や生命の起源とRNAワールドについての内容は参考図書を読んで準備する。</p> <p>(復習) 課題問題と講義内容についてテキストを読み返しながらか理解を深め、自分の言葉でまとめてみる。</p>	60
第3回	<p>極限環境での生物の生存戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> * 進化についての基本的理解を深める * 膜輸送の基本である膜存在タンパク質について 学ぶ * 生物が持つ酸性、アルカリ性、圧力、放射線、熱 などに対する耐性の仕組みを理解し、極限環境での生存戦略を学ぶ。 <p>(予習) 極限の環境下で生存している生き物にはどんなものがあるのかなどを参考図書を読んで準備する。</p> <p>(復習) 課題問題と細胞膜の働きや極限状態での生命現象についてテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉でまとめてみる。</p>	90

第4回	細胞の出現	
	<p>* 生命というシステムの誕生は細胞の誕生でもある。細胞の内部では、生物にとってさまざまな反応が行われている。そこで細胞の起源、構造、機能などを学び、細胞内の環境が整えられてはじめて生命活動が起こることを学修する。</p> <p>(予習) 細胞の構造の名称や働きについて参考図書を読んで準備する。</p> <p>(復習) 細胞内部での生命活動を中心にテキストを読み返して理解を深め、課題問題を含め自分の言葉で説明できるようにする。</p>	90
第5回	酸素と生物	
	<p>* 原始生命が出現してからもしばらくは原始大気が維持されていたが、あるときから大気中の酸素濃度が上昇した。酸素濃度上昇を境に、地球環境と生物相が一変した。これらの経過と無気呼吸、酸素呼吸の違いを学修する。</p> <p>(予習) 原始大気に変化する過程を参考図書を読んで準備する。</p> <p>(復習) 課題問題と酸素呼吸についてテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉でまとめる。</p>	90
第6回	真核細胞の出現	
	<p>* 原核生物の機能の改善や多様化による進化というより、異なるタイプの原核生物を組み合わせることで真核生物を創出した共生という営みの意味を考え、進化史上重要な転換点を学修する。</p> <p>(予習) 原核細胞と真核細胞の違いについて参考図書を読んで理解しておく。</p> <p>(復習) 課題問題と真核細胞における生命現象についてテキストを読み返し、理解を深め、自分の言葉でまとめる。</p>	90
第7回	多細胞生物の出現	
	<p>* 生物の大型化と複雑化は、細胞自身の大型化、複雑化より細胞数の増加とそれらの組織化によってもたらされ、多細胞化は内部環境と形態の多様化を出現させた。生物の大型化、複雑化と進化について学修する。</p> <p>(予習) 多細胞生物における組織化について参考図書を読んで準備する。</p> <p>(復習) 課題問題と生物の大型化、複雑化と進化についてテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉でまとめる。</p>	90
第8回	水と生命	
	<p>* 細胞はすべて水溶液に浸っており、生体反応は全て水溶液中での反応であり、吸収、排泄、分泌、拡散など水の存在下で行われている。水の特異性と地球上の水資源について考え、生命と水について学修する。</p> <p>(予習) 地球上における水の存在について参考図書を読んでおくこと。</p> <p>(復習) テキストを読み返して、課題問題と生命活動にとって水の存在の重要性を理解し学修する。</p>	60~120
第9回	寄生：異種生物という環境における生存戦略	
	<p>* 敵対関係にある寄生者と宿主の間には、だまし、あやつり、ねじふせ、妥協し、ときには協力するといった興味深い駆け引きや巧妙な生存戦略がみられる。同じ空間を共有する寄生者と宿主生物の生存戦略を学修する。</p> <p>(予習) 寄生者と宿主についてあらかじめ参考図書を読んで準備しておく。</p> <p>(復習) 寄生者と宿主生物との間で行われる生存戦略をテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉で説明する。</p>	60~120

第10回	内部共生と進化	
	<p>* 密接な生物間相互作用のもとに成り立つ内部共生とそれにもなう相互依存関係の発展について多様な実例、動物と腸内細菌、発光魚と発光バクテリア、などを学び、生物進化における内部共生の重要性を学修する。</p> <p>(予習) 内部共生にどのようなものがあるかを参考図書を読んで準備しておく。</p> <p>(復習) 内部共生という相互依存関係についてテキストを読み返して理解を深め、生物進化との関連を考える。</p>	60~120
第11回	遺伝子と環境	
	<p>* 遺伝子の構造と機能を学び、細胞内外の様々な環境変異原がもたらす莫大な量のDNA損傷に対抗して、DNA修復など複雑かつ多様な生物機能が遺伝子情報の安定性を支えていることを学修する。</p> <p>(予習) 遺伝子の構造と働きについて参考図書を読んでどのようなものか知っておく。</p> <p>(復習) DNAの損傷と修復そして遺伝子情報の安定性についてテキストを読み返して理解を深め、生物進化について考えてみる。</p>	60~120
第12回	免疫系における異物認識	
	<p>* 免疫系での最初のポイントである免疫担当細胞がどのようにして特異的に外来抗原を識別することができるか、この抗原認識の仕組みを学び、いかにして調和のとれた反応系を維持できるのかを学修する。</p> <p>(予習) 免疫における異物とはなんであるかをあらかじめ参考図書を読んで知っておく。</p> <p>(復習) 異物認識の仕組みと調和のとれた免疫系についてテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉で説明できる。</p>	90
第13回	免疫系のシステム：自然免疫、適応免疫、早期誘導反応について	
	<p>* 免疫細胞は多様性をもつということは、特異性をもつ細胞は極めて少ないことを意味する。この少ない特異的な免疫細胞がどのように異物に対応するかを学ぶ。</p> <p>(予習) 自然免疫と適応免疫について、前回のプリントを読んで内容を確認しておくこと。</p> <p>(復習) 免疫系全体が進化とともに進歩してきたことを理解し、まとめてみる。</p>	90
第14回	生物の絶滅と地球環境	
	<p>* 生物が進化してきた過程では、数多くの種が絶滅し、新たな種が生み出されてきたことを確認する。</p> <p>* 生物の大量絶滅の原因として寒冷化、小天体の衝突、無酸素事変などについて学び、考察する。</p> <p>(予習) 地球環境の激変による生物の絶滅について参考図書を読んでどのような地球環境の変化があったのかを知っておく。</p> <p>(復習) 環境変化と生物の絶滅についてテキストを読み返して理解を深め、自分の言葉で説明する。</p>	90
第15回	生物に対する人為の影響 ―マンモスの絶滅の謎―	
	<p>* 古代の気候、氷河期と温暖化を通して人類の生活を考える。</p> <p>* マンモスの進化過程と生活行動を考える。</p> <p>* マンモスの絶滅の理由を考え、なぜ生物多様性の保全が必要なのかを考え、全体のまとめとする。</p> <p>(予習) 氷河期をはじめ古代の気候について参考図書を読んであらかじめ知っておく。</p> <p>(復習) マンモスの絶滅の原因をいろいろ考え、人為の影響についてテキストを読み返して理解し、生物の多様性の保全の重要性を考える。</p>	90
授業の方法		

授業はパワーポイントを用いて行う。講義の内容を印刷物にして配布する。各講義時間の終了10分前にその日の授業内容について課題を出すのでその課題についてレポートをまとめること。まとめるにあたっては自分の言葉で自分の考えを表現しなければならない。提出されたレポートは平常点として評価する。

成績評価の方法

各時間に提出された課題に対するレポートを1～4に評価し、15回分を合計して平常点とする。平常点の最も多いのは3で次は2, 4, 1となる。毎年、合計が50を超える人が数人います。欠席は0なので、出席して課題レポートを提出することが単位取得には必要です。期末に行うレポート試験（50点：平均が38点前後になるように採点する）の合計で成績を評価する。合計点の上位から決められた割合でSとAとし、順次B, C, Dとする。当然のことであるが、レポートには自分の考え、意見が含まれていなければならない。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

自然科学一般、特に生物学に興味を持っているとよい。また、分野を問わないが、新書を月1冊ほど読む読書量があるとよい。本を読むと文章が書けるようになります。読書量が少ない人は、是非、実行してください。

テキスト

テキスト代わりに各時間プリントを配布するので特にテキストは必要としない。プリントの内容は参考図書レベルであるので、講義をしっかりと聴くこと。また、期末のレポート作成には配布したプリントを参考資料として利用するとよい。

参考書

環境と生物進化 石川 統 日本放送出版協会 ￥2000
生物進化を考える 木村資生 岩波新書 ￥550
地球の水が危ない 高橋 裕 岩波新書 ￥700
生命と地球の歴史 丸山茂徳 磯崎行雄 岩波新書 ￥860
地球システムの崩壊 松井孝典 新潮選書 ￥1100
その他は授業中に紹介します

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	気象と地球環境		
教員名	財城 真寿美		
科目ナンバー	1201477090	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要

気象・気候および地球環境問題を理解するために、気象学と気候学の基礎的な事項の理解を深めます。身近な大気の現象から、地球規模で発生する現象や環境問題などを取り扱います。高校の地学や物理の知識があると良いですが、文系の学生にも理解できるように解説します。

到達目標

DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。天気に関する身近な現象や地球規模の現象について、メカニズムから理解し、説明できるようになることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	講義ガイダンス ・研究倫理について ・講義計画の確認	
	シラバスを読み、講義計画を確認してくること	60
第2回	大気圏の構造	
	前回の講義内容の確認	60
第3回	気圧と風(1)	
	前回の講義内容の確認	60

第4回	気圧と風（2）	
	前回の講義内容の確認	60
第5回	オーロラ	
	前回の講義内容の確認	60
第6回	放射と熱	
	前回の講義内容の確認	60
第7回	水蒸気と雲	
	前回の講義内容の確認	60
第8回	大気の大循環	
	前回の講義内容の確認	60
第9回	低気圧と高気圧	
	前回の講義内容の確認	60

第10回	台風	
	前回の講義内容の確認	60
第11回	天気図でみる日本の四季	
	前回の講義内容の確認	60
第12回	大気と海洋の相互作用 エル・ニーニョ現象, ラ・ニーニャ現象	
	前回の講義内容の確認	60
第13回	地球温暖化1 (温暖化の現状)	
	前回の講義内容の確認	60
第14回	地球温暖化2 (温暖化対策の取り組み)	
	前回の講義内容の確認	60
第15回	全講義内容の総復習	
	すべての講義内容を振り返って、不明な点については質問できるようにしておくこと	60

授業の方法

配布プリントとPCプロジェクターを使用して講義を進めます。

成績評価の方法

期末試験（持ち込み不可）の結果（90%）と、課題や発言などの講義への取り組み（10%）で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

天気に関する身近な現象や地球規模の現象について、メカニズムから理解し、説明できるスキルを習得したかどうか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

本年度は指定しません。

参考書

「百万人の天気教室」白木正規，成山堂書店，ISBN：4425511093

「図解 気象の基礎知識」二宮洸三，オーム社，ISBN：4274024733

「身近な気象学」木村龍治・新野宏，放送大学教育振興会，ISBN：4595312210

「気象と地球の環境科学」二宮洸三，オーム社，ISBN：4274201856

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。